

# 三芳町男女共同参画に関する住民意識調査 調査結果報告書

平成27年度

平成27年6月

三 芳 町



# もくじ

<b>I 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1 調査目的 .....	1
2 調査設計 .....	1
3 調査内容 .....	1
4 回収結果 .....	1
5 報告書の見方 .....	2
<b>II 基本項目</b> .....	<b>3</b>
1 居住地区 .....	3
2 性別 .....	4
3 年齢 .....	5
4 就労形態 .....	6
5 三芳町での居住年数 .....	7
6 未婚・既婚 .....	8
7 同居の家族構成 .....	9
<b>III 調査結果概要</b> .....	<b>11</b>
1 男女平等意識について .....	11
2 家庭生活（家事・子育て・介護）について .....	11
3 就業について .....	12
4 人権の尊重について .....	12
5 地域での社会参画について .....	13
6 男女共同参画社会に向けた取り組みについて .....	13
<b>IV 調査結果</b> .....	<b>15</b>
1 男女平等意識について .....	15
2 家庭生活（家事・子育て・介護）について .....	20
3 就業について .....	35
4 人権の尊重について .....	48
5 地域での社会参画について .....	60
6 男女共同参画社会に向けた取り組みについて .....	70
<b>V 自由記述意見</b> .....	<b>79</b>
<b>VI アンケート調査票</b> .....	<b>87</b>



# I 調査の概要



## 1 調査目的

第3次三芳町男女共同参画基本計画及び配偶者等暴力対策基本計画を策定するにあたり、その基礎資料とするため、三芳町における男女共同参画や配偶者等暴力に関する実態や意識を調査・把握し、本町における課題等を分析することを目的としました。

## 2 調査設計

- (1) 調査対象：三芳町内在住の住民（20歳以上の住民）
- (2) 標本数：1,000人
- (3) 抽出方法：住民基本台帳に基づく無作為抽出法
- (4) 調査方法：郵送配付－郵送回収法
- (5) 調査期間：平成27年4月下旬～平成27年5月上旬

## 3 調査内容

- (1) あなた自身について
- (2) 男女平等意識について
- (3) 家庭生活（家事・子育て・介護）について
- (4) 就業について
- (5) 人権の尊重について
- (6) 地域での社会参画について
- (7) 男女共同参画社会に向けた取り組みについて

## 4 回収結果

- (1) 標本数：1,000人
- (2) 有効回収数： 357人
- (3) 有効回収率： 35.7%

## 5 報告書の見方

- (1) 調査結果の数値は回答率『%』で標記しています。回答率の母数は、当該質問に対する回答者数です。また、複数回答の問いについても、調査結果の数値は回答率『%』で標記しています。ただし、性別や経年比較等の母数が異なるものを比較する場合は、割合の差『ポイント』で表記しています。
- (2) 集計は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。このため、回答率の合計が、100.0%にならない場合があります。また、複数回答可の質問では、母数に対する回答率のため、回答率の合計が100.0%を超える場合があります。
- (3) 本報告書では、なるべく調査票そのままの表現を用いていますが、スペース等の関係から一部省略した表現としている箇所があります。
- (4) 回答者数が少ないものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考値として示すにとどめている場合があります。



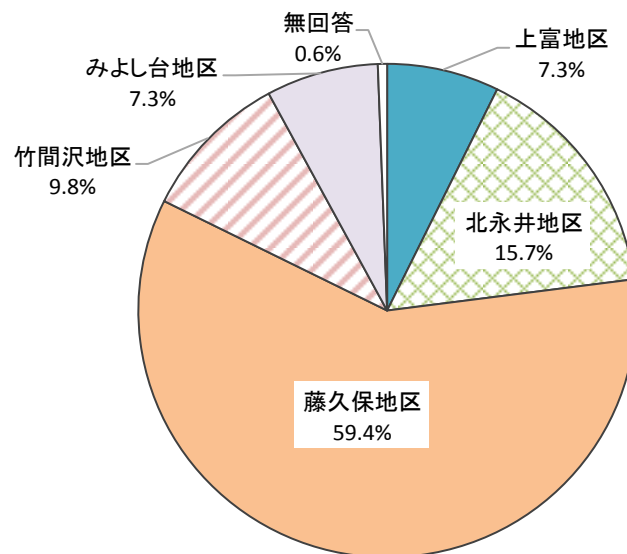
## II 基本項目



## 1 居住地区

「上富地区」が 7.3%、「北永井地区」が 15.7%、「藤久保地区」が 59.4%、「竹間沢地区」が 9.8%、「みよし台地区」が 7.3%となっています。

n=357

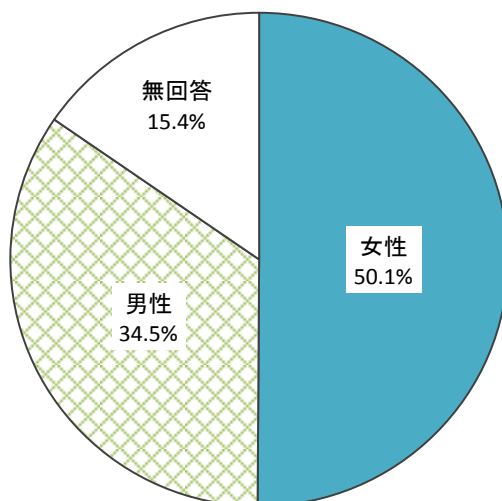


## 2 性別

---

「女性」が 50.1%、「男性」が 34.5%となっています。

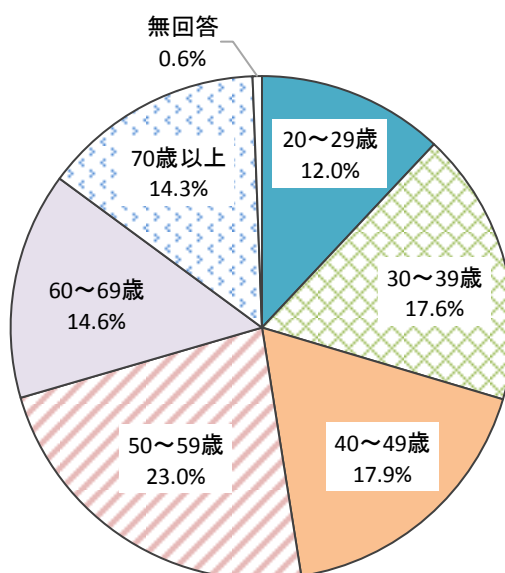
n=357



### 3 年齢

「20～29歳」が12.0%、「30～39歳」が17.6%、「40～49歳」が17.9%、「50～59歳」が23.0%、「60～69歳」が14.6%、「70歳以上」が14.3%となっています。

n=357



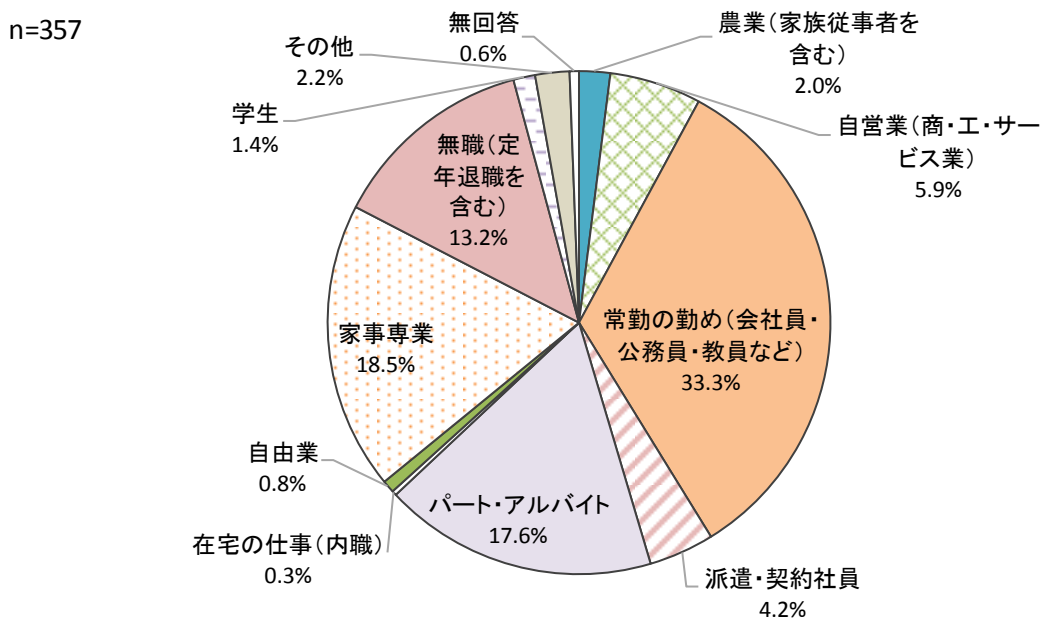
※次頁以降、年代別集計においては、以下のように表記します。

20～29歳	・・・20歳代	30～39歳	・・・30歳代	40～49歳	・・・40歳代
50～59歳	・・・50歳代	60～69歳	・・・60歳代	70歳以上	・・・70歳以上

## 4 就労形態

「常勤の勤め（会社員・公務員・教員など）」が33.3%で最も高く、次いで「家事専業」が18.5%、「パート・アルバイト」が17.6%、「無職（定年退職を含む）」が13.2%と続いています。

年代別では、20歳代から50歳代までは「常勤の勤め」が最も高く、60歳代では「パート・アルバイト」と「家事専業」がともに2割を占め、70歳以上では「無職」が過半数を占めています。



《年代》

単位：%

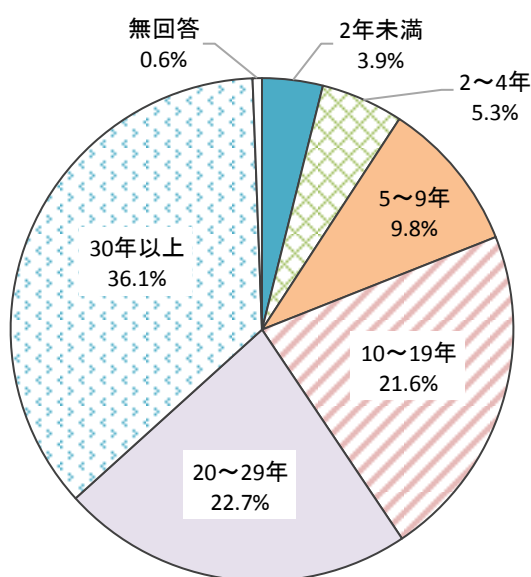
	農業 (家族従事者を含む)	自営業 (商・工・サービス業)	常勤の勤め (会社員・公務員・教員など)	派遣・契約社員	パート・アルバイト	在宅の仕事 (内職)	自由業	家事専業	無職 (定年退職を含む)	学生	その他	無回答
全体(n=357)	2.0	5.9	33.3	4.2	17.6	0.3	0.8	18.5	13.2	1.4	2.2	0.6
20歳代(n=43)	-	2.3	46.5	2.3	20.9	-	-	11.6	7.0	9.3	-	-
30歳代(n=63)	-	1.6	42.9	7.9	12.7	-	-	23.8	7.9	-	1.6	1.6
40歳代(n=64)	1.6	3.1	37.5	6.3	25.0	1.6	1.6	15.6	1.6	1.6	4.7	-
50歳代(n=82)	3.7	12.2	46.3	1.2	20.7	-	-	13.4	-	-	2.4	-
60歳代(n=52)	3.8	9.6	19.2	5.8	21.2	-	1.9	21.2	15.4	-	1.9	-
70歳以上(n=51)	2.0	3.9	-	2.0	3.9	-	2.0	25.5	58.8	-	2.0	-

## 5 三芳町での居住年数

「30年以上」が36.1%で最も高く、次いで「20～29年」が22.7%、「10～19年」が21.6%、「5～9年」が9.8%と続いています。

年代別では、いずれの年代においても過半数が居住年数10年を超えています。特に、70歳以上では「30年以上」が8割を占めています。

n=357



《年代》

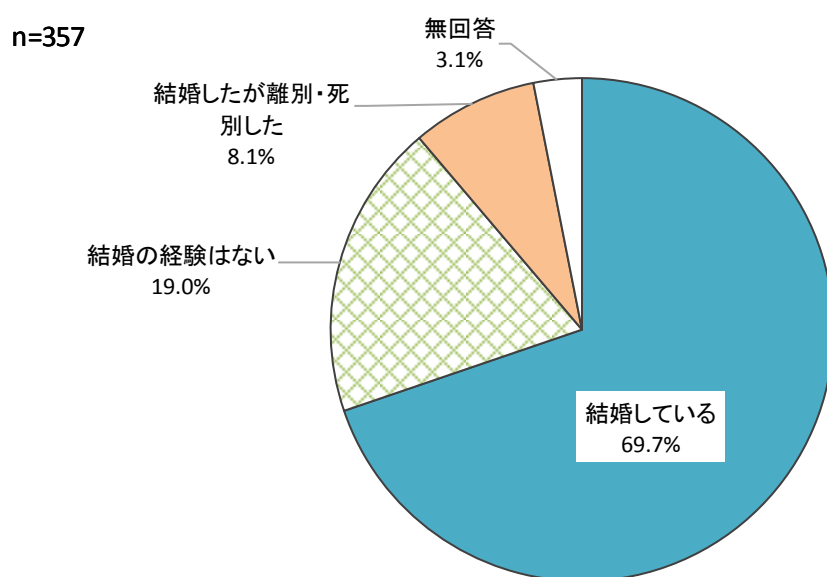
単位:%

	2年未満	2～4年	5～9年	10～19年	20～29年	30年以上	無回答
全体(n=357)	3.9	5.3	9.8	21.6	22.7	36.1	0.6
20歳代(n=43)	11.6	11.6	4.7	20.9	48.8	2.3	-
30歳代(n=63)	6.3	11.1	22.2	17.5	12.7	30.2	-
40歳代(n=64)	3.1	6.3	14.1	32.8	15.6	26.6	1.6
50歳代(n=82)	1.2	2.4	7.3	28.0	32.9	28.0	-
60歳代(n=52)	-	1.9	3.8	19.2	21.2	53.8	-
70歳以上(n=51)	3.9	-	3.9	5.9	5.9	80.4	-

## 6 未婚・既婚(見届を含む)

「結婚している」が69.7%、「結婚の経験はない」が19.0%、「結婚したが離別・死別した」が8.1%、となっています。

年代別では、年代が高くなるにしたがって「結婚している」が高くなっていますが、60歳代と70歳以上では、「結婚したが離別・死別した」がともに約15%となっています。



《年代》

単位:%

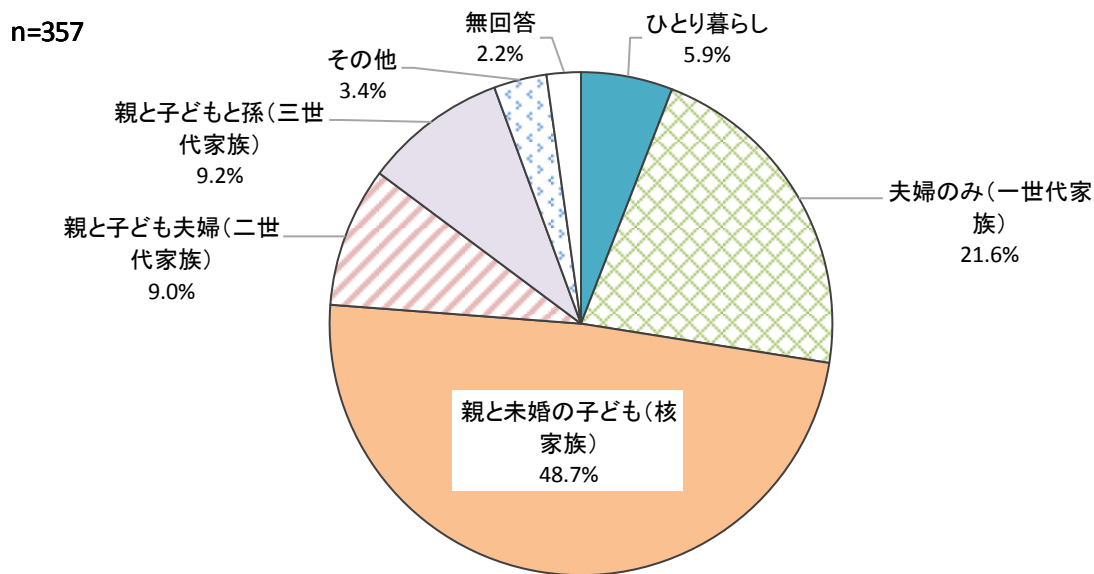
	結婚している	結婚の経験はない	結婚したが離別・死別した	無回答
全体 (n=357)	69.7	19.0	8.1	3.1
20歳代 (n=43)	23.3	74.4	-	2.3
30歳代 (n=63)	57.1	34.9	4.8	3.2
40歳代 (n=64)	70.3	17.2	7.8	4.7
50歳代 (n=82)	87.8	3.7	6.1	2.4
60歳代 (n=52)	82.7	-	15.4	1.9
70歳以上 (n=51)	84.3	-	15.7	-



## 7 同居の家族構成

「親と未婚の子ども（核家族）」が48.7%で最も高く、次いで「夫婦のみ（一世代家族）」が21.6%、「親と子どもと孫（三世代家族）」が9.2%、「親と子ども夫婦（二世世代家族）」が9.0%と続いています。

年代別では、20歳代から60歳代までは「親と未婚の子ども（核家族）」が最も高くなっていますが、70歳以上では「夫婦のみ（一世代家族）」が4割強で最も高くなっています。



《年代》

単位:%

	ひとり暮らし	夫婦のみ(一世代家族)	親と未婚の子ども(核家族)	親と子ども夫婦(二世世代家族)	親と子どもと孫(三世代家族)	その他	無回答
全体(n=357)	5.9	21.6	48.7	9.0	9.2	3.4	2.2
20歳代(n=43)	11.6	11.6	48.8	9.3	11.6	4.7	2.3
30歳代(n=63)	4.8	9.5	66.7	11.1	6.3	1.6	-
40歳代(n=64)	3.1	15.6	62.5	4.7	9.4	3.1	1.6
50歳代(n=82)	4.9	18.3	48.8	15.9	7.3	1.2	3.7
60歳代(n=52)	7.7	36.5	38.5	3.8	5.8	5.8	1.9
70歳以上(n=51)	5.9	41.2	21.6	5.9	17.6	5.9	2.0



### **III 調査結果概要**



## 1 男女平等意識について

---

- 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、男女ともに6割が否定的な考えを示しており、前回調査時から割合が高くなっています。(問2・P15～17)
- 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、肯定的な意見の理由は、女性では社会的な要因であるとする意見が多くなっていますが、男性では固定的な性別役割分担意識が強くなっています。(問2-①・P18)
- 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、否定的な意見の理由は、女性では「家事・育児は男女で協力してやるべきだから」、「仕事と家庭は男女のどちらが分担してもよいから」という家庭を重視した意見が多くなっていますが、男性では「性別で役割を固定化することは個人の可能性を狭めるから」、「男女ともに仕事を持つのは当然だから」という個人を重視した意見が多くなっています。(問2-②・P19)

## 2 家庭生活(家事・子育て・介護)について

---

- 日常生活の役割について、「洗濯」や「食事の仕度」、「掃除」などの家事と、「育児・子育て」や「学校行事等の参加」などの子育てについては、女性が多くの役割を担っています。男性では、「ごみ出し」や「食料品・日用品の買い物」といった仕事の行き帰りに担える役割が比較的高くなっています。なお、要介護者の介護では性別による差は見られません。(問3・P20, 21)
- 「生徒の名簿は、五十音順にするなど混合名簿にし、男女で分けないほうがよい」とする考えについて、女性では6割強が否定的な意見で、慎重な姿勢が示されています。(問5・P24, 25)
- 「男の子は男らしく、女の子は女らしく、育てるべきである」とする考えについて、否定的な意見が前回調査時より高くなっています。(問5・P24, 25)
- 少子化の要因について、「子育ては経済的負担が大きいから」が20歳代～40歳代で高くなっており、前回調査時から割合が高くなっています。また、20歳代と30歳代では、「保育施設、育児休暇などが十分整っていないから」が続いています。(問6・P26～28)
- 性別にかかわらず家事・子育て・介護を積極的に行っていくために必要なことについて、「企業等が男女ともに仕事と家庭生活を両立できる職場環境を整える」、「育児・介護休業制度の一層の普及を図る」、「フレックスタイム制や在宅勤務などを普及させる」など、就労環境に関する項目が上位になっています。(問9・P33～34)

### 3 就業について

---

- 現在働いている方の、働いて収入を得ている理由について、男性では「生計を維持するため」が7割を占めていますが、女性では「将来に備えて貯蓄するため」や「生活費補助のため」など多様な理由が挙げられています。(問10-①・P37,38)
- 現在働いている方の、職場での女性に対する仕事の内容や待遇面について、過半数が「特に男女差はない」としており、前回調査時よりも割合が高くなっています。しかし、「賃金に男女差がある」や「能力を正当に評価しない」などの意見がいずれも女性では2割となっており、前回調査時から微増している状況です。(問10-②・P39,40)
- 女性の働き方について、女性の8割強は仕事を続けることが望ましいと回答しています。子育ての時期に一時退職した後は、20歳代ではフルタイム、30歳代から50歳代ではパートタイムでの就労希望が比較的高くなっています。(問11・P42~44)
- 女性が長く働き続けるのを困難にしていることは、「家事・育児との両立」が男女ともに8割弱を占めています。また、職場の条件・制度や社会システムなど、様々な困難があり、前回調査時からの大きな変化は見られません。(問12・P45~47)

### 4 人権の尊重について

---

- 職場や学校などで、セクシャル・ハラスメントを受けた経験や見たり聞いたりしたことについて、全体の4分の1が「ある」と回答しています。内容としては、差別的な発言をされたり、不必要に触られたり、容姿や年齢を話題にされたりなどで、女性の方が全体的に高い割合を占めています。(問13、問13-①・P48~50)
  - 配偶者や親密な関係にある人からの暴力(DV)について、全体の3割強が何らかの行為を受けたことがあると回答しています。内容としては、「暴言・大声でどなる」、「何を言っても、長時間の無視」、「危害の不安・恐怖を感じるようなおどし」など相手に触れない間接的な暴力が比較的高い割合となっており、女性の方が全体的に高い割合を占めています。(問14・P51~54)
  - 配偶者や親密な関係にある人からの暴力(DV)を受けた際の相談について、女性では3割弱が相談したと回答していますが、男性では相談せず、7割強が相談しようとは思わなかったと回答しており、男女ともに相談した方の割合が減少しています。相談できなかった、または相談しようとは思わなかった主な理由について、相談するほどのことではないという理由の他に、相談しても無駄、自分さえ我慢すればやっつけていける、自分にも落ち度があるなどが上位を占め、問題を抱え込んでいる状況があることが考えられます。(問14-①,②・P55~58)
- ※P51の結果(13項目のうち1つ以上「何度もあった」と回答した方)から、三芳町に住む20歳以上の町民のおよそ4,250人(標本誤差±1,120人)は何らかのDVの経験がある(あった)ことが推計されます。なお、ア~ウの直接的な暴力に限定すると、およそ610人(標本誤差±450人)と推計されます。

## 5 地域での社会参画について

---

- 地域活動への参加について、年代が高くなるにしたがって参加率は高くなっており、70歳以上では6割弱が何かしらの地域活動へ参加しています。逆に20歳代では8割強が何もしていないと回答しています。町会や自治会、趣味、教養、スポーツ等の活動で参加率が比較的高くなっています。なお、参加していない理由としては、「仕事が忙しい」が最も高く、前回調査時より割合が高くなっています。一方、「情報がない」が2割を占めていますが、男女ともに前回調査時より割合は低くなっています。(問16-①・P63~65)
- 地域活動において会長やリーダーに女性が少ない原因について、「女性自身がリーダーになりたがらないから」という女性自身に対する意見が男性では5割弱、女性では4割強を占めています。一方、女性では、「家事・育児などで地域活動に専念できないから」が4割弱を占め、20歳代、30歳代では「男性がリーダーとなるのが社会習慣だから」、「女性では、相手に軽く見られるから」、「女性がリーダーだと男性がついてこないから」の割合が比較的高くなっており、社会的な背景を理由とする意見も挙げられています。(問17・P66, 67)

## 6 男女共同参画社会に向けた取り組みについて

---

- 男女共同参画社会の実現に向けて必要なことは、男女ともに「差別的な社会的しきたり・慣習を改める」が半数を超え、前回調査時より高い割合を占めています。また、男女ともに全体的に前回調査時より高い割合を占めており、問題意識の高まりが見られます。(問19・P70~72)
- 男女共同参画に関する言葉について、「男女雇用機会均等法」や「育児介護休業法」、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」などで認知度が高くなっていますが、町の計画や情報誌などでは認知度が低くなっています。(問21・P74, 75)
- 今後、三芳町が男女共同参画推進施策として力を入れるべきことは、「高齢者や病人の介護制度や施設の充実」、「育児や保育など子育て支援の充実」、「女性の就労支援や再就職に役立つ学習機会の提供」、「相談窓口の充実」などが上位に挙げられています。男女ともに全体的に前回調査時より高い割合を占めており、問19と同様に問題意識の高まりが見られるとともに、より一層の施策の充実が求められます。(問22・P76~78)





## **IV 調査結果**

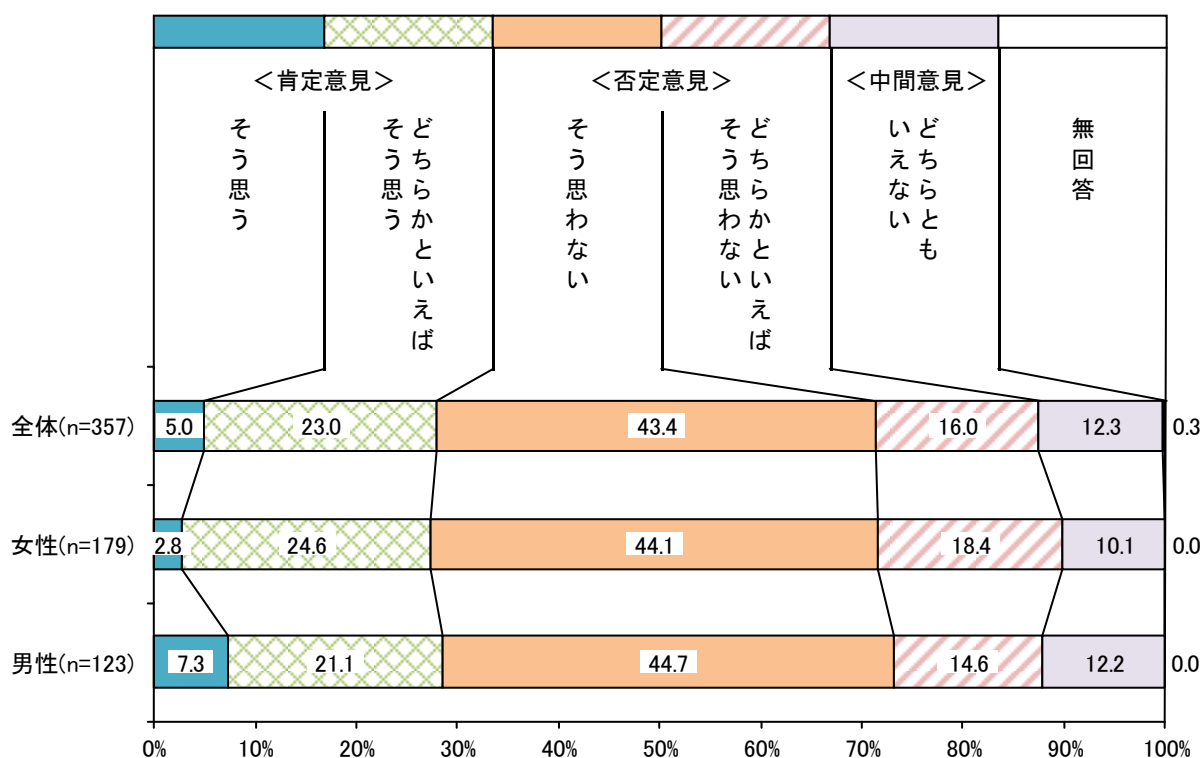


## 1 男女平等意識について

### 【問2】

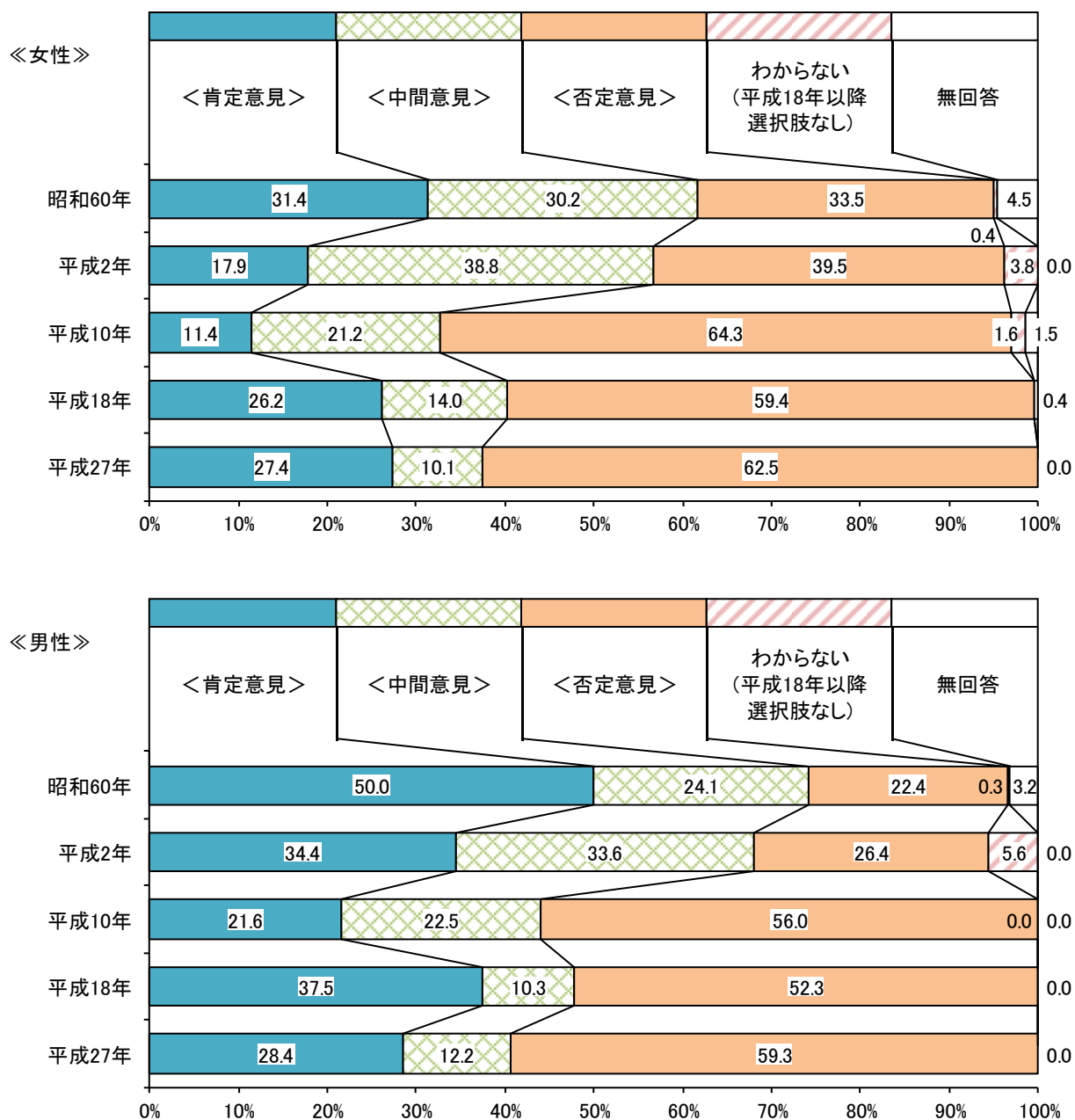
「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。(○は1つだけ)

全体では「そう思わない」が43.4%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が23.0%、「どちらかといえばそう思わない」が16.0%、「どちらともいえない」が12.3%と続いています。男女ともに、およそ6割が<否定意見>となっています。



## 【経年比較】

経年比較では、男女ともに<否定意見>が前回調査時より高くなっています。  
また、男性では<肯定意見>が前回調査時より 9.1 ポイント低くなっています。

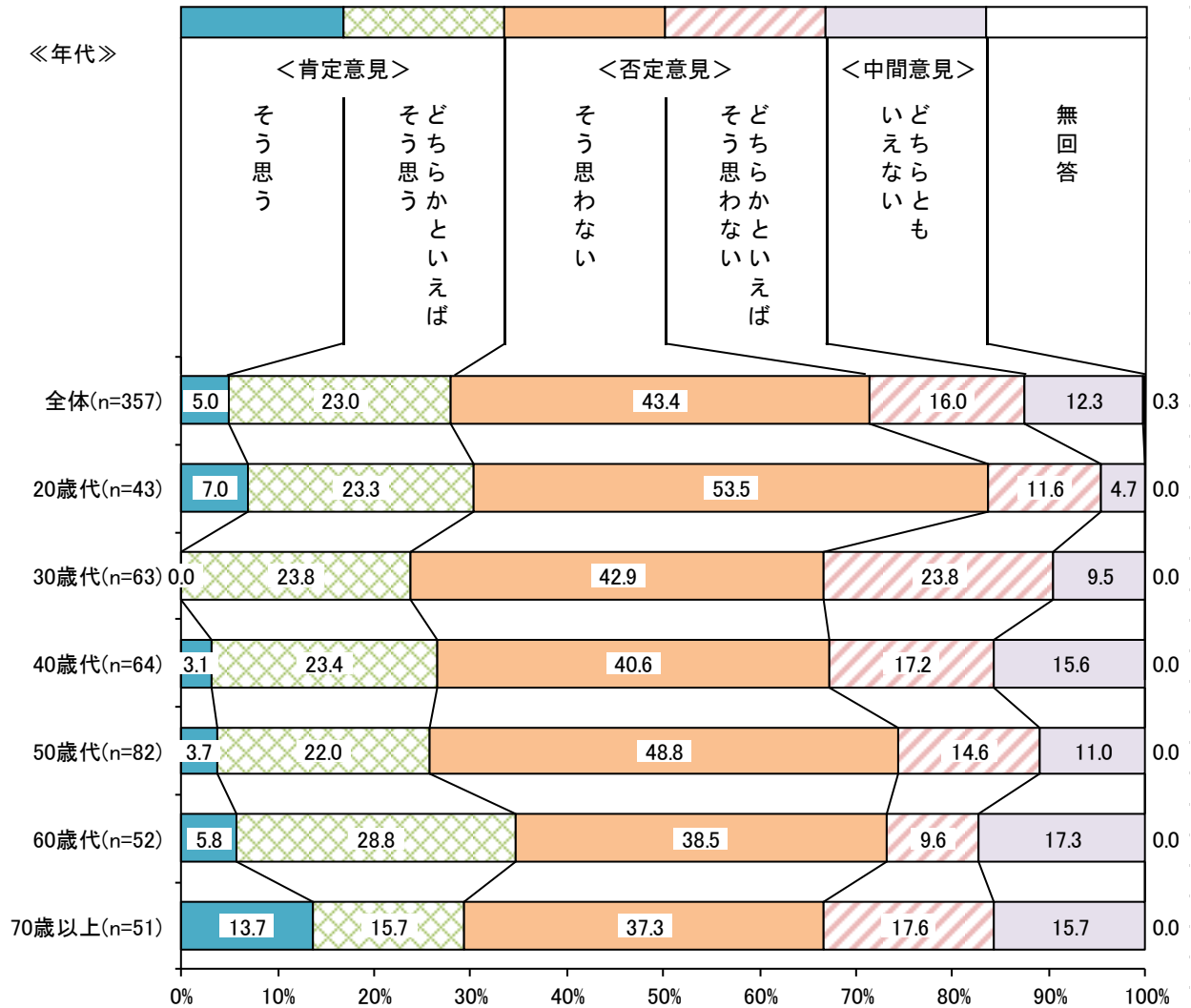


### 【年代別】

いずれの年代においても、＜否定意見＞が＜肯定意見＞を上回っています。

その差（＜否定意見＞－＜肯定意見＞）は30歳代で最も大きく、42.9ポイントとなっています。また、30歳代では「そう思う」が0.0%となっています。

一方、60歳代では13.5ポイント、70歳代上では25.5ポイントと差が小さくなっています。



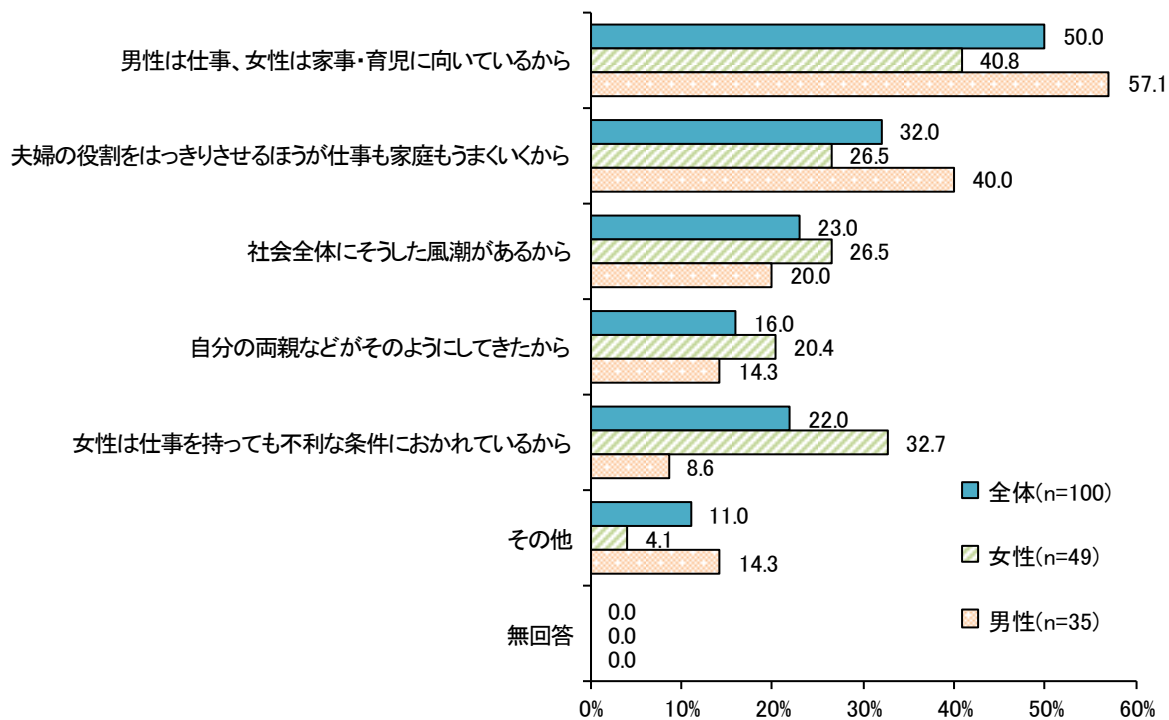
【問2-①】

前問（問2）で「1 そう思う」「2 どちらかといえばそう思う」とお答えの方  
 あなたが、そう思う主な理由は何ですか。（〇は2つまで）

全体では「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」が50.0%で最も高く、次いで「夫婦の役割をはっきりさせるほうが仕事も家庭もうまくいくから」が32.0%、「社会全体にそうした風潮があるから」が23.0%、「女性は仕事を持っても不利な条件におかれているから」が22.0%と続いています。

女性では「社会全体にそうした風潮があるから」、「自分の両親などがそのようにしてきたから」、「女性は仕事を持っても不利な条件におかれているから」が男性より高くなっており、社会的な要因であるとする意見が多くなっています。

一方、男性では「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」、「夫婦の役割をはっきりさせるほうが仕事も家庭もうまくいくから」が女性よりも高く、女性よりも固定的な性別役割分担意識が強いことがわかります。



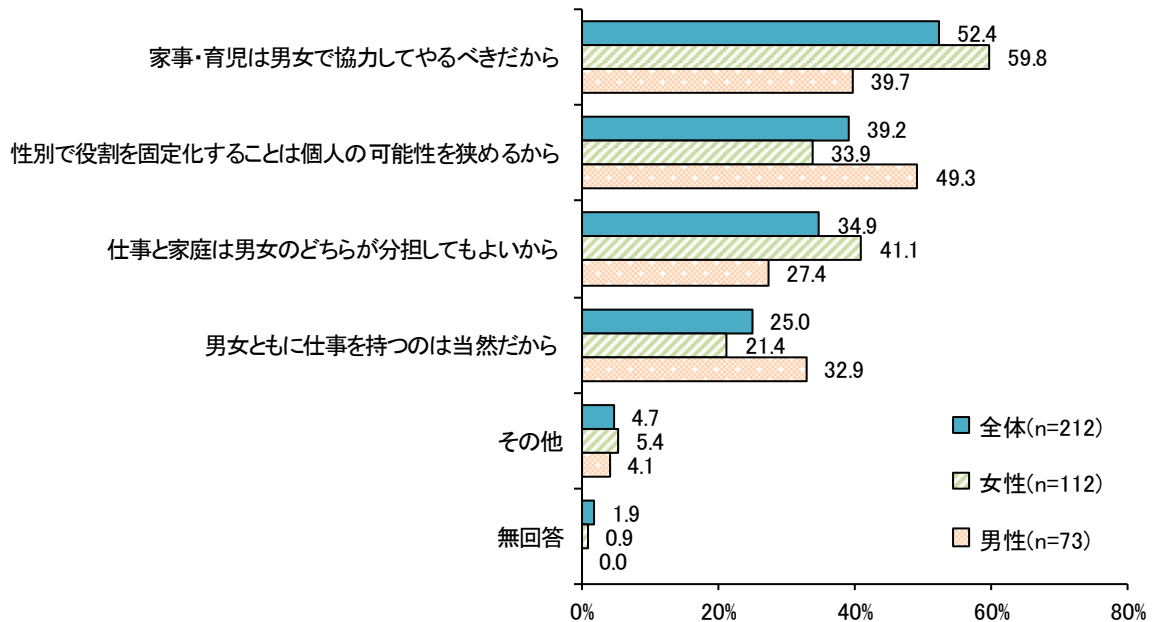
【問2-②】

前問（問2）で「3 そう思わない」「4 どちらかといえばそう思わない」とお答えの方  
 あなたが、そう思う主な理由は何ですか。（〇は2つまで）

全体では「家事・育児は男女で協力してやるべきだから」が52.4%で最も高く、次いで「性別で役割を固定化することは個人の可能性を狭めるから」が39.2%、「仕事と家庭は男女のどちらが分担してもよいから」が34.9%、「男女ともに仕事を持つのは当然だから」が25.0%と続いています。

女性では「家事・育児は男女で協力してやるべきだから」、「仕事と家庭は男女のどちらが分担してもよいから」が男性より高くなっており、協力・分担の意識が強いことがわかります。

一方、男性では「性別で役割を固定化することは個人の可能性を狭めるから」、「男女ともに仕事を持つのは当然だから」が女性より高くなっていきます。



## 2 家庭生活(家事・子育て・介護)について

---

### 【問3】

あなたは、(ア)～(ケ)にあげることを日常どの程度おこなっていますか。(○はそれぞれ1つ)

「いつもしている」について、女性では「洗濯」が78.2%で最も高く、次いで「食事の仕度」が72.1%、「食料品・日用品の買い物」が68.2%、「掃除」が68.7%と続いています。

一方、男性では「ごみ出し」が27.6%で最も高く、次いで「食料品・日用品の買い物」が24.4%、「掃除」が20.3%、「食事の支度」が17.1%と続いており、女性より低い水準にとどまっています。

男女差(女性の割合－男性の割合)が大きい順にみると、「洗濯」が63.6ポイントで最も大きく、次いで「食事の支度」が55.0ポイント、「掃除」が48.4ポイント、「食料品・日用品の買い物」が43.8ポイントと続いています。

「いつもしている」と「ときどきする」を合わせると、女性では「いつもしている」における上位2項目が9割を超え、上位5項目が8割を超えています。

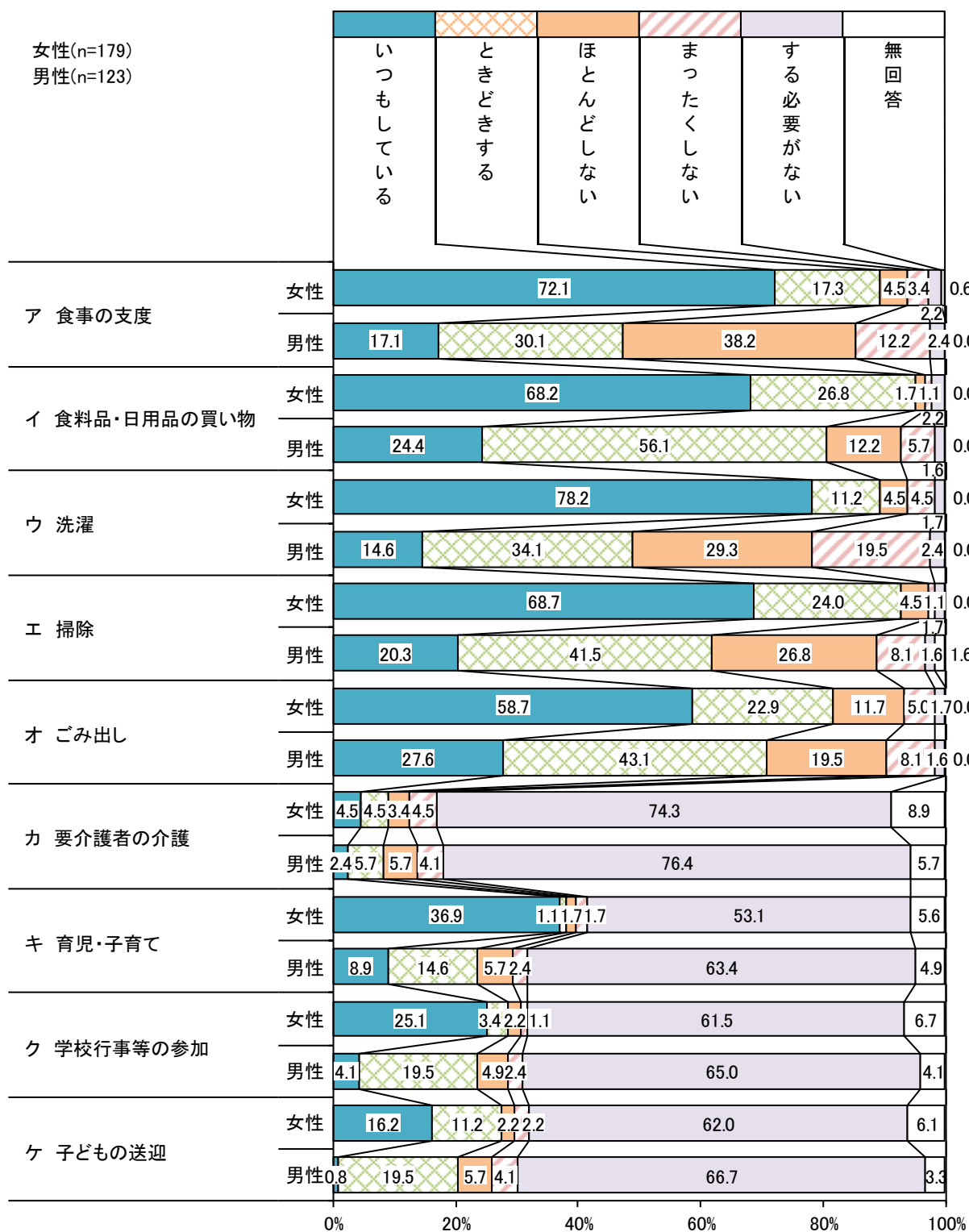
男性では「食料品・日用品の買い物」が80.5%、「ごみ出し」が70.7%と高くなっています。

「ほとんどしない」と「しない」を合わせると、女性では「ごみ出し」が16.7%で唯一1割を超えています。

男性では「食事の支度」が50.4%で最も高く、次いで「洗濯」が48.8%、「掃除」が34.9%、「ごみ出し」が27.6%と続いています。

また、「要介護者の介護」は性別による大きな差は見られませんが、子育てについては、「いつもしている」の男女差が「育児・子育て」では28.0ポイント、「学校行事等の参加」では21.0ポイント、「子どもの送迎」が15.4ポイントとなっています。





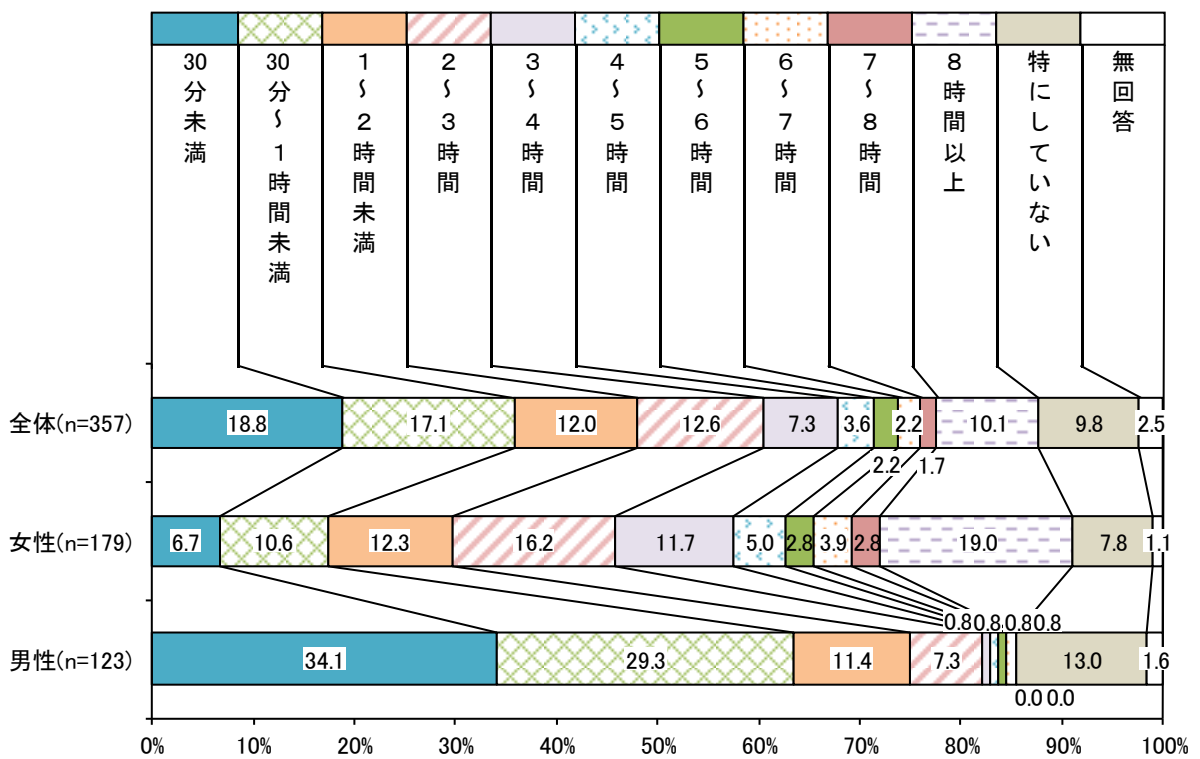
【問4】

平日にあなたが家事・子育て・介護にかかわる時間は、平均すると1日何時間くらいになりますか。  
 (〇は1つだけ)

全体では「30分未満」が18.8%で最も高く、次いで「30分～1時間未満」が17.1%、「2～3時間」が12.6%、「1～2時間未満」が12.0%と続いています。

女性では「8時間以上」が19.0%で最も高く、次いで「2～3時間」が16.2%、「1～2時間未満」が12.3%、「3～4時間」が11.7%と続いています。

男性では「30分未満」が34.1%で最も高く、次いで「30分～1時間未満」が29.3%と続いており、1時間未満が63.4%を占めています。

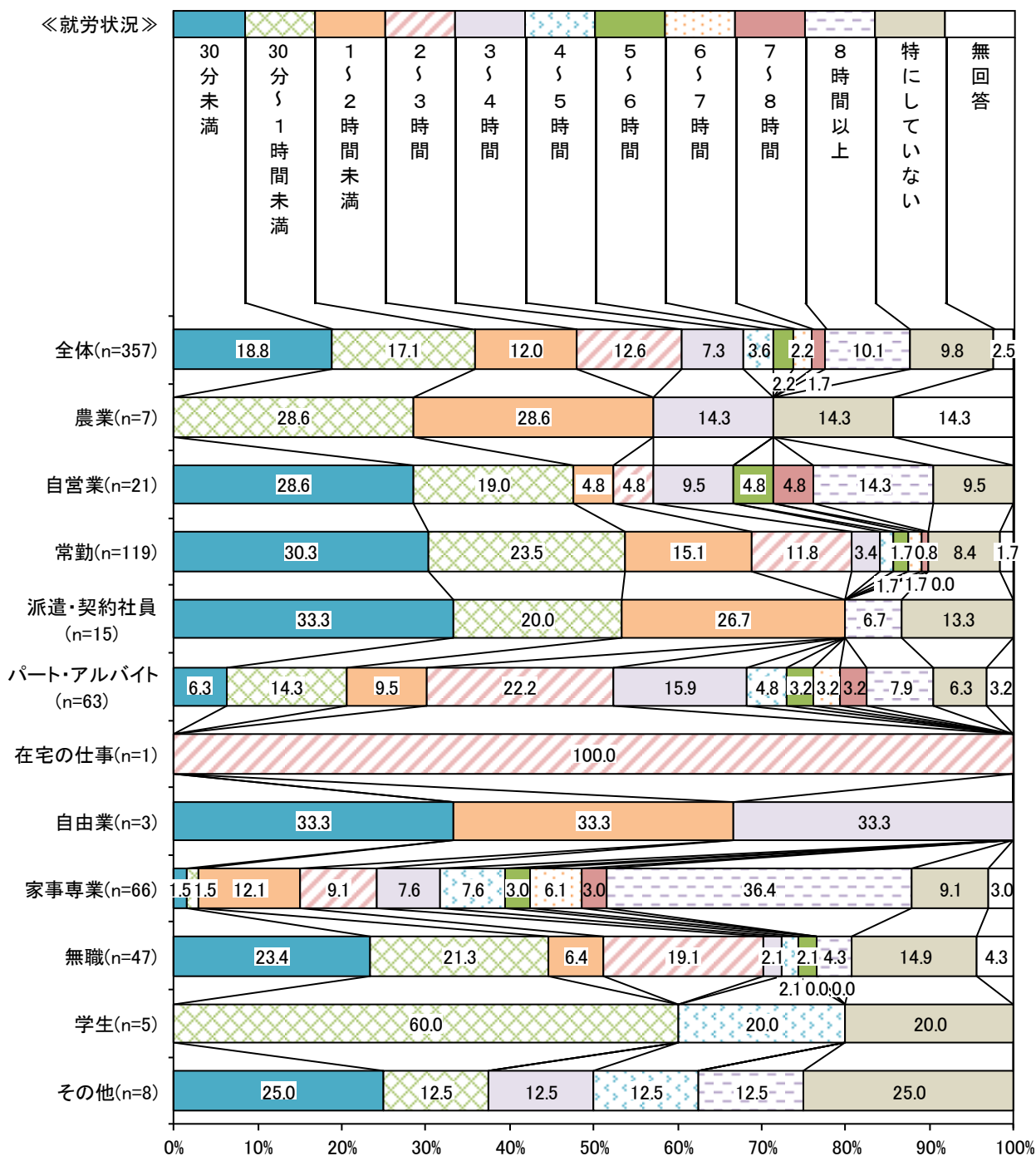


### 【就労状況】

常勤では「30分未満」が30.3%で最も高く、次いで「30分～1時間未満」が23.5%と続いており、家事・子育て・介護にかかわる時間が少ないことがわかります。

一方、パート・アルバイトでは「2～3時間」が22.2%で最も高く、次いで「3～4時間」が15.9%と続いており、常勤より比較的長い時間かかわっていることがわかります。

なお、家事専業では「8時間以上」が36.4%を占めています。

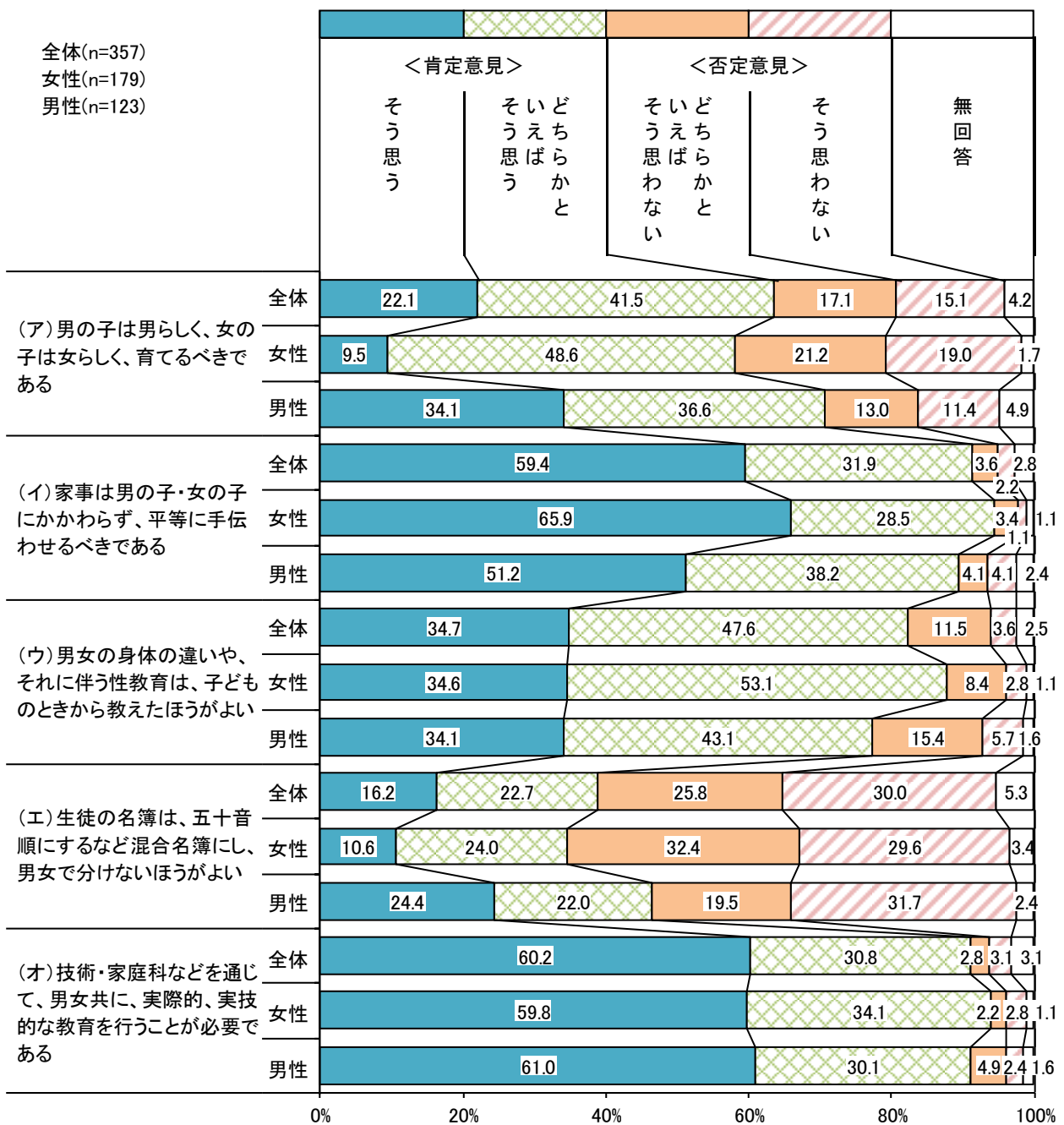


【問5】

家庭での子育てや、学校での教育に関する（ア）～（オ）の考え方について、あなたはどのように思いますか。（〇はそれぞれ1つ）

「（エ）生徒の名簿は、五十音順にするなど混合名簿にし、男女で分けないほうがよい」以外の項目については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた<肯定意見>が過半数を占めています。

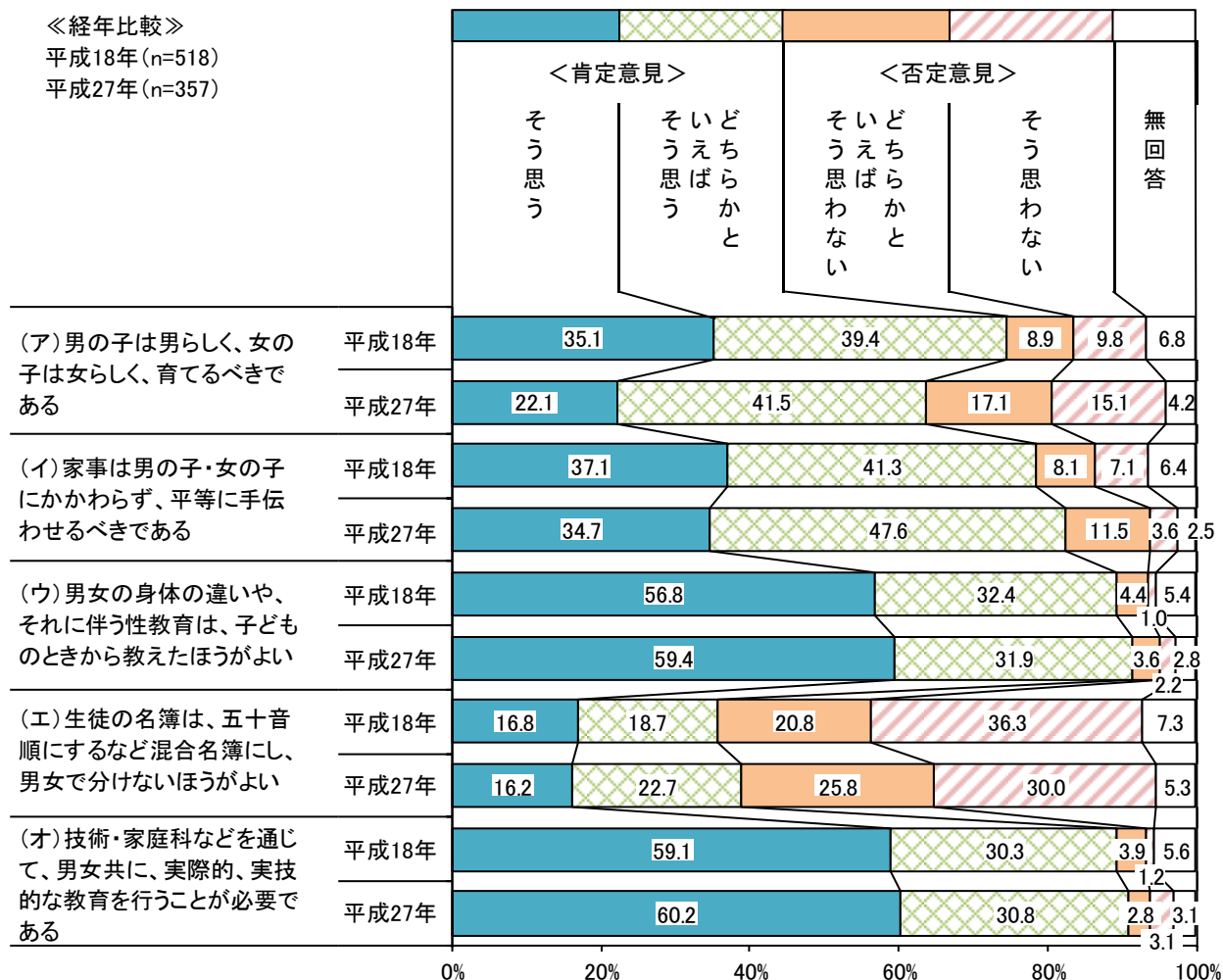
（エ）については、全体で55.8%が<否定意見>で、特に女性では62.0%となっています。



【経年比較】

「(ア) 男の子は男らしく、女の子は女らしく、育てるべきである」では「そう思う」が前回調査時より 13.0 ポイント低くなり、＜否定意見＞が 13.5 ポイント高くなっています。

(ア) 以外の項目では、前回調査時との大きな差は見られません。



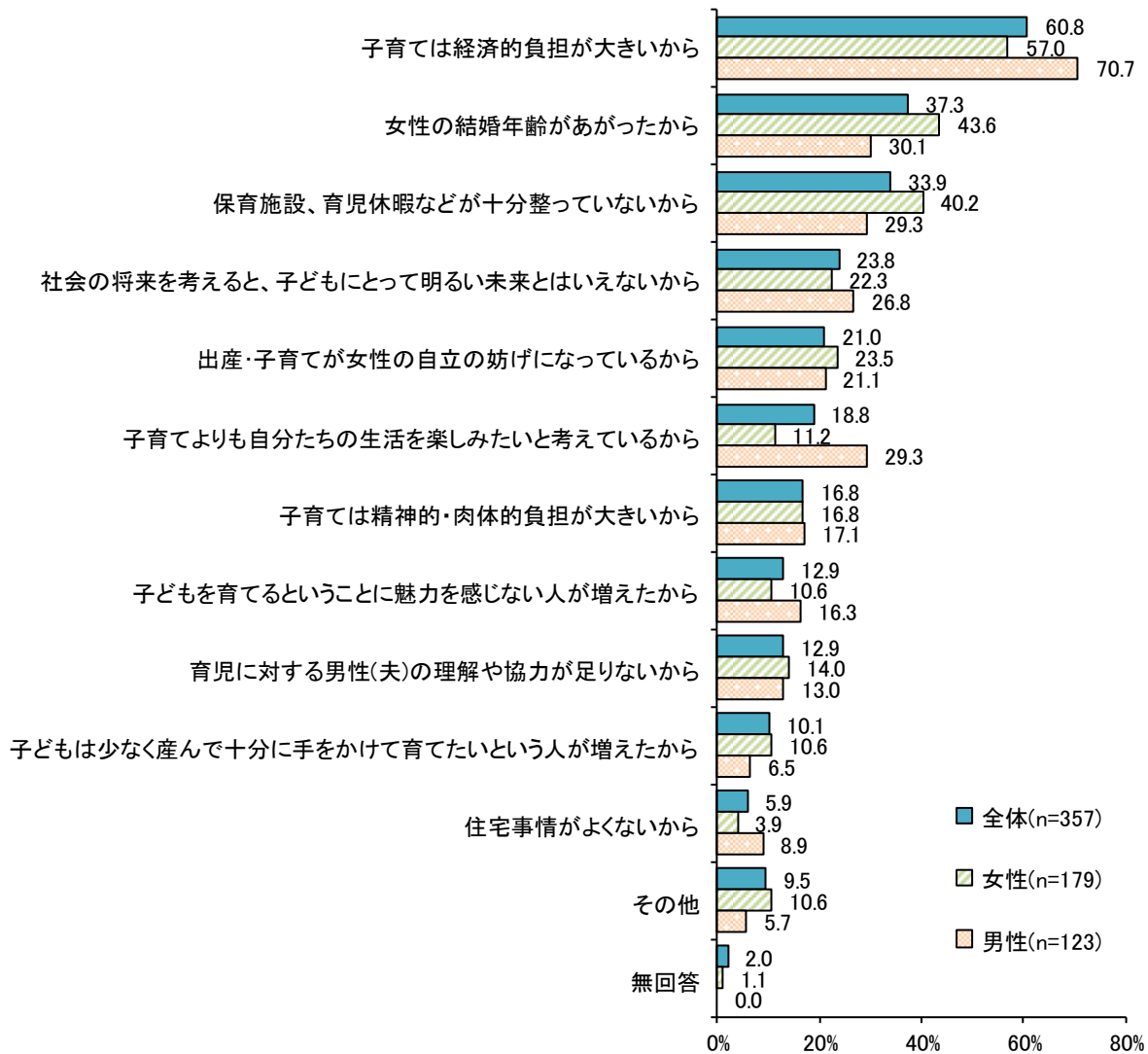
【問6】

一人の女性が生涯に産む子どもの数の平均は、1.43人（2013年）となっています。少子化の要因は何だと思いますか。（〇は3つまで）

全体では「子育ては経済的負担が大きいから」が60.8%で最も高く、次いで「女性の結婚年齢があがったから」が37.3%、「保育施設、育児休暇などが十分整っていないから」が33.9%、「社会の将来を考えると、子どもにとって明るい未来とはいえないから」が23.8%と続いています。

女性では「女性の結婚年齢があがったから」、「保育施設、育児休暇などが十分整っていないから」が男性より10ポイント以上高くなっています。

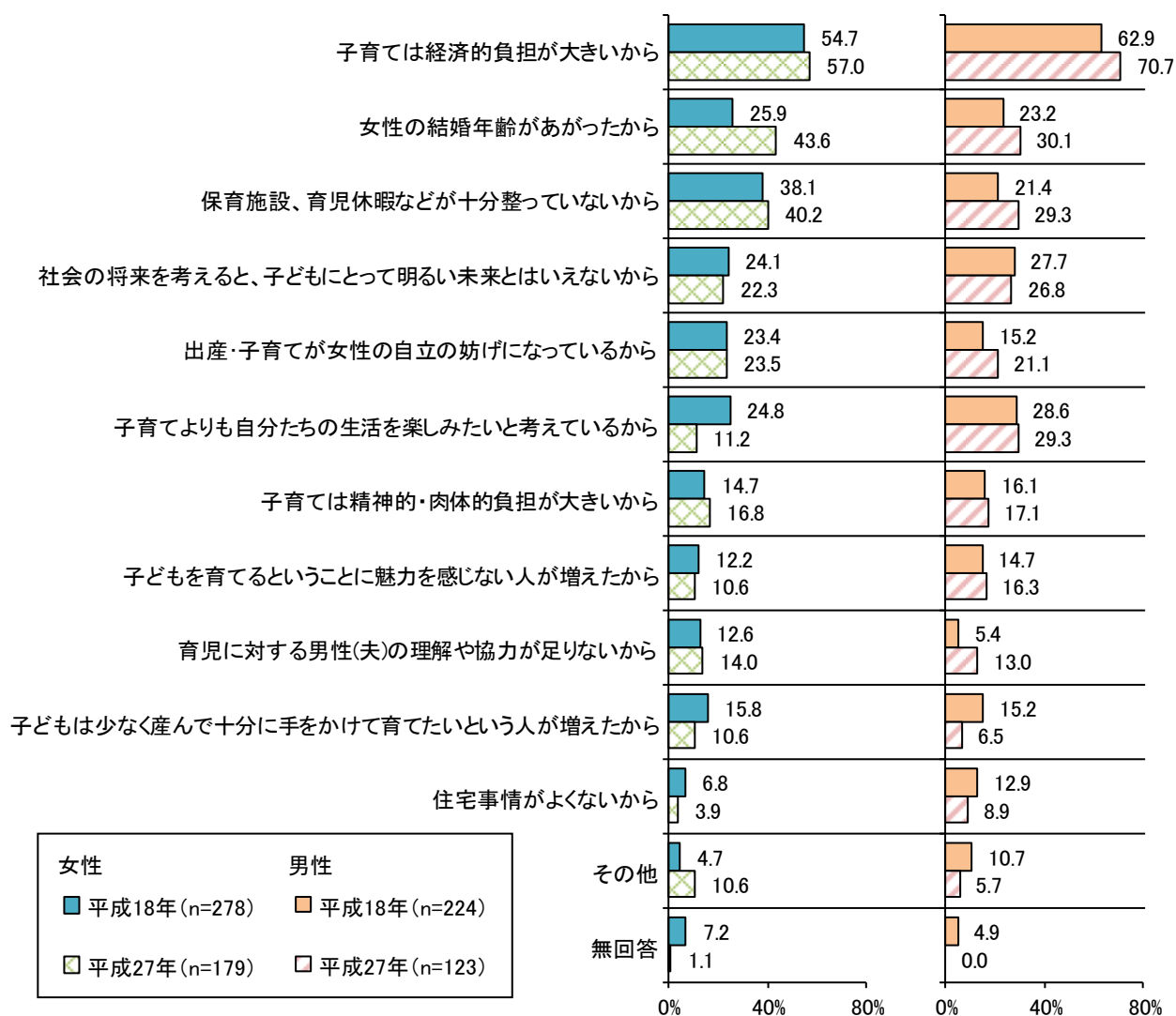
一方、男性では「子育ては経済的負担が大きいから」、「子育てよりも自分たちの生活を楽しみたいと考えているから」が女性より10ポイント以上高くなっています。



### 【経年比較】

男女ともに上位3項目では割合が上昇しており、特に女性では「女性の結婚年齢があがったから」が17.7ポイント高くなっています。

逆に、「子育てよりも自分たちの生活を楽しまたいと考えているから」については、女性では13.6ポイント低くなっています。



【年代】

いずれの年代においても、全体の上位3項目の割合が高くなっています。

20歳代では「出産・子育てが女性の自立の妨げになっているから」が年代別では唯一3割を超え30.2%となっており、また「子育ては精神的・肉体的負担が大きいから」が23.3%を占めています。

《年代》

単位:%

	子育ては経済的負担が大きいから	女性の結婚年齢があがったから	保育施設、育児休暇などが十分整っていないから	出産・子育てが女性の自立の妨げになっているから	子育てよりも自分たちの生活を楽しみたいと考えているから	子育ては精神的・肉体的負担が大きいから	子どもを育てることに魅力を感じない人が増えたから	育児に対する男性(夫)の理解や協力が足りないから	子どもは少なく産んで十分に手をかけて育てたいという人が増えたから	住宅事情がよくないから	その他	無回答
全体(n=357)	60.8	37.3	33.9	21.0	18.8	16.8	12.9	12.9	10.1	5.9	9.5	2.0
20歳代(n=43)	69.8	37.2	44.2	30.2	20.9	23.3	9.3	2.3	4.7	2.3	7.0	-
30歳代(n=63)	60.3	36.5	41.3	22.2	23.8	19.0	15.9	11.1	6.3	-	12.7	1.6
40歳代(n=64)	73.4	35.9	21.9	18.8	15.6	12.5	12.5	14.1	12.5	7.8	17.2	-
50歳代(n=82)	59.8	37.8	32.9	22.0	20.7	18.3	14.6	15.9	9.8	3.7	8.5	-
60歳代(n=52)	51.9	36.5	42.3	19.2	9.6	15.4	7.7	9.6	11.5	9.6	7.7	5.8
70歳以上(n=51)	51.0	41.2	23.5	13.7	21.6	11.8	13.7	21.6	15.7	13.7	2.0	5.9

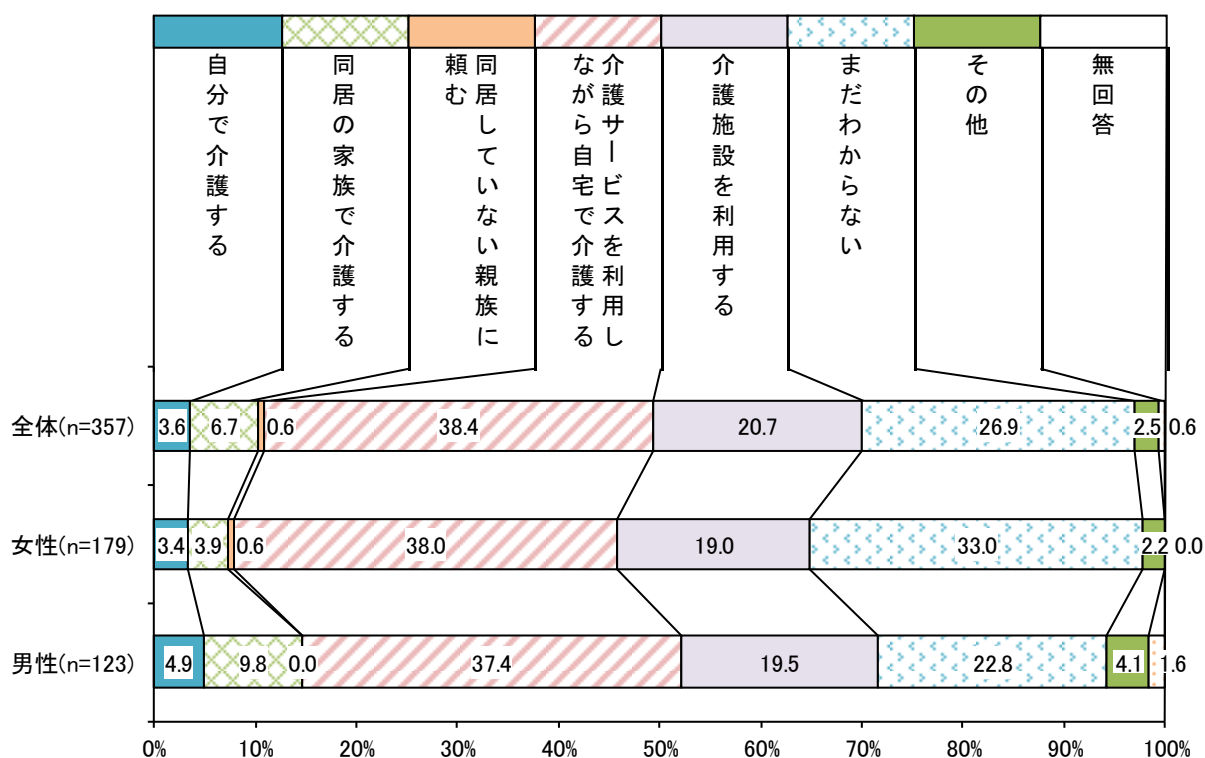


【問7】

あなたの家族の中で介護の必要な方が出た場合に、どのように対応しますか。現在介護をしている方は、今後の希望としてお答えください。(〇は1つだけ)

全体では「介護サービスを利用しながら自宅で介護する」が38.4%で最も高く、次いで「まだわからない」が26.9%、「介護施設を利用する」が20.7%、「同居の家族で介護する」が6.7%と続いています。

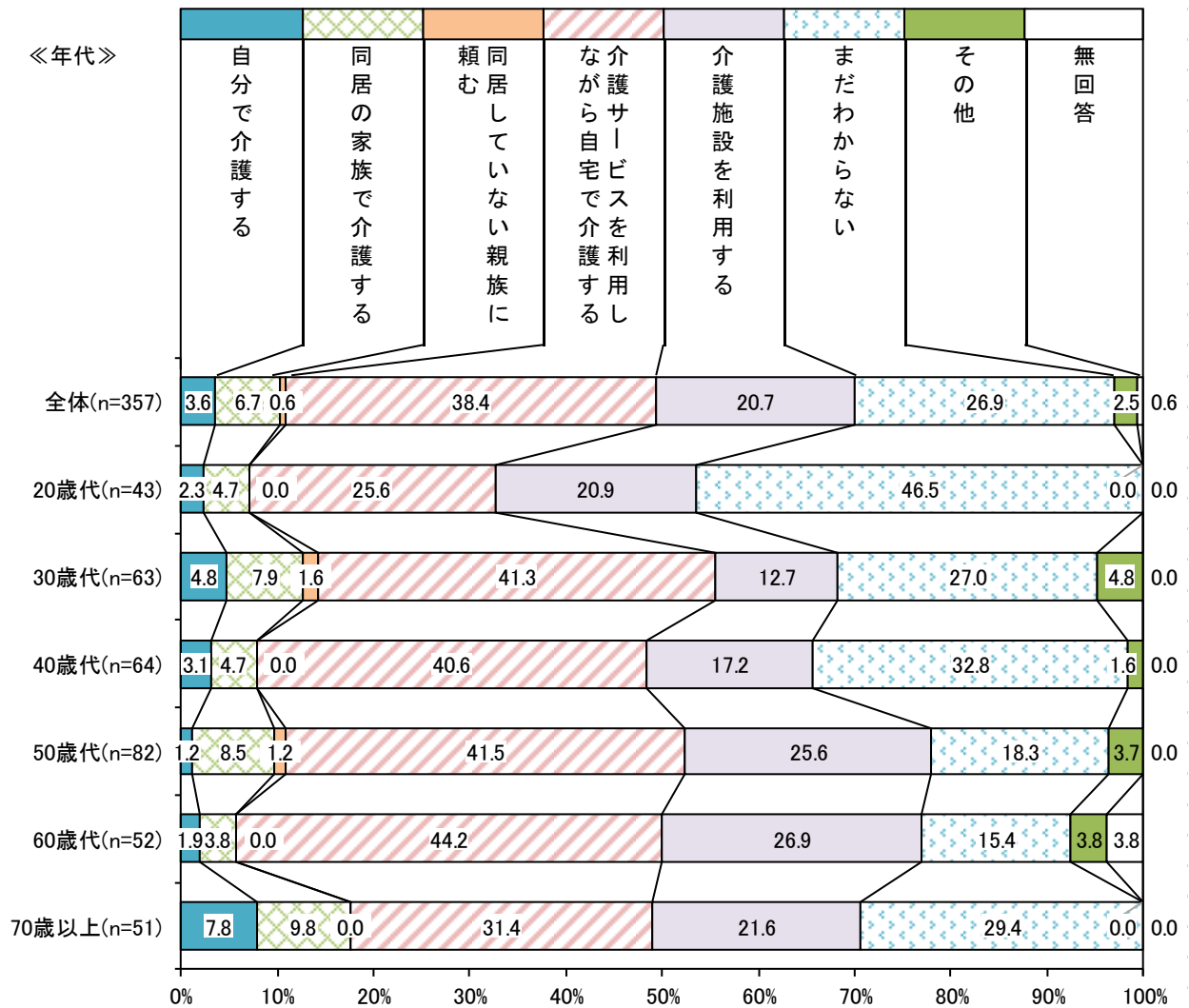
女性では「まだわからない」が男性より10.2ポイント高くなっており、男性では「同居の家族で介護する」が女性より5.9ポイント高くなっています。



## 【年代】

30歳代から60歳代では4割以上が「介護サービスを利用しながら自宅で介護する」と回答しています。

一方、70歳以上では「自分で介護する」、「同居の家族で介護する」が比較的高くなっています。また、「まだわからない」がおよそ3割で50歳代、60歳代と比較すると高くなっています。



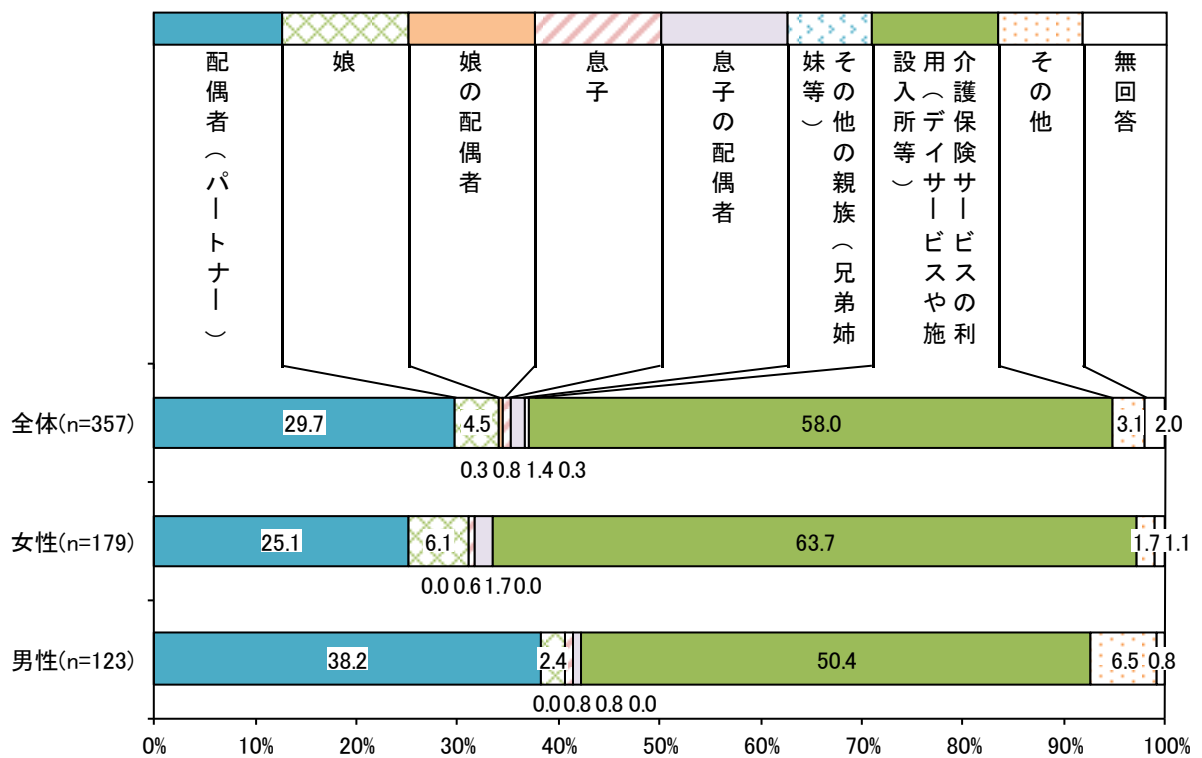
【問8】

あなたご自身が、介護が必要になった場合、誰に介護を頼みたいと思いますか。(〇は1つだけ)

全体では「介護保険サービスの利用（デイサービスや施設入所等）」が58.0%で最も高く、次いで「配偶者（パートナー）」が29.7%、「娘」が4.5%、「息子の配偶者」が1.4%と続いています。

女性では「介護保険サービスの利用（デイサービスや施設入所等）」が63.7%で男性より13.3ポイント高くなっています。

一方、男性では「配偶者（パートナー）」が38.2%で女性より13.1ポイント高くなっています。

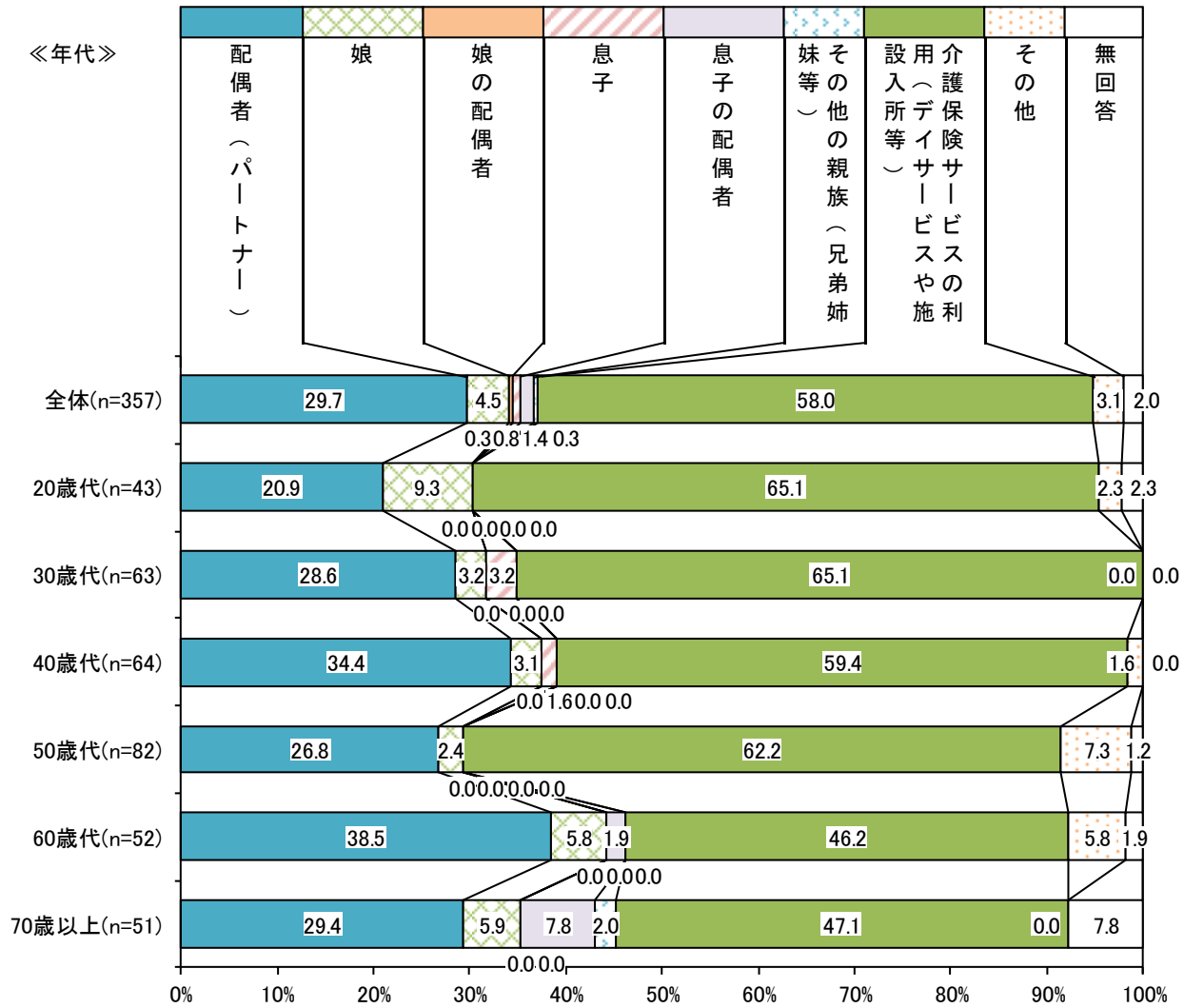


【年代】

40 歳代、60 歳代で「配偶者（パートナー）」が3割を超えています。

一方、20 歳代、30 歳代、50 歳代で「介護保険サービスの利用（デイサービスや施設入所等）」が6割を超えています。

70 歳以上では、「娘」と「息子の配偶者」を合わせると13.7%を占めています。



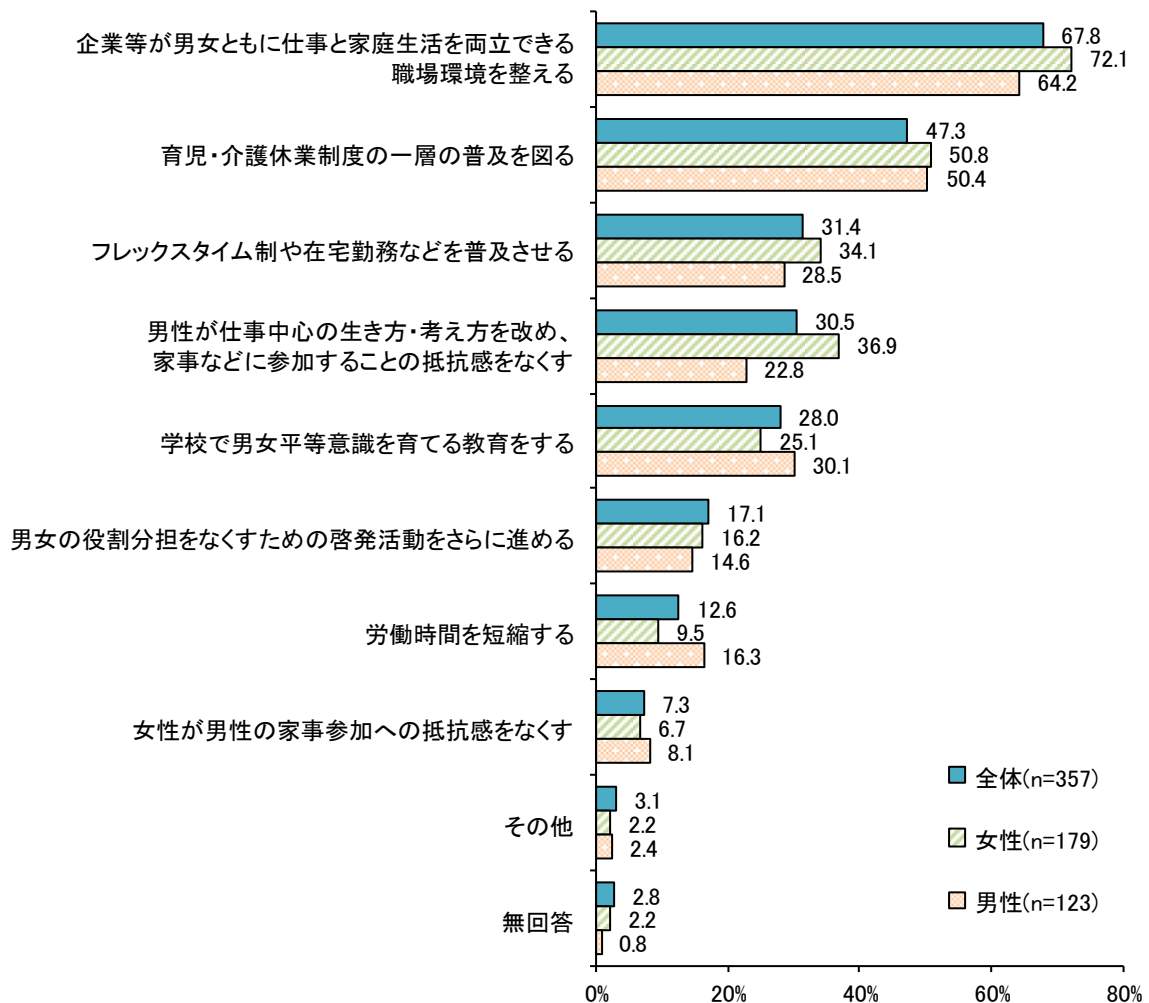
【問9】

今後、性別にかかわらず家事・子育て・介護を積極的に行っていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

全体では「企業等が男女ともに仕事と家庭生活を両立できる職場環境を整える」が67.8%で最も高く、次いで「育児・介護休業制度の一層の普及を図る」が47.3%、「フレックスタイム制や在宅勤務などを普及させる」が31.4%、「男性が仕事中心の生き方・考え方を改め、家事などに参加することの抵抗感をなくす」が30.5%と続いています。

上位4項目では、特に女性において割合が高くなっており、「企業等が男女ともに仕事と家庭生活を両立できる職場環境を整える」が72.1%、「育児・介護休業制度の一層の普及を図る」が50.8%を占めています。

また、男女差が最も大きい項目は、「男性が仕事中心の生き方・考え方を改め、家事などに参加することの抵抗感をなくす」で、女性が男性を14.1ポイント上回っています。



## 【年代】

いずれの年代においても、「企業等が男女ともに仕事と家庭生活を両立できる職場環境を整える」が最も高くなっています。

20歳代では「育児・介護休業制度の一層の普及を図る」が62.8%で他の年代と比較すると高い割合を占めています。

40歳代では「フレックスタイム制や在宅勤務などを普及させる」が42.2%、「労働時間を短縮する」が20.3%となっており、他の年代と比較すると高い割合を占めています。

《年代》

単位：%

	企業等が男女ともに仕事と家庭生活を両立できる職場環境を整える	育児・介護休業制度の一層の普及を図る	フレックスタイム制や在宅勤務などを普及させる	男性が仕事中心の生き方・考え方を改め、家事などに参加することの抵抗感をなくす	学校で男女平等意識を育てる教育をする	男女の役割分担をなくすための啓発活動をさらに進める	労働時間を短縮する	女性が男性の家事参加への抵抗感をなくす	その他	無回答
全体(n=357)	67.8	47.3	31.4	30.5	28.0	17.1	12.6	7.3	3.1	2.8
20歳代(n=43)	72.1	62.8	30.2	39.5	18.6	9.3	16.3	4.7	2.3	-
30歳代(n=63)	73.0	46.0	28.6	31.7	27.0	14.3	15.9	4.8	3.2	1.6
40歳代(n=64)	64.1	43.8	42.2	15.6	28.1	14.1	20.3	7.8	7.8	-
50歳代(n=82)	67.1	48.8	29.3	34.1	32.9	22.0	9.8	6.1	2.4	1.2
60歳代(n=52)	71.2	51.9	36.5	25.0	23.1	13.5	7.7	7.7	1.9	5.8
70歳以上(n=51)	58.8	33.3	21.6	41.2	33.3	23.5	5.9	13.7	-	9.8

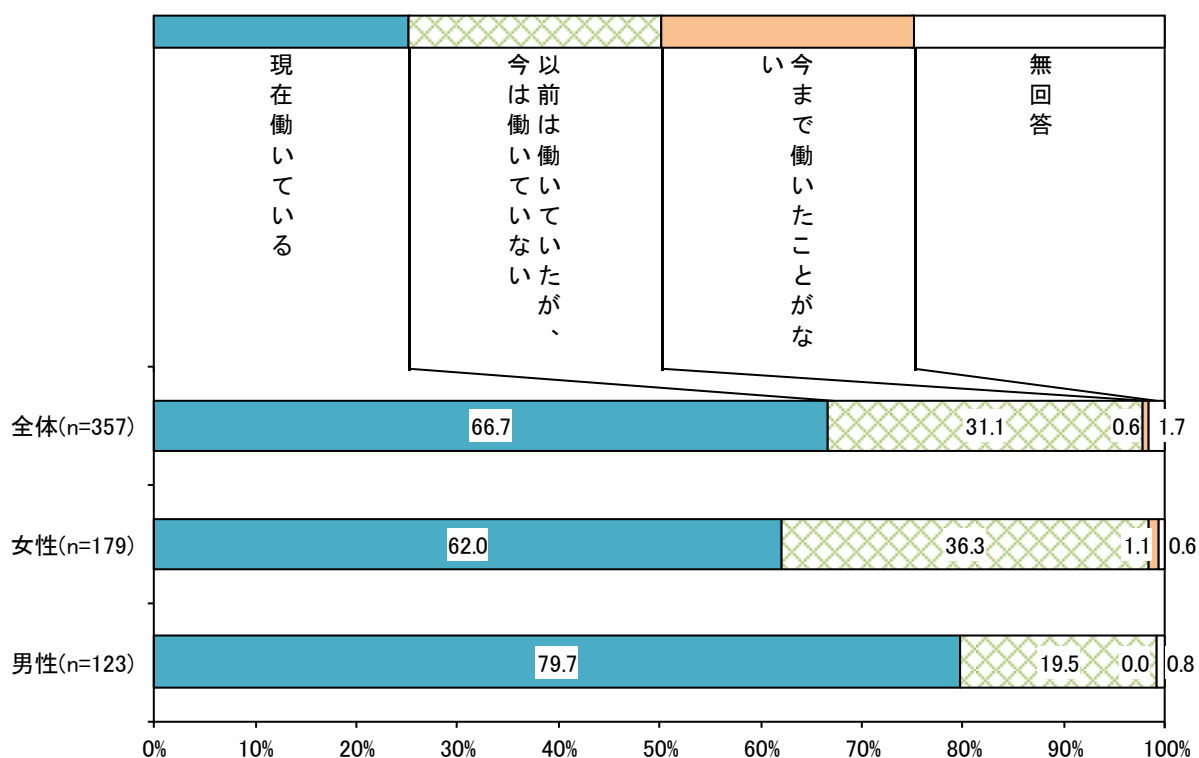
### 3 就業について

#### 【問10】

あなたは、働いたことがありますか。(パート、自営業、臨時、内職等も含みます) (○は1つだけ)

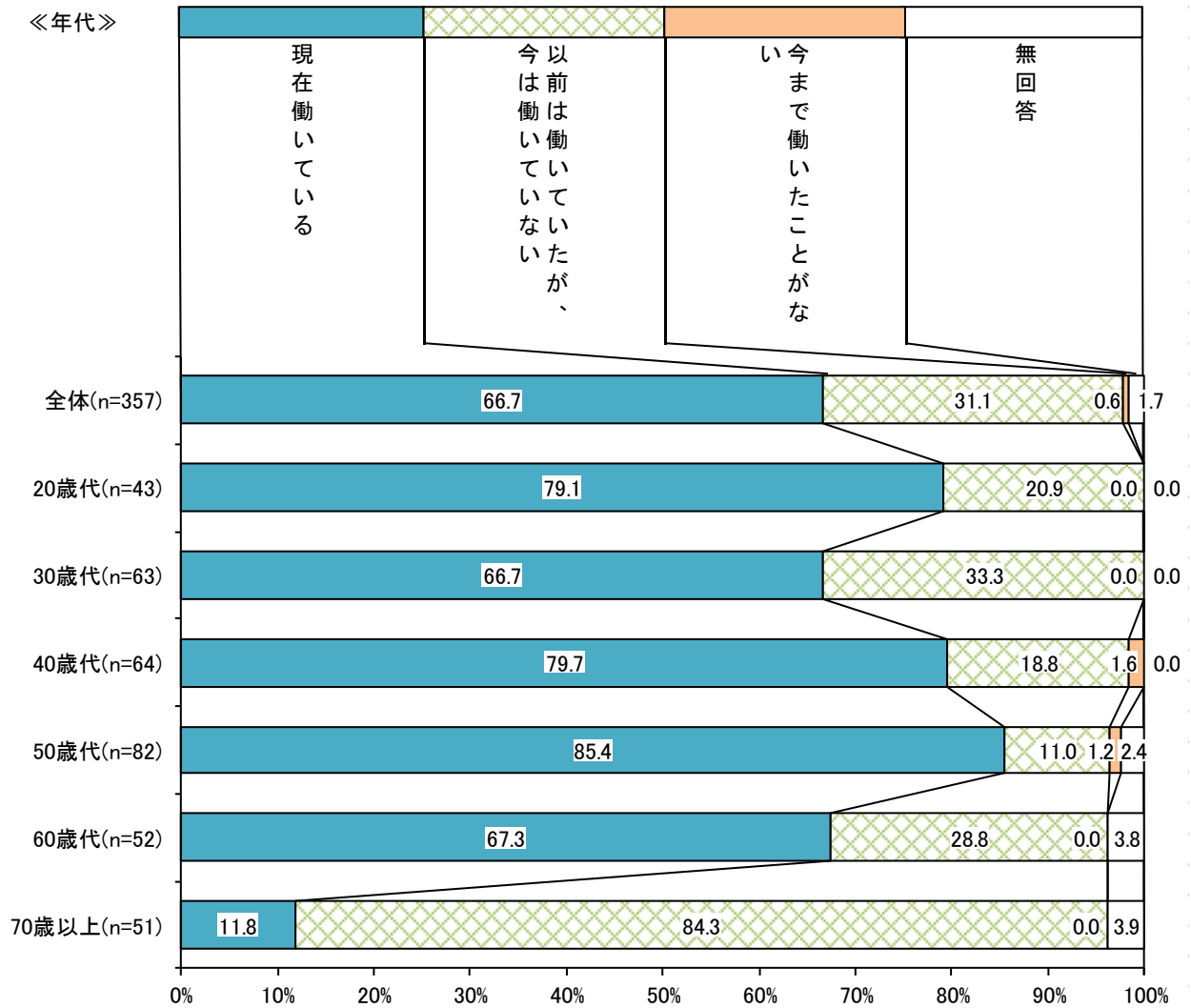
全体では「現在働いている」が66.7%、「以前は働いていたが、今は働いていない」が31.1%、「今まで働いたことがない」が0.6%となっています。

女性では「現在働いている」が62.0%、男性では79.7%を占めています。



## 【年代】

50歳代では「現在働いている」が85.4%で、他の年代と比較すると高い割合を占めています。  
70歳以上では「以前は働いていたが、今は働いていない」が84.3%を占めています。





【問10-①】

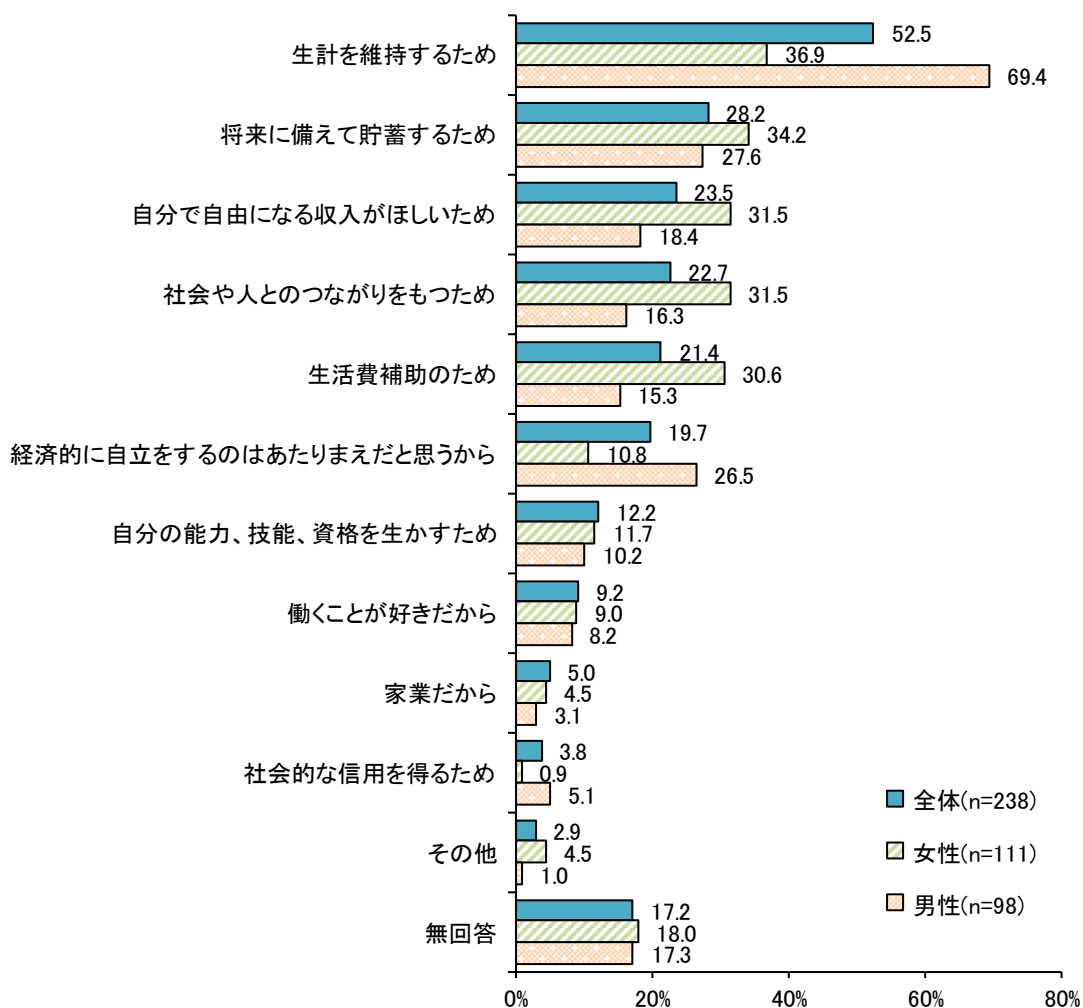
前問（問10）で、「1 現在働いている」と答えた方

あなたが働いて収入を得ている理由はどのようなことですか。（〇は3つまで）

全体では「生計を維持するため」が52.5%で最も高く、次いで「将来に備えて貯蓄するため」が28.2%、「自分で自由になる収入がほしいため」が23.5%、「社会や人とのつながりをもつため」が22.7%と続いています。

女性では「生計を維持するため」が36.9%で最も高くなっていますが、男性では69.4%を占めており、男性が32.5ポイント上回っています。

上位6項目は、男女のポイント差が大きくなっており、男性では生計の維持や自立、女性では貯蓄や生活費の補助、つながりが主な理由となっています。



## 【年代】

20 歳代では「生計を維持するため」が 38.2%にとどまっています。

一方、「自分で自由になる収入がほしいため」が 58.8%、「将来に備えて貯蓄するため」が 52.9%で、他の年代と比較すると高い割合を占めており、30 歳代以上とは異なる傾向が見られます。

《年代》

単位：%

	生計を維持するため	将来に備えて貯蓄するため	自分で自由になる収入がほしいため	社会や人とのつながりをもつため	生活費補助のため	経済的に自立をするのはあたりまえだと思っから	自分の能力、技能、資格を生かすため	働くことが好きだから	家業だから	社会的な信用を得るため	その他	無回答
全体(n=238)	52.5	28.2	23.5	22.7	21.4	19.7	12.2	9.2	5.0	3.8	2.9	17.2
20歳代(n=34)	38.2	52.9	58.8	26.5	23.5	23.5	20.6	14.7	-	-	-	2.9
30歳代(n=42)	69.0	28.6	21.4	21.4	14.3	31.0	11.9	4.8	2.4	7.1	2.4	9.5
40歳代(n=51)	58.8	19.6	13.7	23.5	27.5	13.7	9.8	11.8	2.0	3.9	3.9	15.7
50歳代(n=70)	45.7	25.7	20.0	22.9	15.7	11.4	10.0	4.3	5.7	1.4	4.3	31.4
60歳代(n=35)	48.6	22.9	17.1	20.0	25.7	22.9	11.4	11.4	14.3	2.9	2.9	17.1
70歳以上(n=6)	66.7	16.7	-	16.7	50.0	50.0	16.7	33.3	16.7	33.3	-	-

【問10-②】

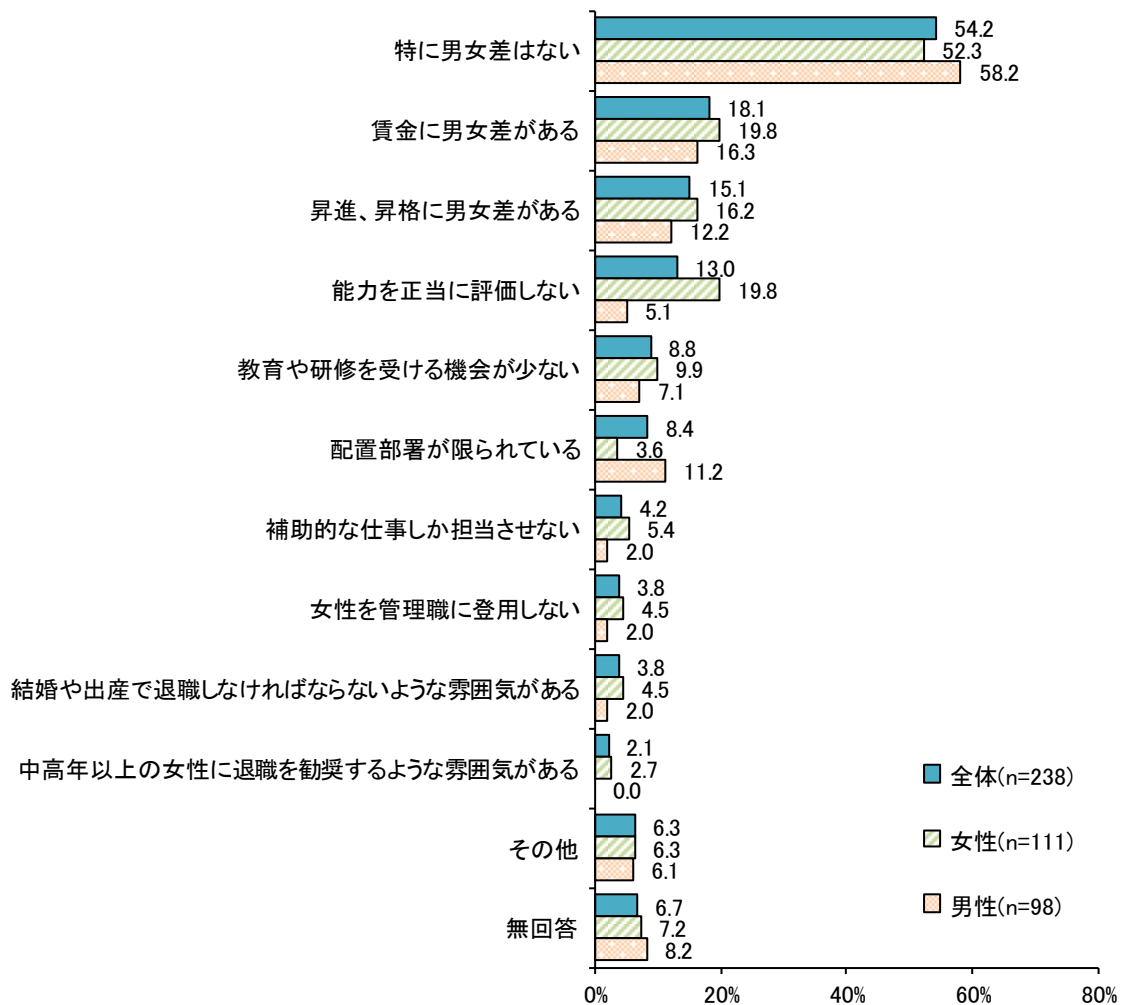
前問（問10）で、「1 現在働いている」と答えた方

あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して次のようなことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

全体では「特に男女差はない」が54.2%で最も高く、次いで「賃金に男女差がある」が18.1%、「昇進、昇格に男女差がある」が15.1%、「能力を正当に評価しない」が13.0%と続いています。

男女ともに「特に男女差はない」が過半数を占めています。

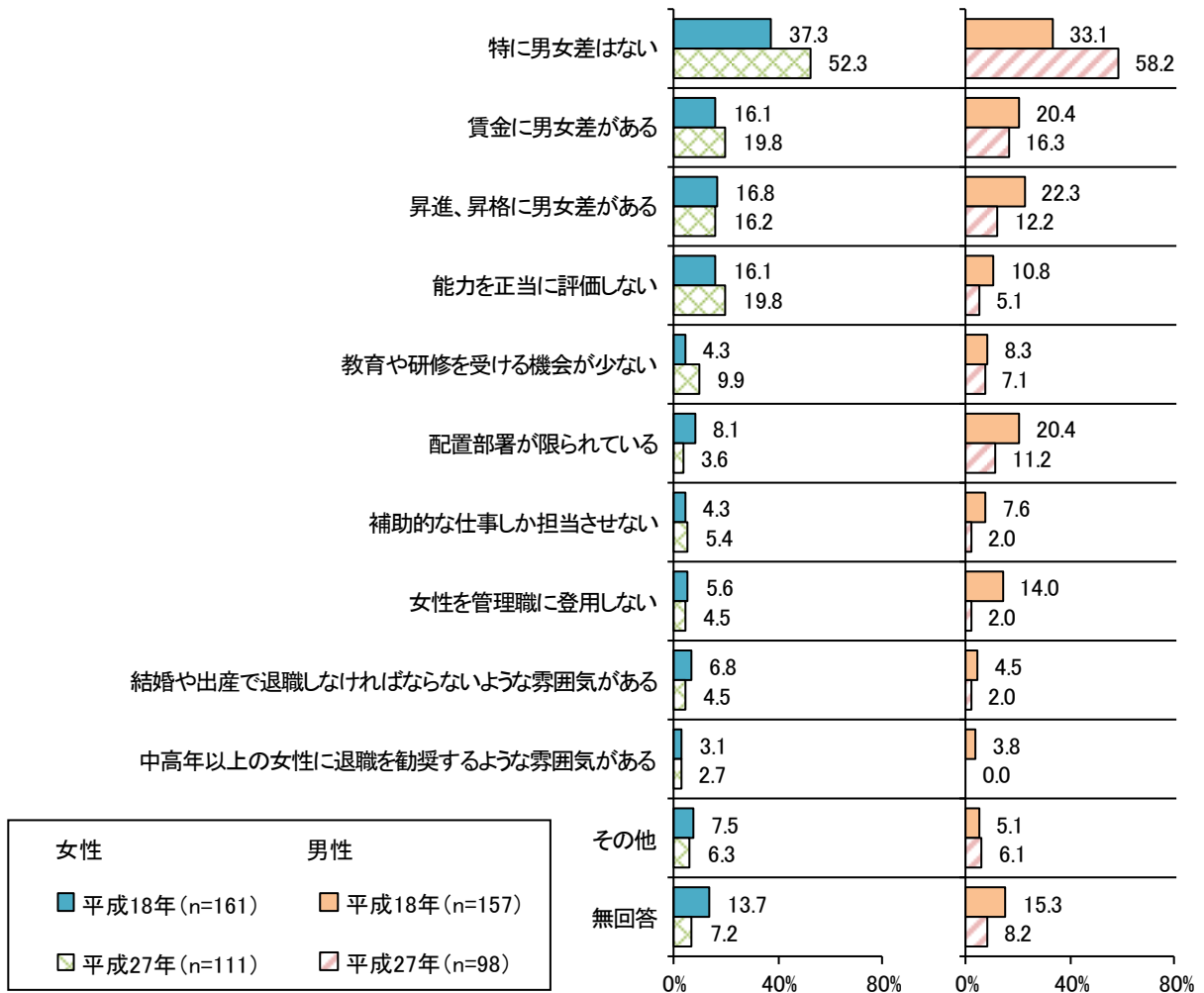
女性では、「特に男女差はない」を除いた上位4項目で男性よりも高い割合を占めており、男女差が最も大きい項目は「能力を正当に評価しない」で、女性が男性を14.7ポイント上回っています。



### 【経年比較】

男女ともに「特に男女差はない」が高くなっており、女性では 15.0 ポイント、男性では 25.1 ポイント上昇しています。

しかし、男性では「特に男女差はない」と「その他」を除いた項目で割合が低くなっていますが、女性では大きな変化は見られません。



【問10-③】

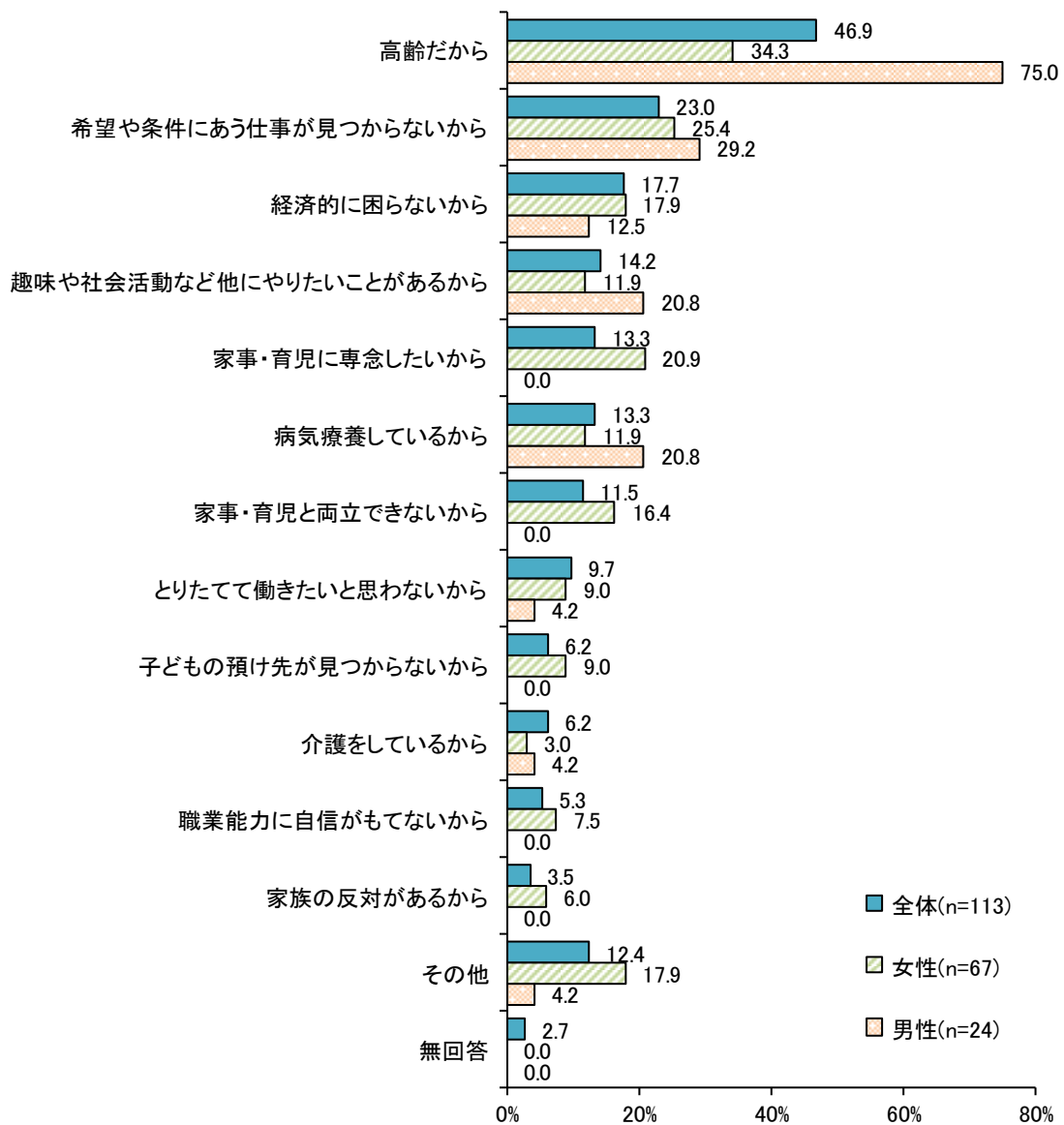
前問(問10)で、「2 以前は働いていたが、今は働いていない」「3 今まで働いたことがない」と答えた方

あなたが、現在働いていない理由は次のどれにあたりますか。(〇は3つまで)

全体では「高齢だから」が46.9%で最も高く、次いで「希望や条件にあう仕事が見つからないから」が23.0%、「経済的に困らないから」が17.7%、「趣味や社会活動など他にやりたいことがあるから」が14.2%と続いています。

女性では「家事・育児に専念したいから」が20.9%で第3位となっています。また、「家事・育児と両立できないから」が16.4%で比較的高くなっています。

男性では「高齢だから」が75.0%を占めています。

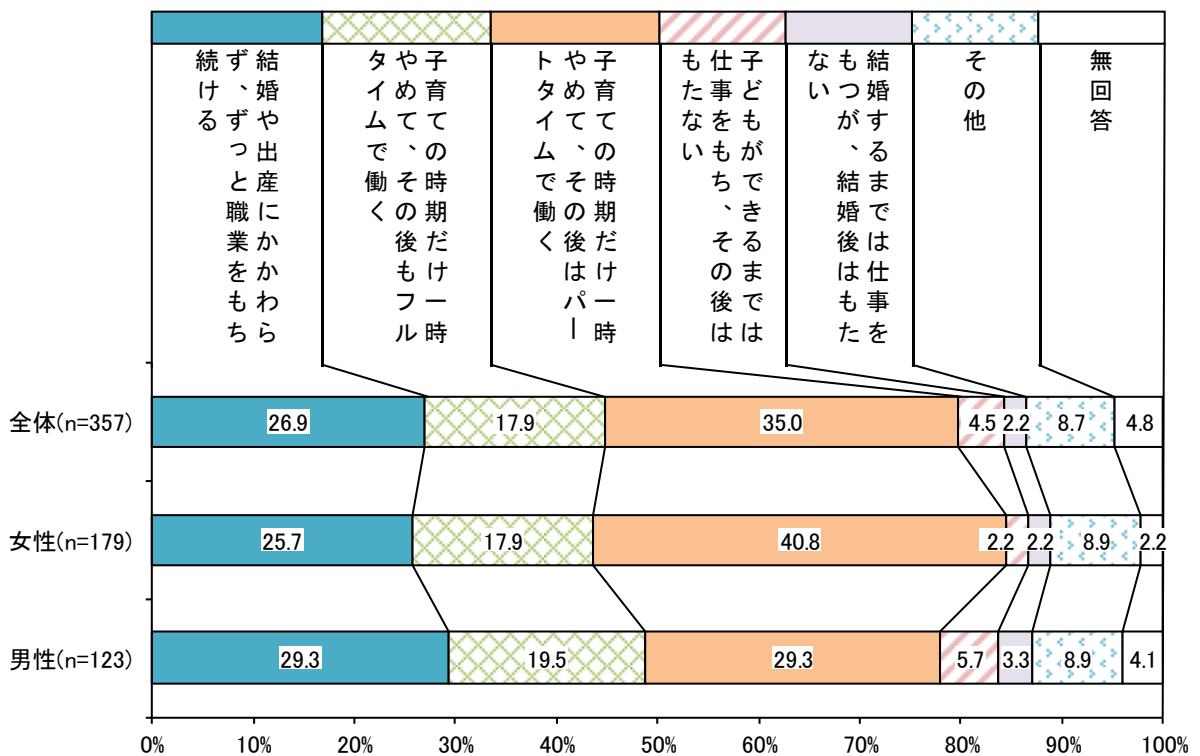


【問11】

女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。(〇は1つだけ)

全体では「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで働く」が35.0%で最も高く、次いで「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業をもち続ける」が26.9%、「子育ての時期だけ一時やめて、その後もフルタイムで働く」が17.9%、「その他」が8.7%と続いています。

女性では「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで働く」が40.8%を占めており、「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業をもち続ける」と「子育ての時期だけ一時やめて、その後もフルタイムで働く」と合わせると、84.4%が仕事を続けることが望ましいと回答しています。

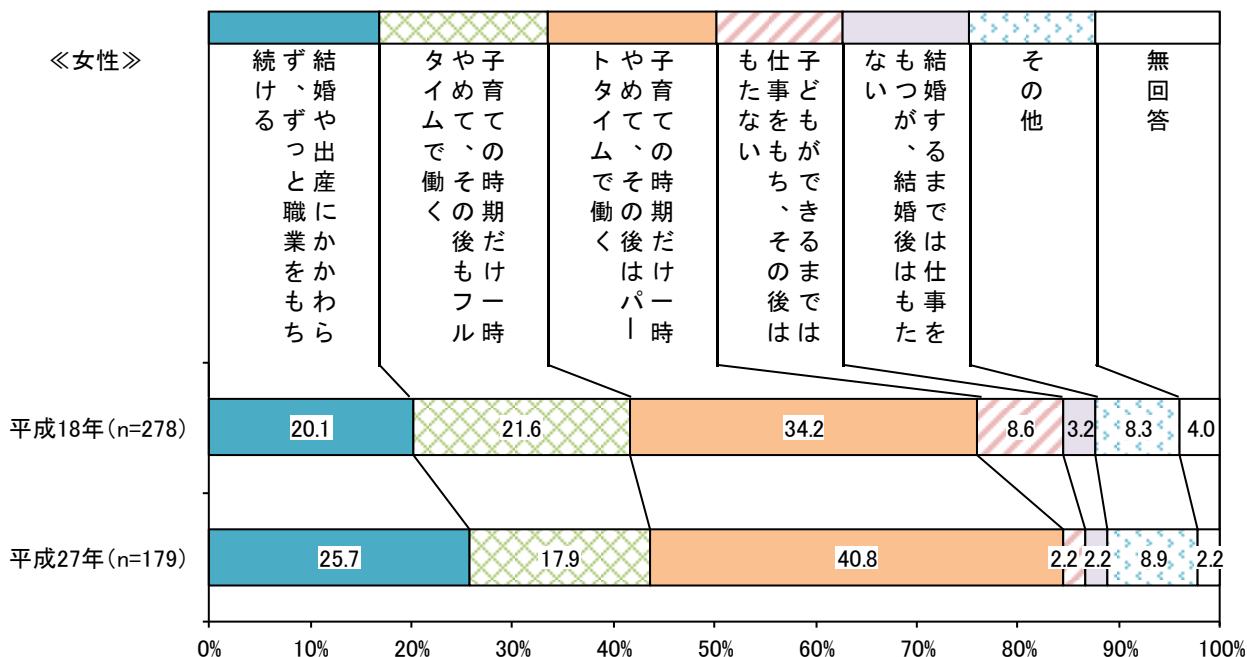


### 【経年比較】

女性の経年比較では、「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業をもち続ける」が5.6ポイント高くなっています。

また、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで働く」が6.6ポイント高くなる一方で、「子育ての時期だけ一時やめて、その後もフルタイムで働く」が3.7ポイント低くなっています。

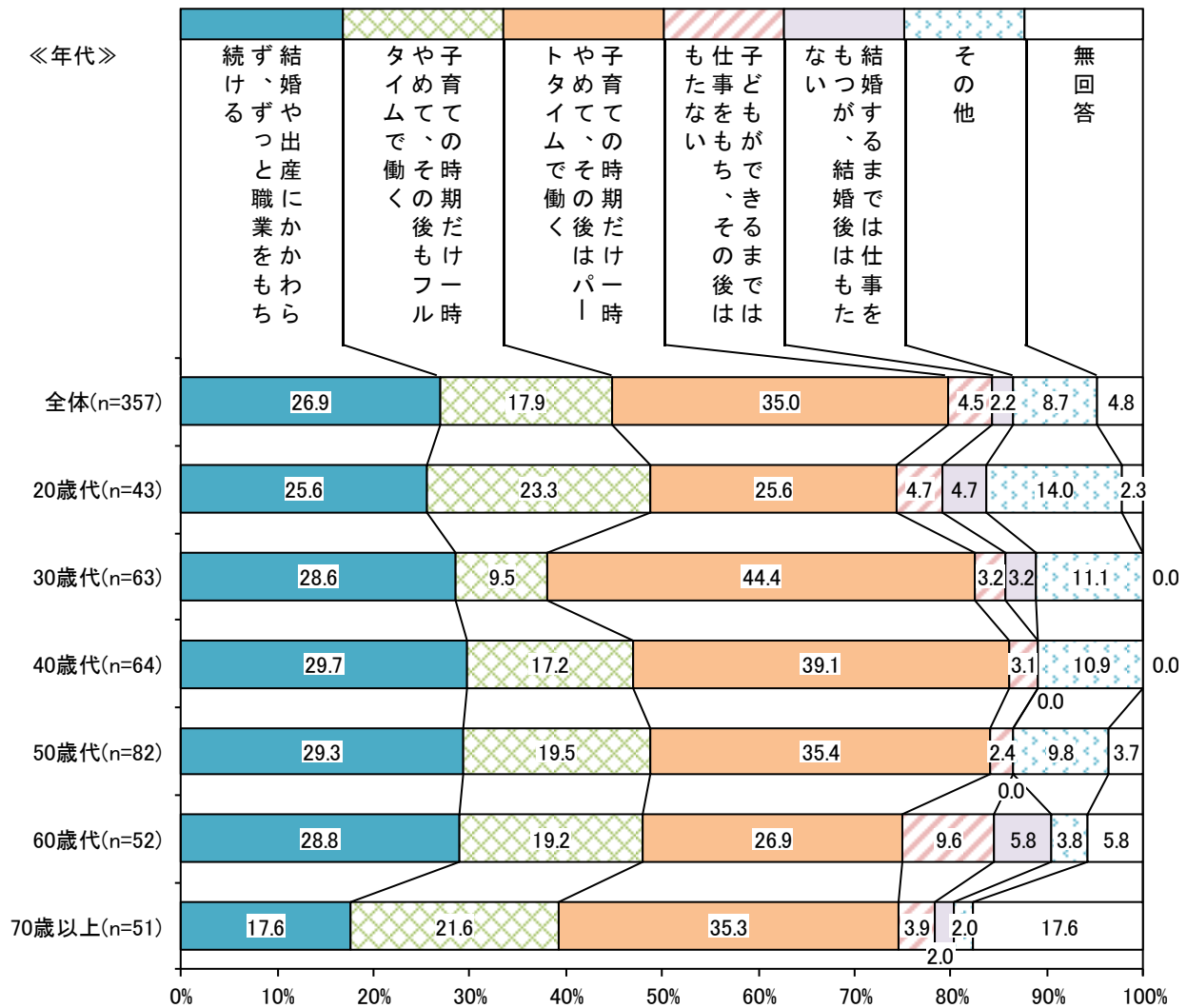
全体でみると、仕事を続けることが望ましいとする割合が高くなっています。



【年代】

20 歳代では「子育ての時期だけ一時やめて、その後もフルタイムで働く」が 23.3%で他の年代よりも高い割合を占めています。

逆に 30 歳代から 50 歳代では「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで働く」が最も高くなっており、特に 30 歳代では 44.4%を占めています。





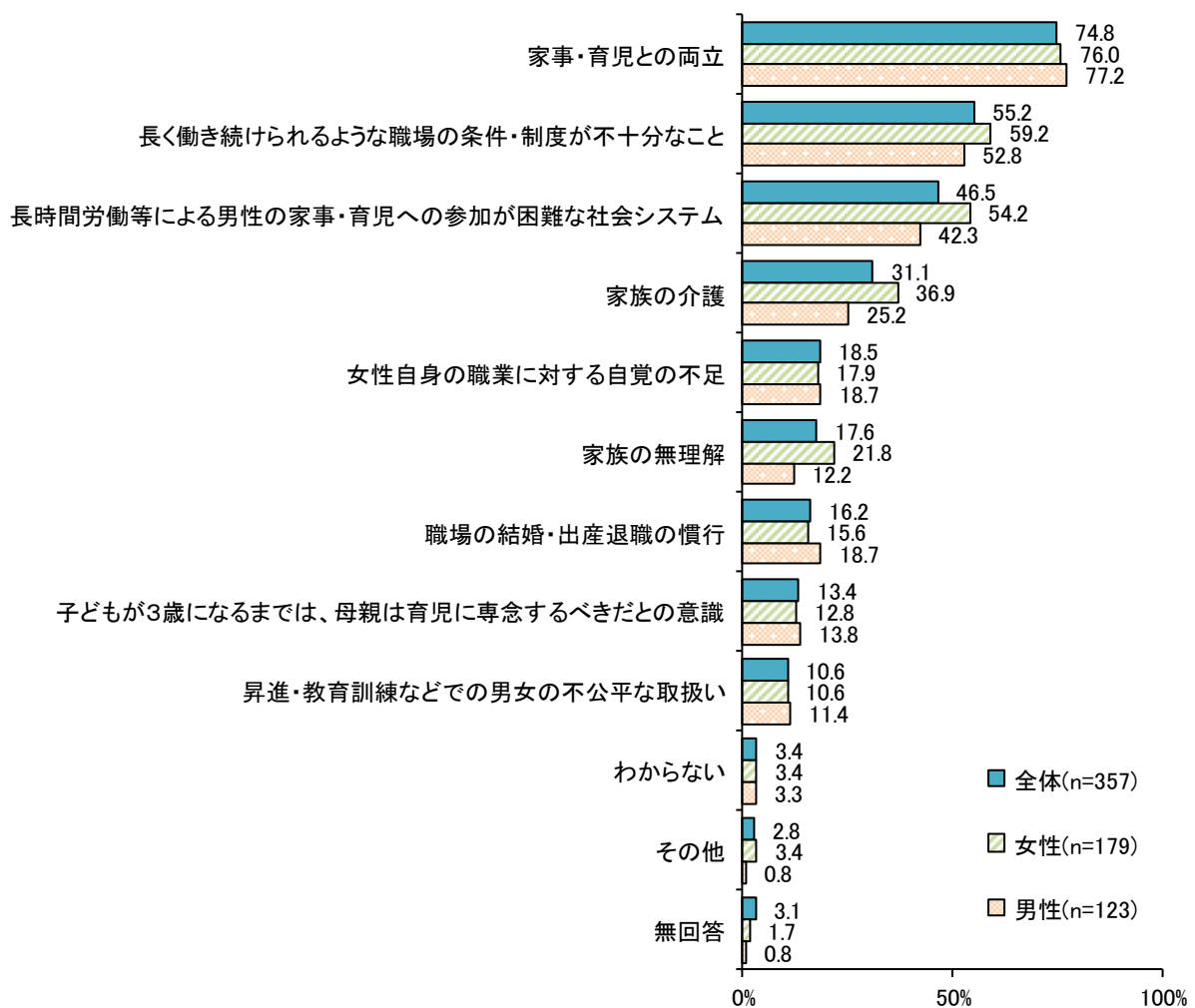
【問12】

女性が長く働き続けるのを困難にしたり、障害になっているのはどんなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では「家事・育児との両立」が74.8%で最も高く、次いで「長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分なこと」が55.2%、「長時間労働等による男性の家事・育児への参加が困難な社会システム」が46.5%、「家族の介護」が31.1%と続いています。

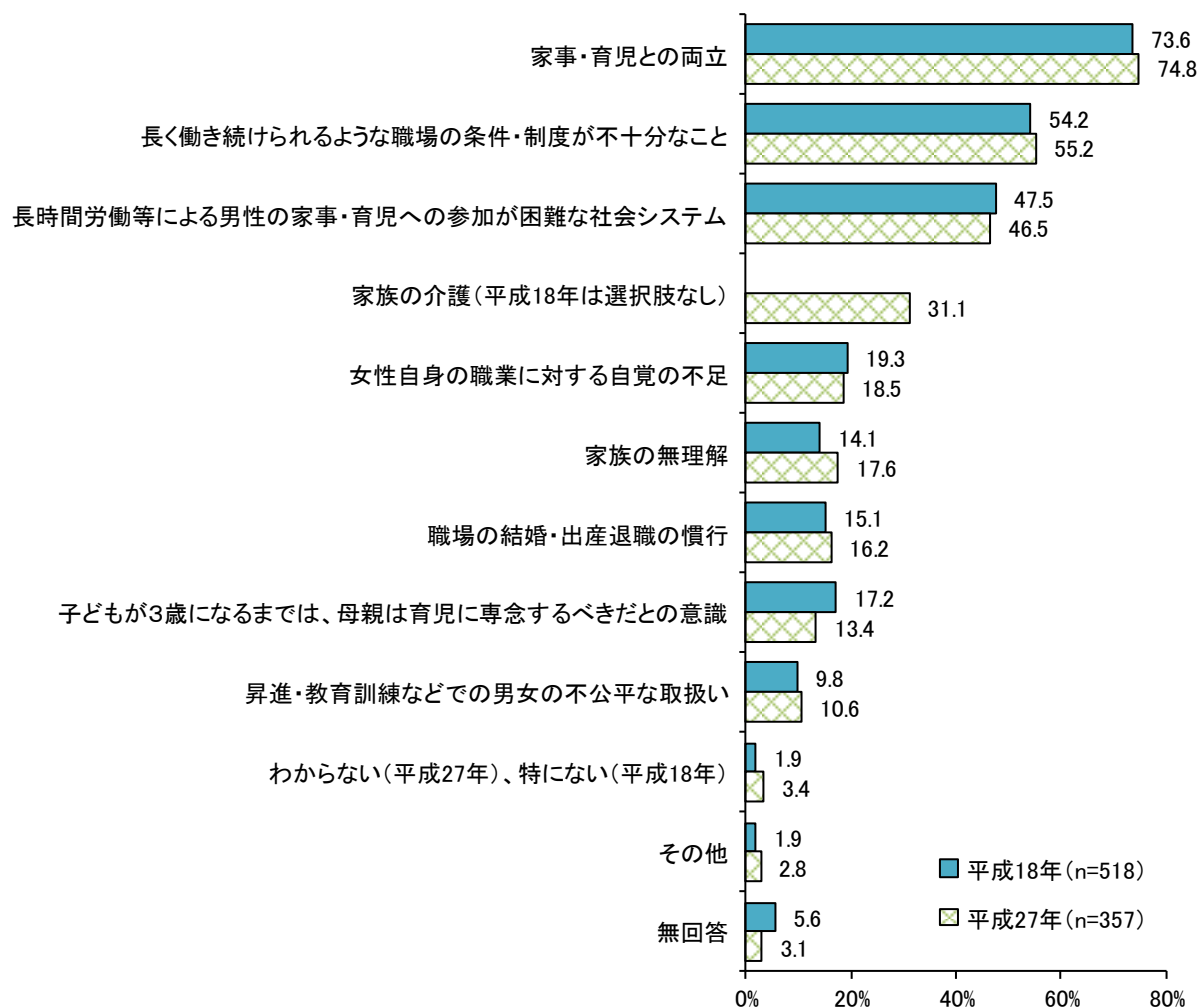
男女ともに「家事・育児との両立」が最も高くなっています。

女性では「長時間労働等による男性の家事・育児への参加が困難な社会システム」、「家族の介護」、「家族の無理解」において、いずれも男性より10ポイント前後高くなっています。



## 【経年比較】

前回調査時から傾向の大きな変化はなく、「家事・育児との両立」が7割強を占めています。



## 【年代】

いずれの年代においても、上位3項目の割合が高くなっています。また、30歳代以上で「家族の介護」が高くなっています。

50歳代では「家族の無理解」が26.8%で、他の年代と比較すると高い割合を占めています。

《年代》

単位：%

	家事・育児との両立	長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分なこと	長時間労働等による男性の家事・育児への参加が困難な社会システム	家族の介護	女性自身の職業に対する自覚の不足	家族の無理解	職場の結婚・出産・退職の慣行	子どもが3歳になるまでは、母親は育児に専念すべきだとの意識	昇進・教育訓練などでの男女の不公平な取扱い	わからない	その他	無回答
全体(n=357)	74.8	55.2	46.5	31.1	18.5	17.6	16.2	13.4	10.6	3.4	2.8	3.1
20歳代(n=43)	81.4	60.5	48.8	11.6	11.6	14.0	20.9	16.3	11.6	2.3	4.7	2.3
30歳代(n=63)	77.8	52.4	55.6	36.5	22.2	15.9	12.7	15.9	11.1	1.6	3.2	1.6
40歳代(n=64)	73.4	57.8	46.9	34.4	17.2	15.6	10.9	9.4	4.7	3.1	6.3	-
50歳代(n=82)	82.9	53.7	37.8	36.6	24.4	26.8	20.7	13.4	8.5	2.4	1.2	-
60歳代(n=52)	71.2	57.7	50.0	28.8	13.5	11.5	19.2	21.2	21.2	5.8	1.9	5.8
70歳以上(n=51)	58.8	52.9	45.1	31.4	17.6	17.6	13.7	5.9	9.8	5.9	-	9.8

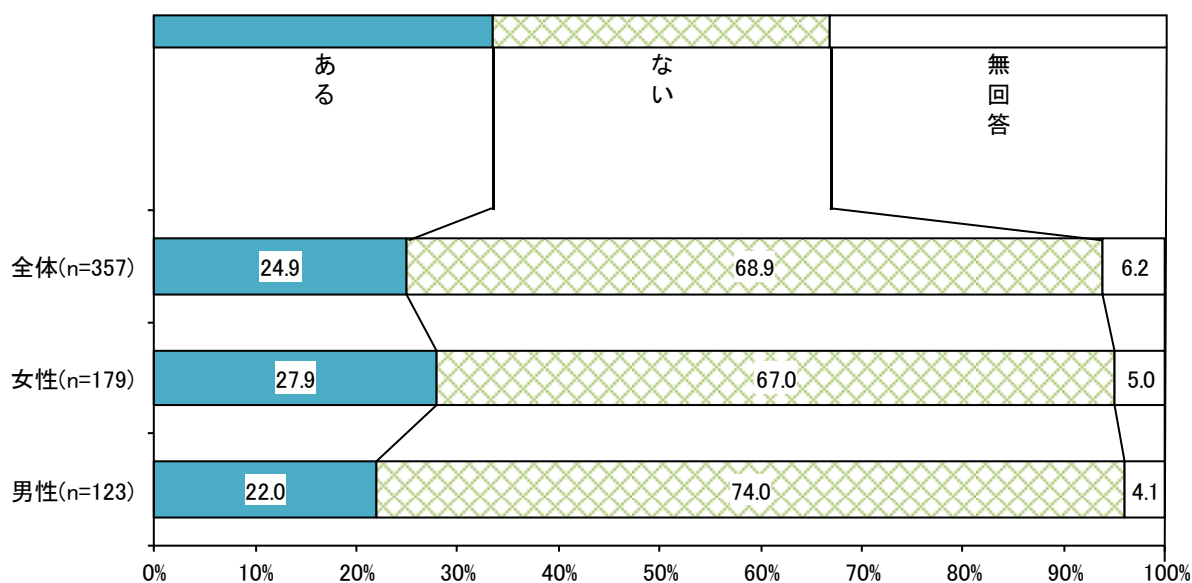
## 4 人権の尊重について

### 【問13】

あなたは今までに、職場や学校などで、セクシャル・ハラスメント（性的いやがらせ）を受けた経験、または見たり聞いたりしたことがありますか。（○は1つだけ）

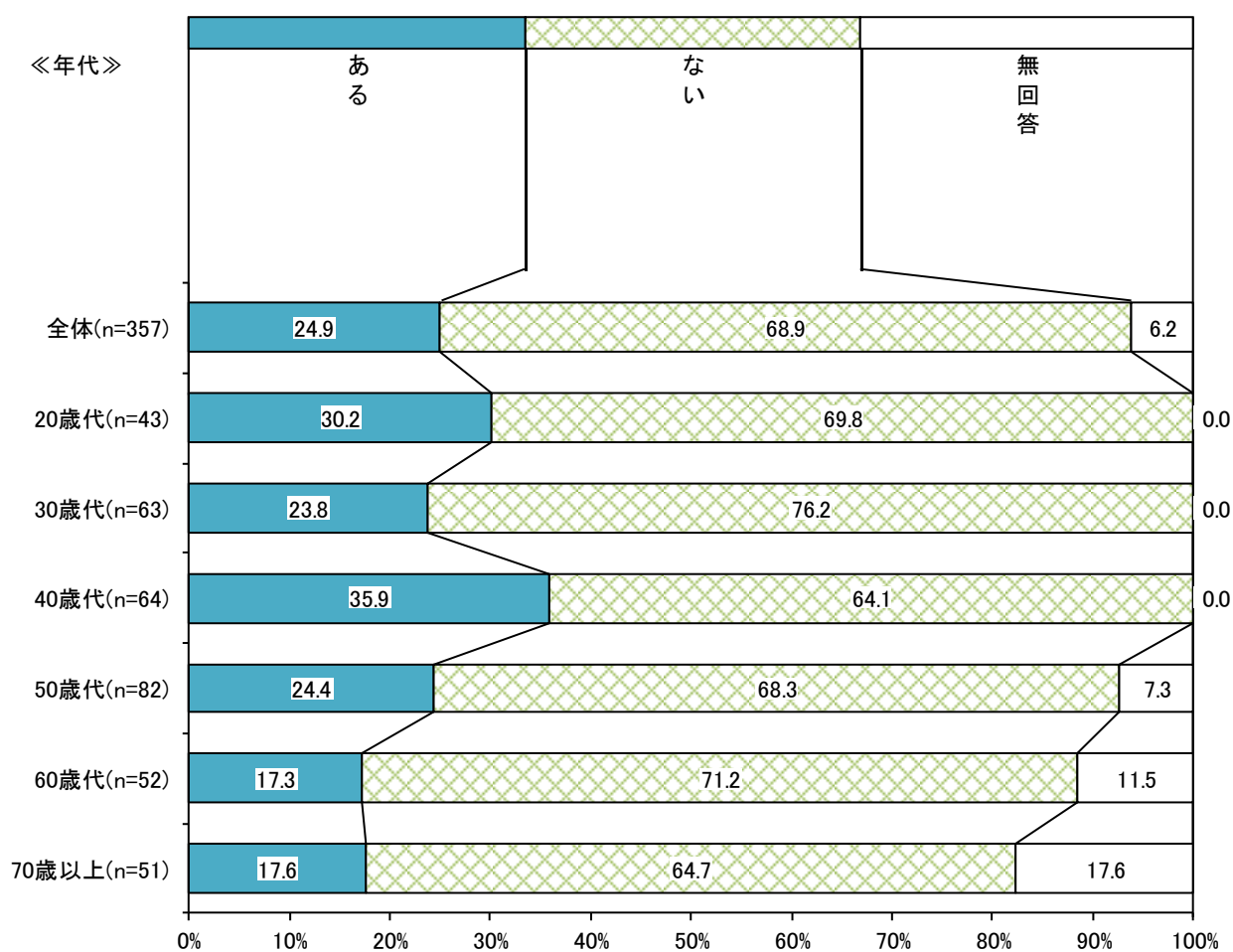
全体では「ある」が24.9%、「ない」が68.9%となっています。

女性では「ある」が27.9%となっており、男性を5.9ポイント上回っています。



### 【年代】

40歳代では「ある」が35.9%となっており、年代別では最も高くなっています。次いで、20歳代で30.2%、50歳代で24.4%、30歳代で23.8%と続いています。



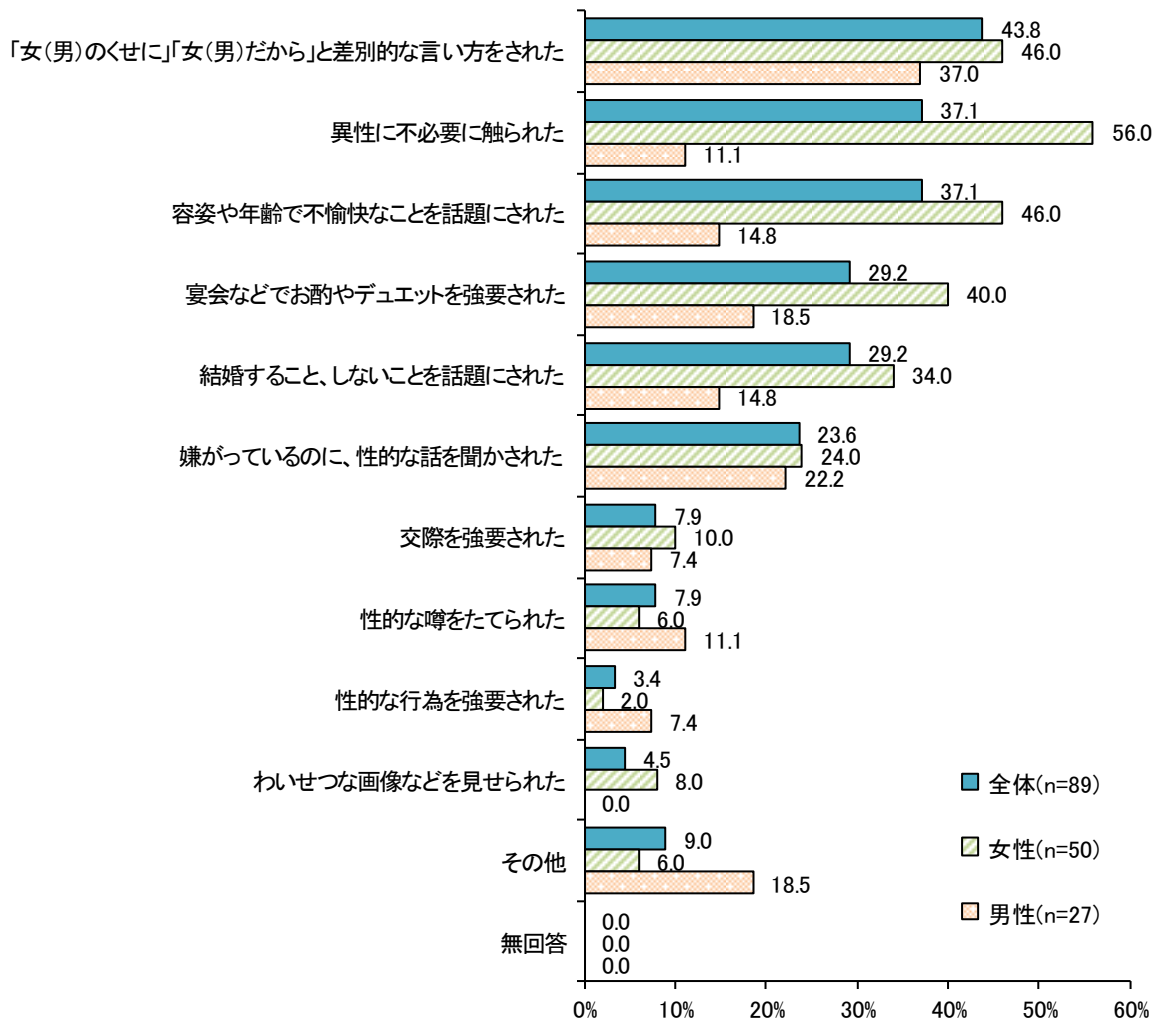
【問13-①】

前問（問13）で、「1 ある」と答えた方

それは、どのような行為でしょうか。（あてはまるものすべてに○）

全体では「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた」が43.8%で最も高く、次いで「異性に不必要に触られた」が37.1%、「容姿や年齢で不愉快なことを話題にされた」が37.1%、「宴会などでお酌やデュエットを強要された」が29.2%と続いています。

女性では「異性に不必要に触られた」が56.0%で最も高く、次いで「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた」、「容姿や年齢で不愉快なことを話題にされた」が46.0%、「宴会などでお酌やデュエットを強要された」が40.0%と続いており、いずれも男性と比較すると高い割合を占めています。



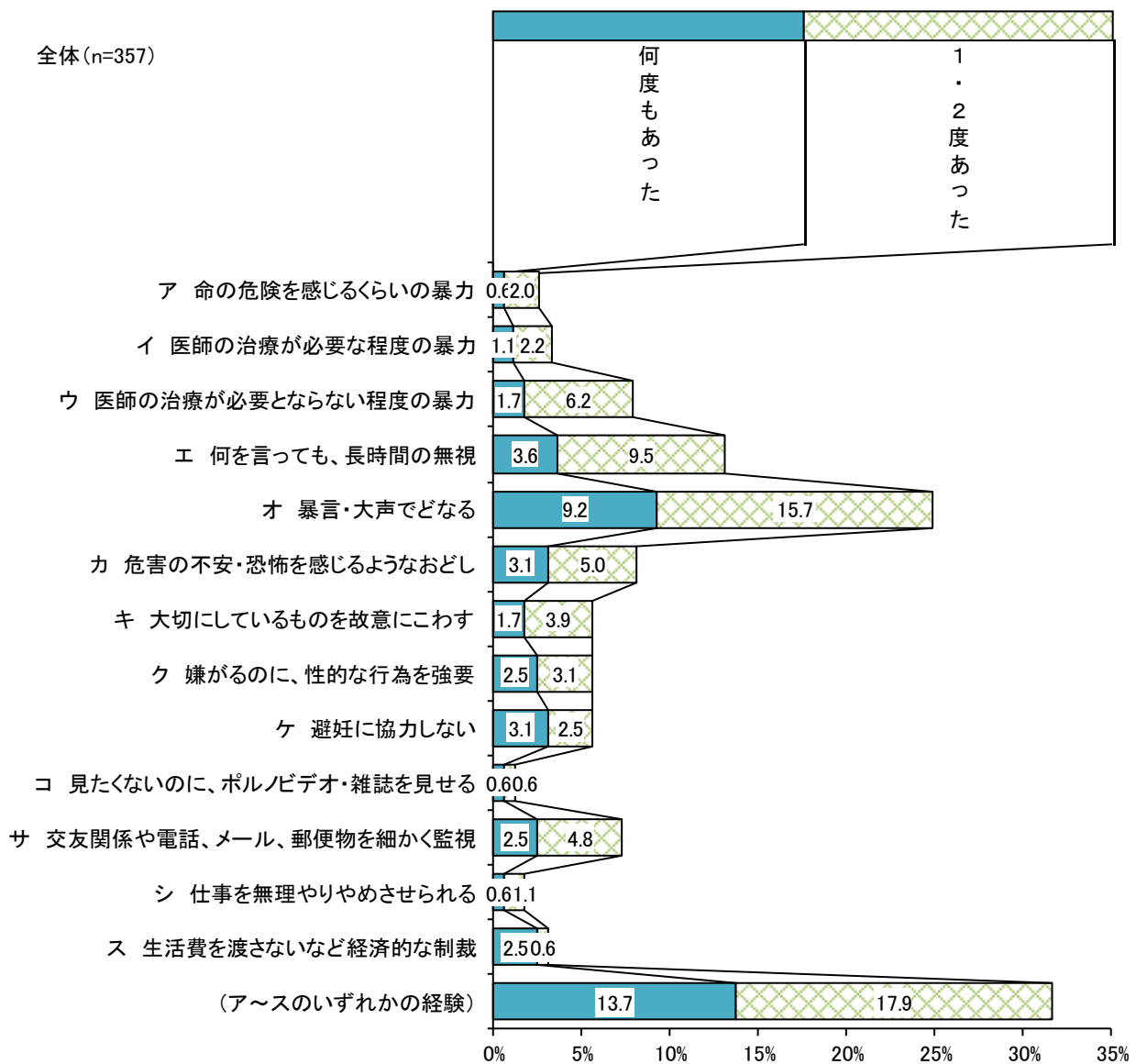
【問14】

配偶者や親密な関係にある人からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）が問題になっていますが、あなたは今までに、（ア）～（ス）のような行為を受けたことがありますか。（○はそれぞれ1つ）

全体について「何度もあった」では、「オ 暴言・大声でどなる」が9.2%で最も高く、次いで「エ 何を言っても、長時間の無視」が3.6%、「カ 危害の不安・恐怖を感じるようなおどし」、「ケ 避妊に協力しない」が3.1%と続いています。

「1・2度あった」でも、「オ 暴言・大声でどなる」が15.7%で最も高く、次いで「エ 何を言っても、長時間の無視」が9.5%、「ウ 医師の治療が必要とならない程度の暴力」が6.2%、「カ 危害の不安・恐怖を感じるようなおどし」が5.0%と続いています。

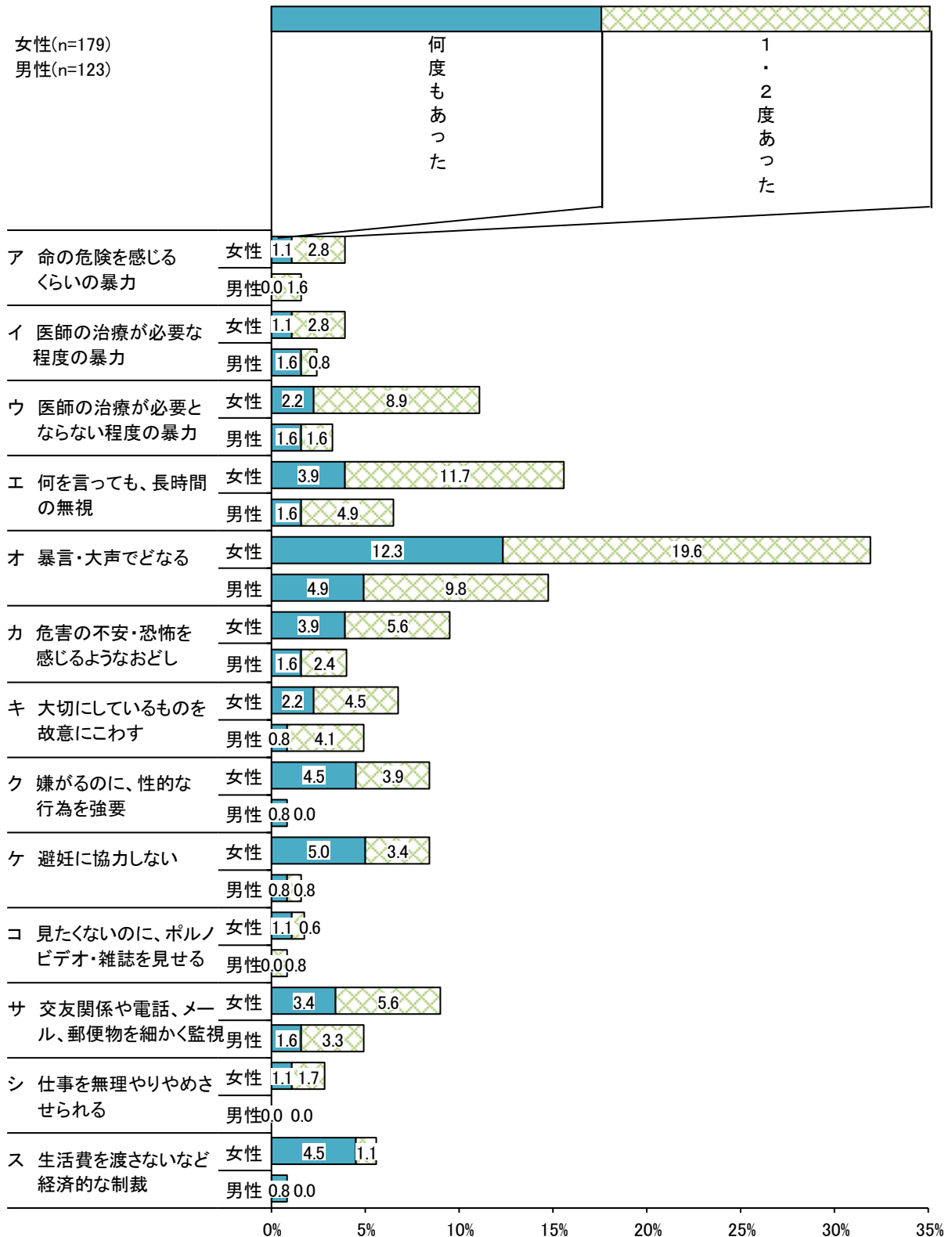
なお、（ア）～（ス）のいずれかの経験があった方は、31.6%を占めています。



【性別】

すべての項目で、女性が男性の割合を上回っています。

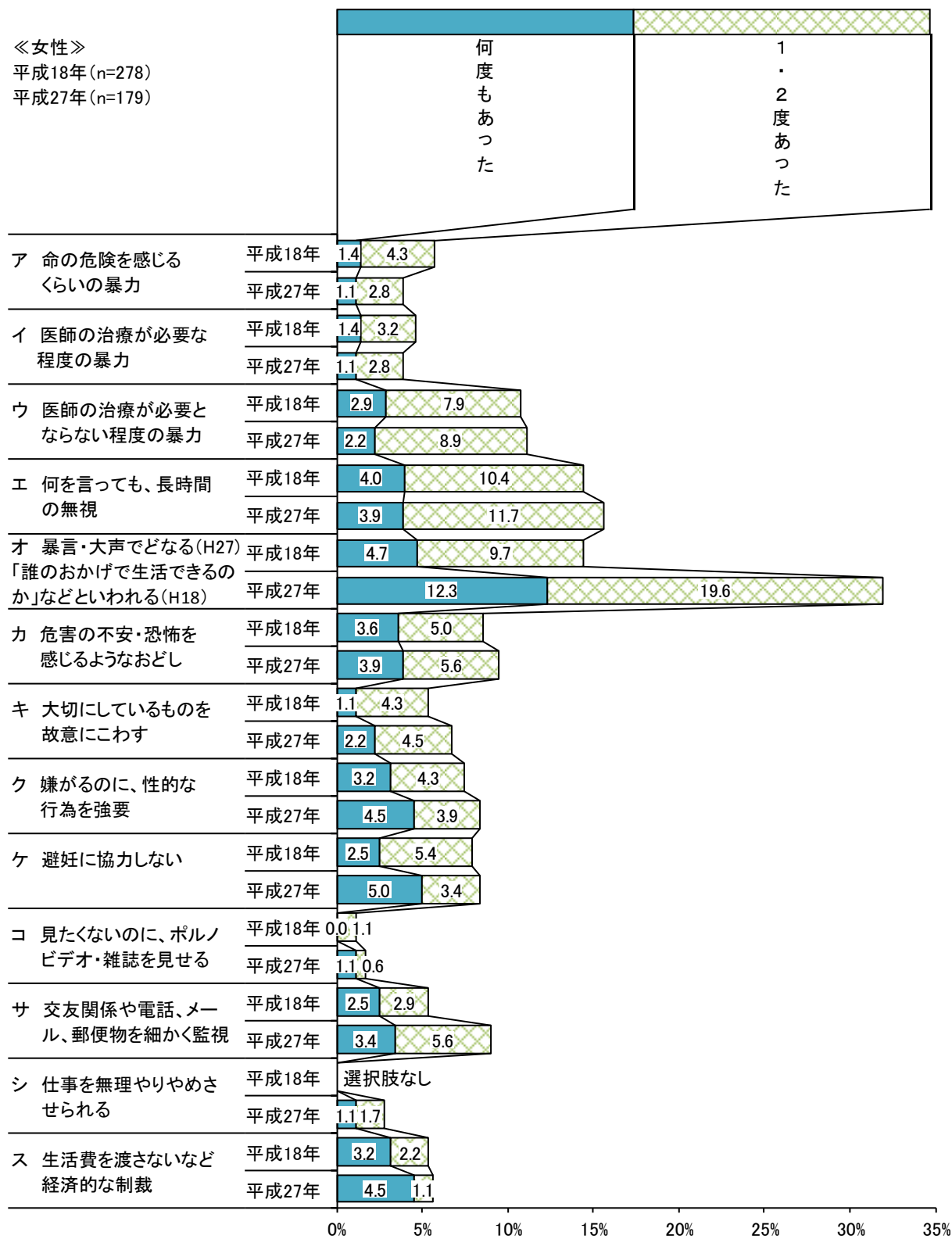
女性では「オ 暴言・大声でどなる」が「何度もあった」、「1・2度あった」を合わせると、31.9%となっています。





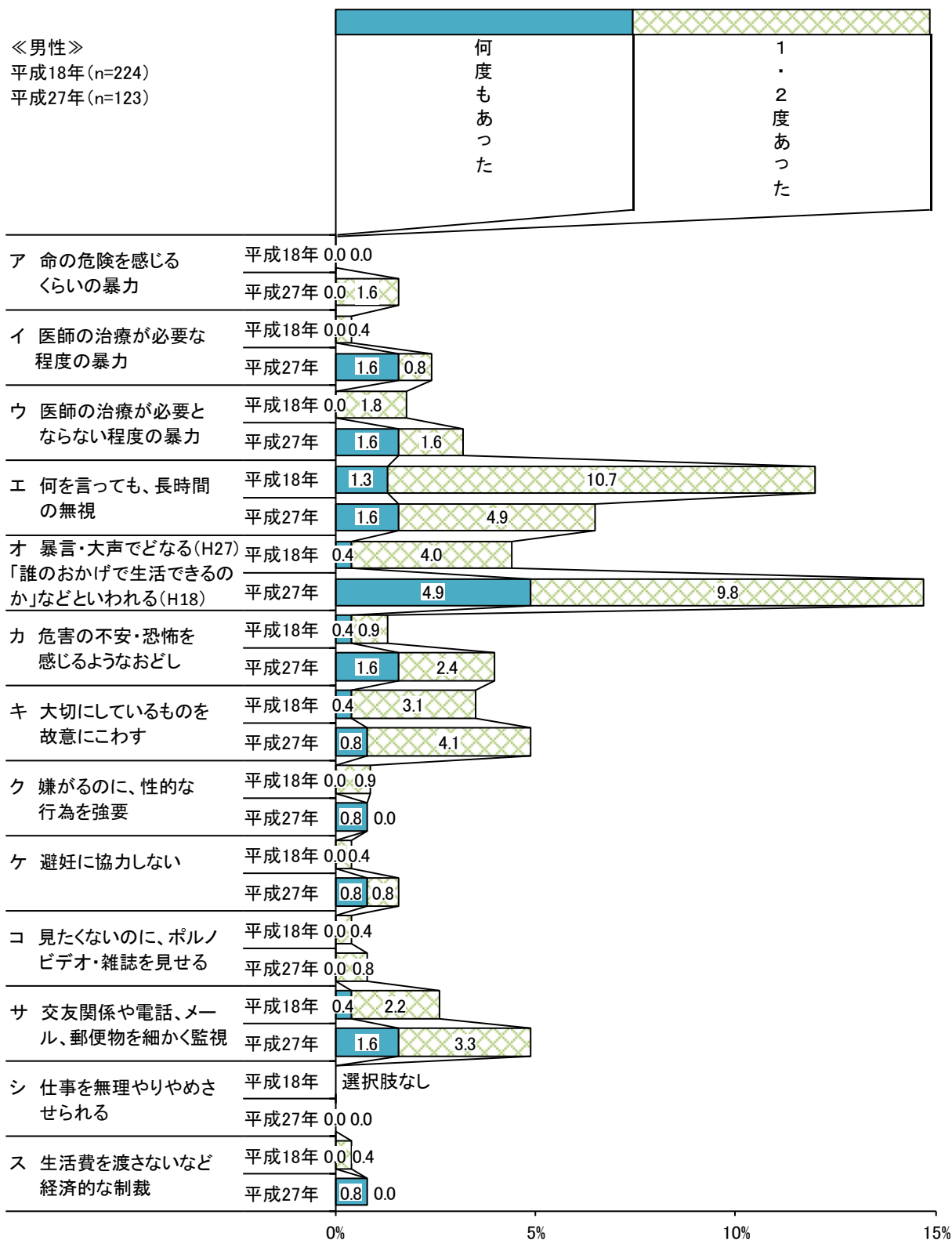
### 【経年比較・女性】

前回調査時から傾向の大きな変化は見られませんが、「ア」、「イ」以外の項目で割合が微増しています。（選択肢「オ」については表現に変更があったため参考値とします）



### 【経年比較・男性】

前回調査時から傾向の大きな変化は見られませんが、「エ」、「ク」以外の項目で割合が微増しています。（選択肢「オ」については表現に変更があったため参考値とします）



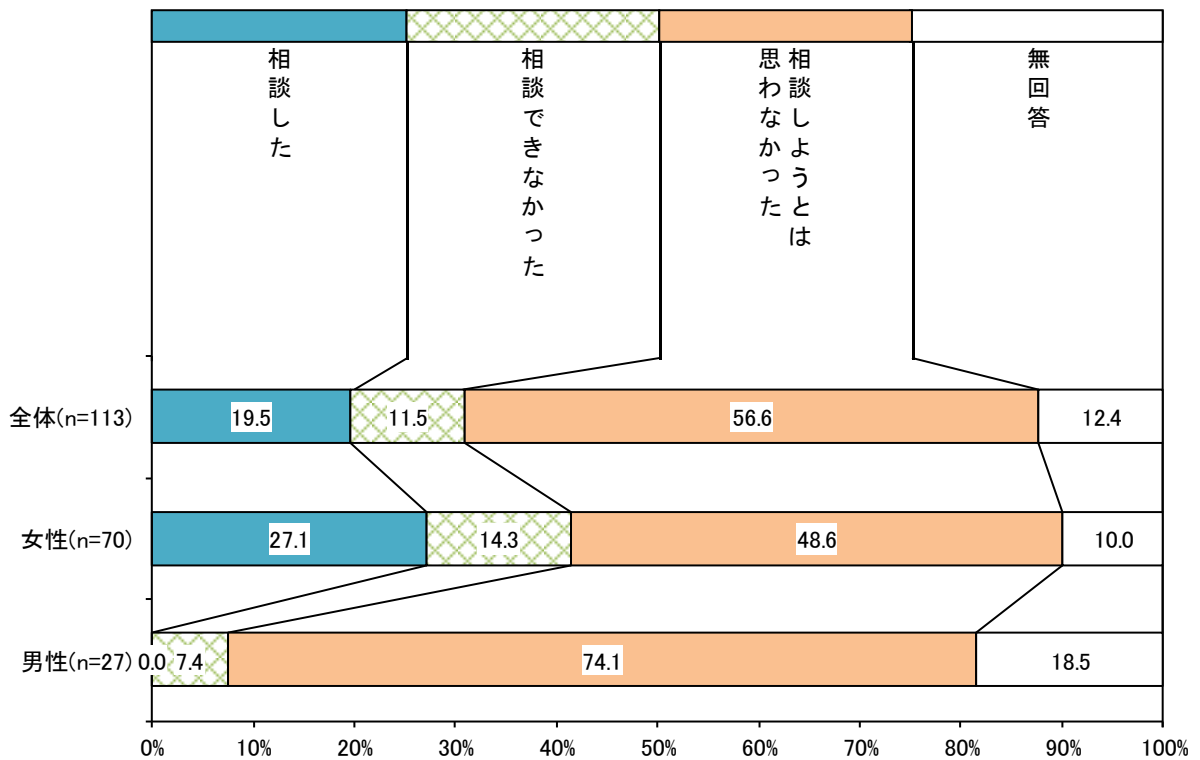
【問14-①】

前問（問14）で1つでも「何度もあった」「1・2度あった」と答えた方

あなたは、その受けた行為に対して、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（〇は1つだけ）

全体では「相談しようとは思わなかった」が56.6%で最も高く、次いで「相談した」が19.5%、「相談できなかった」が11.5%となっています。

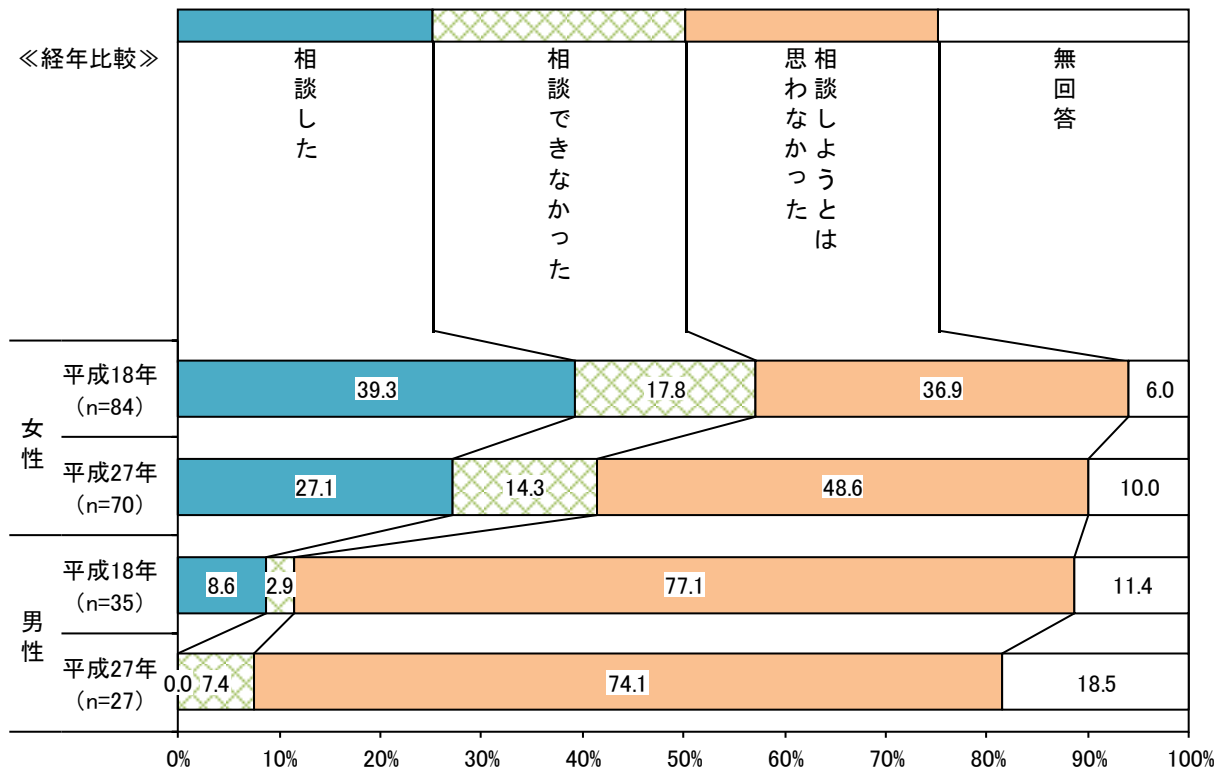
男性では「相談した」が0.0%であるのに対し、女性では27.1%となっています。また、男性では74.1%が「相談しようとは思わなかった」と回答しています。



### 【経年比較】

女性では「相談した」が12.2ポイント低くなり、「相談しようとは思わなかった」が11.7ポイント高くなっています。

男性では「相談した」が8.6ポイント低くなり、「相談できなかった」が4.5ポイント高くなっています。



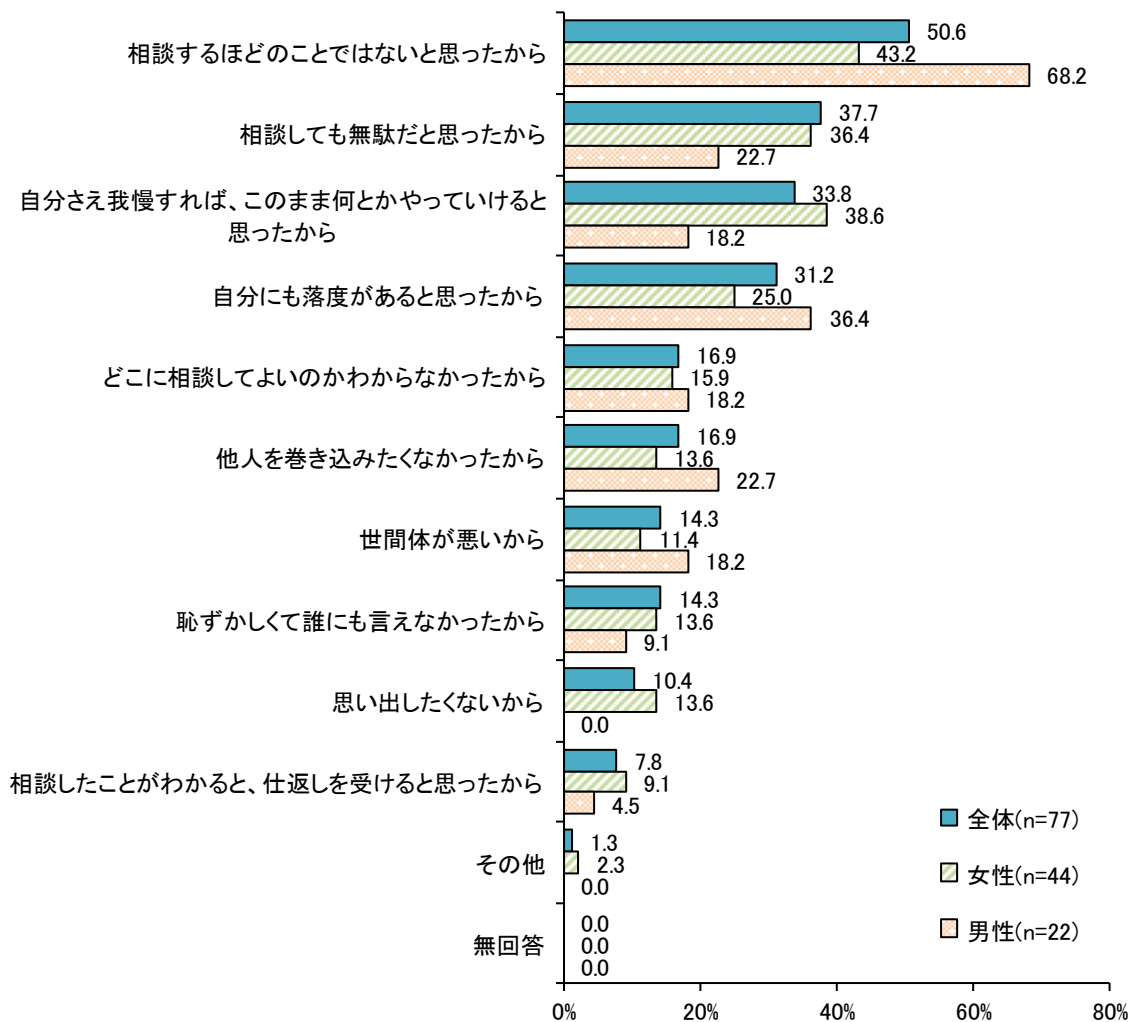
【問14-②】

前問（問14-①）で「2 相談できなかった」「3 相談しようとは思わなかった」と答えた方  
 相談しなかった理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

全体では「相談するほどのことではないと思ったから」が50.6%で最も高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」が37.7%、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていたから」が33.8%、「自分にも落度があると思ったから」が31.2%と続いています。

女性では「相談しても無駄だと思ったから」、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていたから」、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」、「思い出したくないから」、「相談したことがわかると、仕返しを受けると思ったから」が男性と比較すると高い割合を占めています。

男性では「相談するほどのことではないと思ったから」が68.2%を占めています。

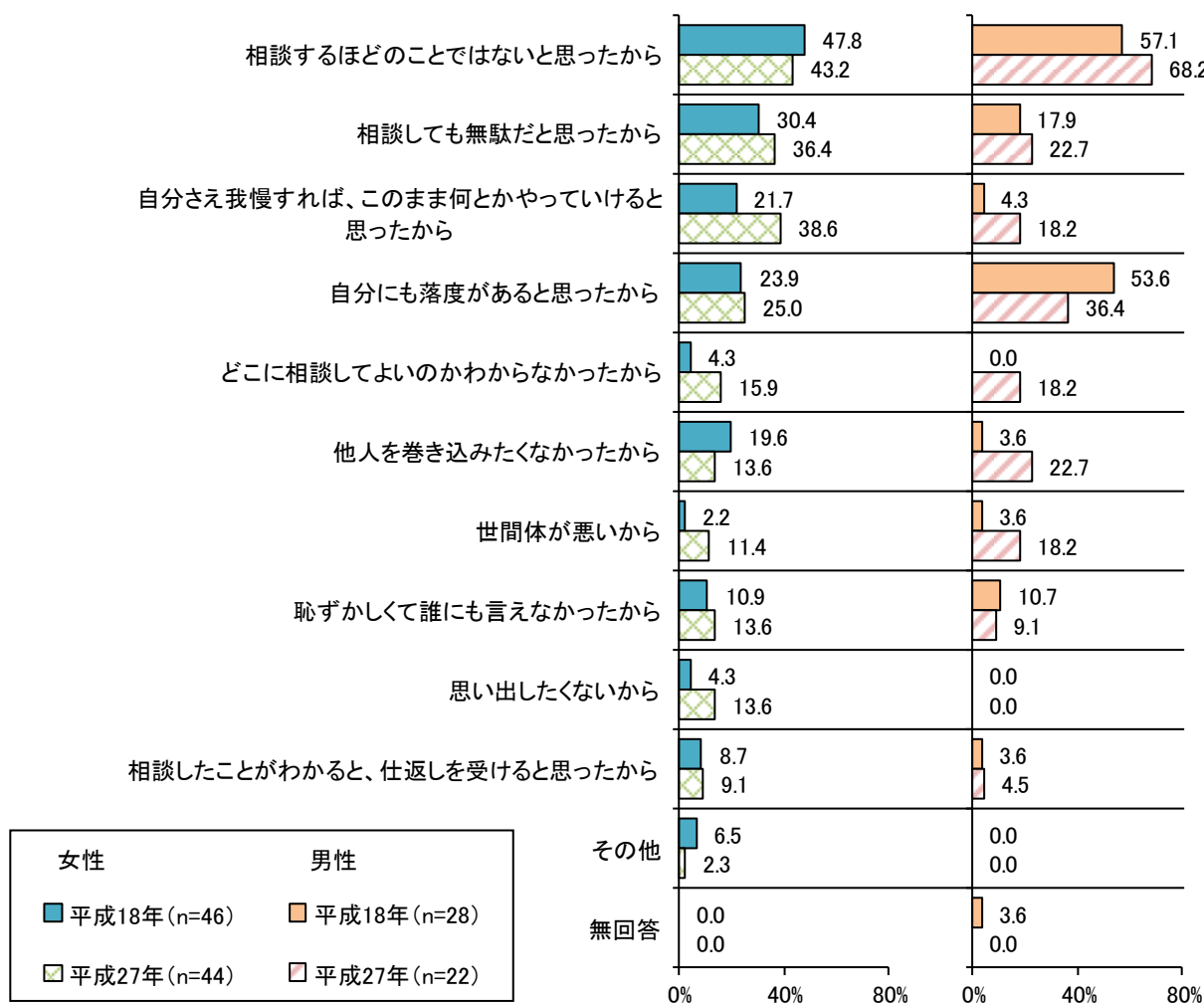


### 【経年比較】

女性では「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていけると思ったから」が前回調査時より16.9ポイント高くなっています。次いで「どこに相談してよいのかわからなかったから」が11.6ポイント、「思い出したくないから」が9.3ポイント高くなっています。

一方、男性では「他人を巻き込みたくなかったから」が前回調査時より19.1ポイント高くなっています。次いで「どこに相談してよいのかわからなかったから」が18.2ポイント、「世間体が悪いから」が14.6ポイント高くなっています。

男女ともに「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていけると思ったから」、「どこに相談してよいのかわからなかったから」が10ポイント以上高くなっています。

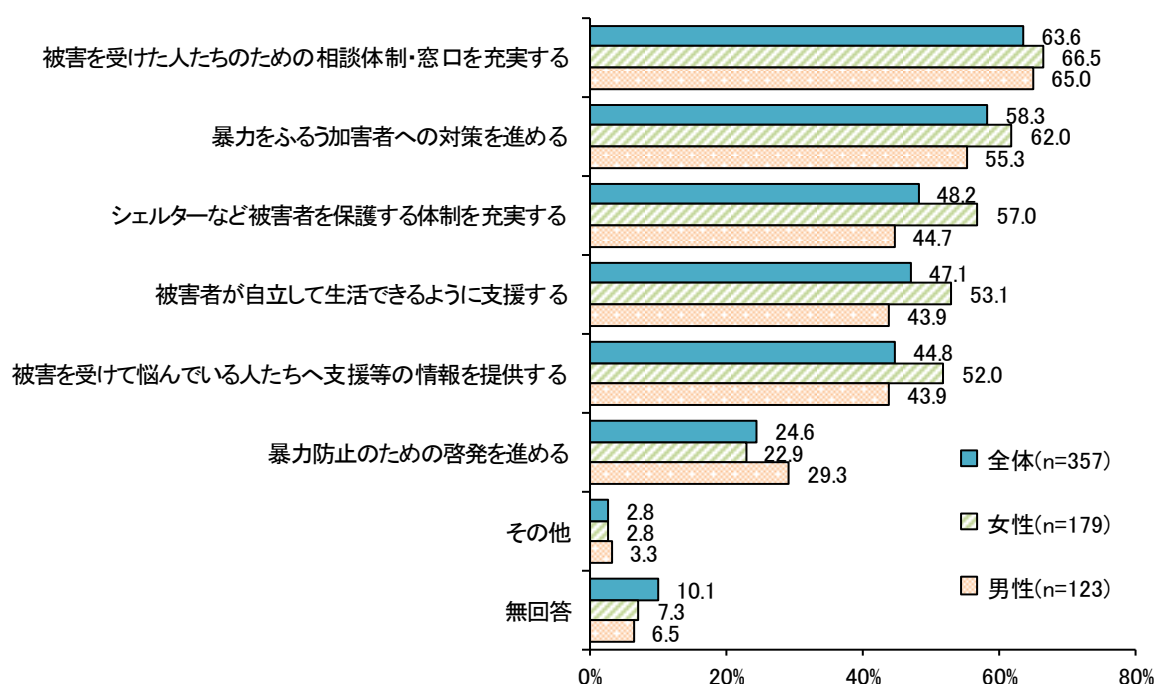


【問15】

あなたは、配偶者等から暴力を受けた人への取り組みとして、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では「被害を受けた人たちのための相談体制・窓口を充実する」が63.6%で最も高く、次いで「暴力をふるう加害者への対策を進める」が58.3%、「シェルターなど被害者を保護する体制を充実する」が48.2%、「被害者が自立して生活できるように支援する」が47.1%と続いています。

性別により異なる傾向は見られませんが、上位5項目はいずれも女性が男性の割合を上回っています。



## 5 地域での社会参画について

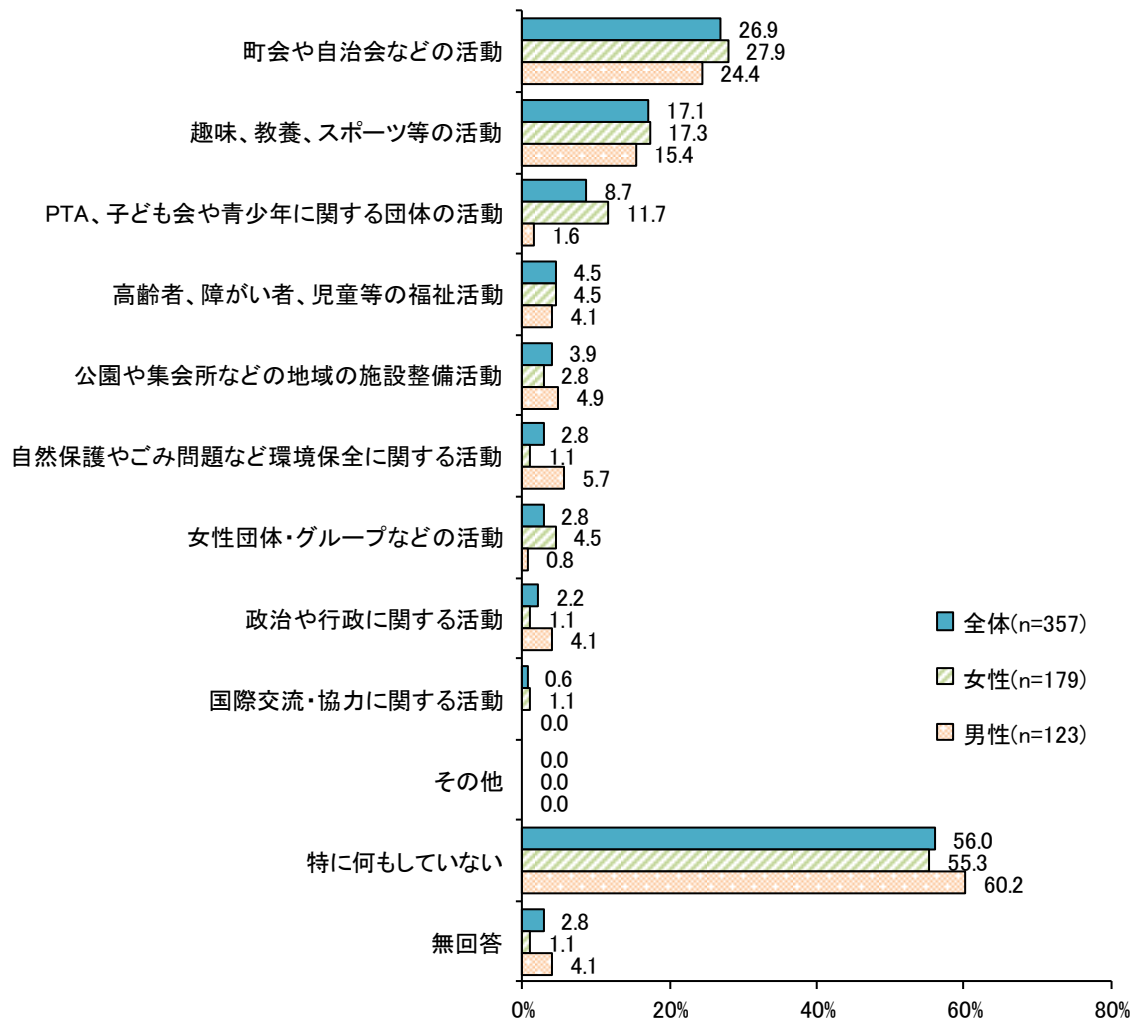
### 【問16】

あなたは現在、次のような地域の活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では「町会や自治会などの活動」が26.9%で最も高く、次いで「趣味、教養、スポーツ等の活動」が17.1%、「PTA、子ども会や青少年に関する団体の活動」が8.7%と続いています。

なお、「特に何もしていない」は56.0%となっています。

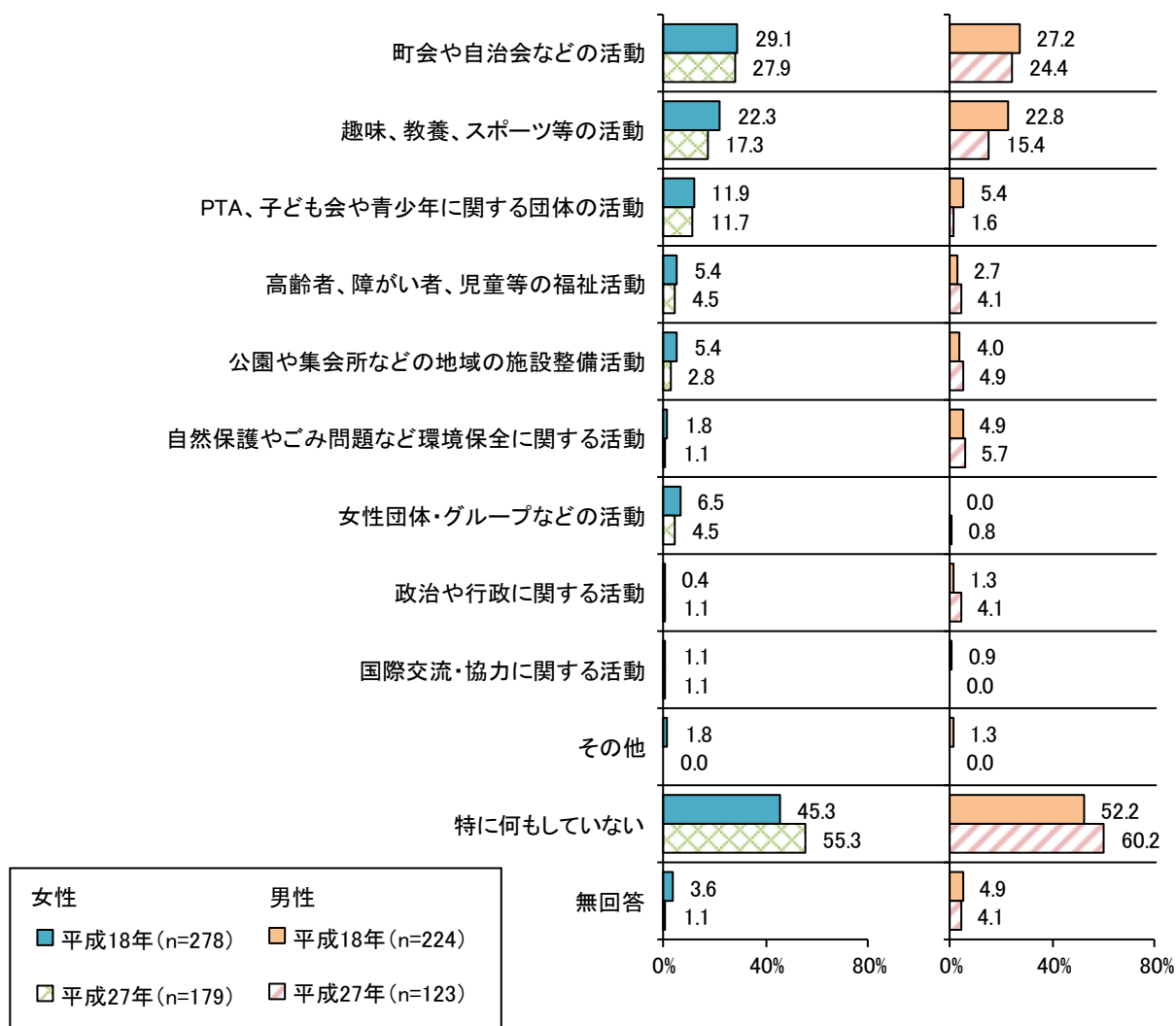
女性では「PTA、子ども会や青少年に関する団体の活動」が11.7%となっていますが、男性ではわずか1.6%となっています。





### 【経年比較】

経年比較では、男女ともに上位3項目は減少傾向にあり、「特に何もしていない」は女性では10.0ポイント低くなり、男性でも8.0ポイント低くなっています。



## 【年代】

20歳代では「町会や自治会などの活動」、「趣味、教養、スポーツ等の活動」、「PTA、子ども会や青少年に関する団体の活動」の上位3項目がいずれも10%未満となっており、「特に何もしていない」が83.7%を占めています。

30歳代以上では、いずれの年代も「町会や自治会などの活動」がおおよそ3割を占めており、60歳代と70歳以上では「趣味、教養、スポーツ等の活動」も同様におおよそ3割を占めています。

《年代》

単位：%

	町会や自治会などの活動	趣味、教養、スポーツ等の活動	PTA、子ども会や青少年に関する団体の活動	高齢者、障がい者、児童等の福祉活動	公園や集会所などの地域の施設整備活動	自然保護やごみ問題など環境保全に関する活動	女性団体・グループなどの活動	政治や行政に関する活動	国際交流・協力に関する活動	その他	特に何もしていない	無回答
全体(n=357)	26.9	17.1	8.7	4.5	3.9	2.8	2.8	2.2	0.6	-	56.0	2.8
20歳代(n=43)	4.7	4.7	7.0	2.3	-	-	-	-	-	-	83.7	-
30歳代(n=63)	28.6	12.7	14.3	1.6	-	-	3.2	1.6	-	-	58.7	-
40歳代(n=64)	31.3	15.6	20.3	4.7	6.3	1.6	1.6	3.1	1.6	-	51.6	3.1
50歳代(n=82)	30.5	13.4	3.7	1.2	6.1	1.2	-	3.7	-	-	62.2	1.2
60歳代(n=52)	28.8	30.8	3.8	7.7	3.8	5.8	3.8	-	-	-	42.3	7.7
70歳以上(n=51)	31.4	27.5	2.0	11.8	5.9	9.8	9.8	3.9	2.0	-	39.2	3.9

【問16-①】

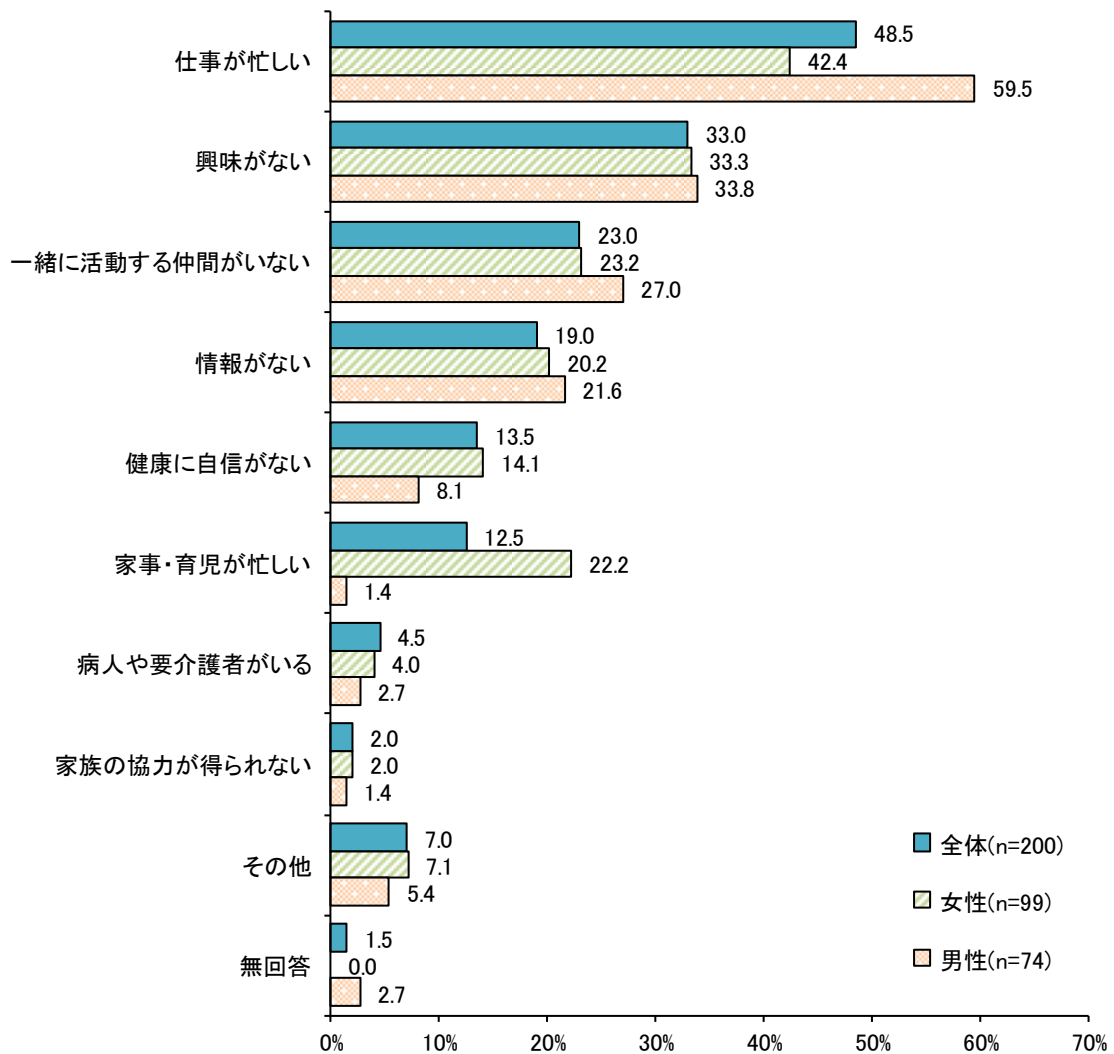
前問（問16）で「11 特に何もしていない」と答えた方

それはどのような理由からですか。（あてはまるものすべてに○）

全体では「仕事が忙しい」が48.5%で最も高く、次いで「興味がない」が33.0%、「一緒に活動する仲間がない」が23.0%、「情報がない」が19.0%と続いています。

女性では「家事・育児が忙しい」が22.2%となっており、男性より20.8ポイント高くなっています。

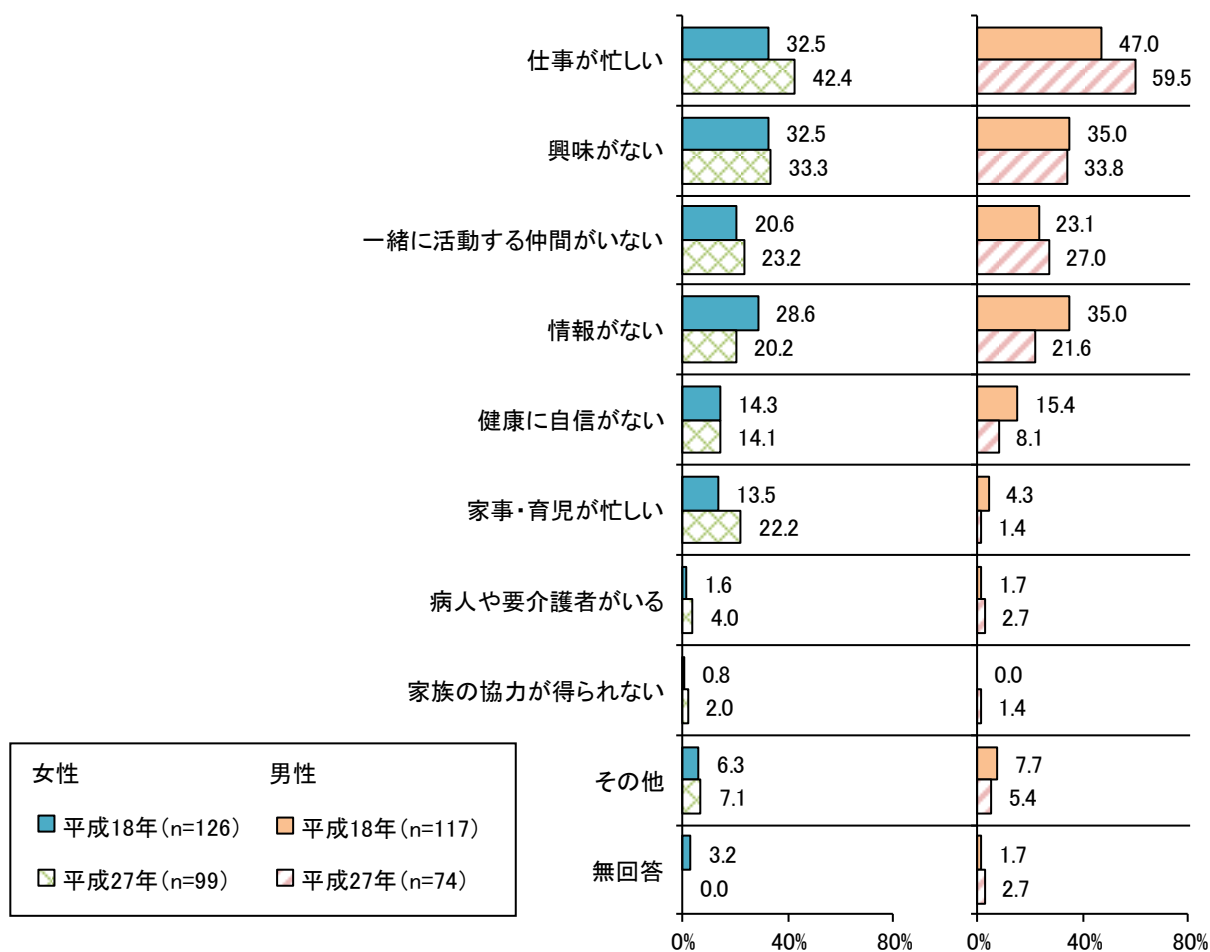
一方、男性では「仕事が忙しい」が59.5%で最も高く、女性より17.1ポイント高くなっています。



### 【経年比較】

経年比較では、男女ともに「仕事が忙しい」が前回調査時より高くなっており、女性では 9.9 ポイント、男性では 12.5 ポイント高くなっています。また、女性では「家事・育児が忙しい」も前回調査時より 8.7 ポイント高くなっています。

逆に、「情報がない」は男女ともに前回調査時より低くなっており、女性では 8.4 ポイント、男性では 13.4 ポイント低くなっています。



## 【年代】

20 歳代～50 歳代で「仕事が忙しい」が比較的高くなっています。特に 50 歳代では 66.7%を占めています。

年代が高くなるにしたがって「健康に自信がない」、「病人や要介護者がいる」が高くなっています。

逆に、20 歳代～40 歳代では「家事・育児が忙しい」が高くなっており、特に 30 歳代では 24.3%を占めています。

《年代》

単位：%

	仕事が忙しい	興味が無い	一緒に活動する仲間がいない	情報が無い	健康に自信がない	家事・育児が忙しい	病人や要介護者がいる	家族の協力が得られない	その他	無回答
全体(n=200)	48.5	33.0	23.0	19.0	13.5	12.5	4.5	2.0	7.0	1.5
20歳代(n=36)	52.8	50.0	13.9	16.7	8.3	16.7	-	-	2.8	-
30歳代(n=37)	48.6	35.1	27.0	27.0	8.1	24.3	2.7	-	-	-
40歳代(n=33)	54.5	24.2	21.2	15.2	12.1	18.2	3.0	3.0	12.1	-
50歳代(n=51)	66.7	27.5	25.5	21.6	13.7	5.9	5.9	3.9	5.9	-
60歳代(n=22)	36.4	13.6	31.8	27.3	18.2	4.5	4.5	-	13.6	9.1
70歳以上(n=20)	-	50.0	20.0	-	25.0	-	15.0	5.0	15.0	5.0

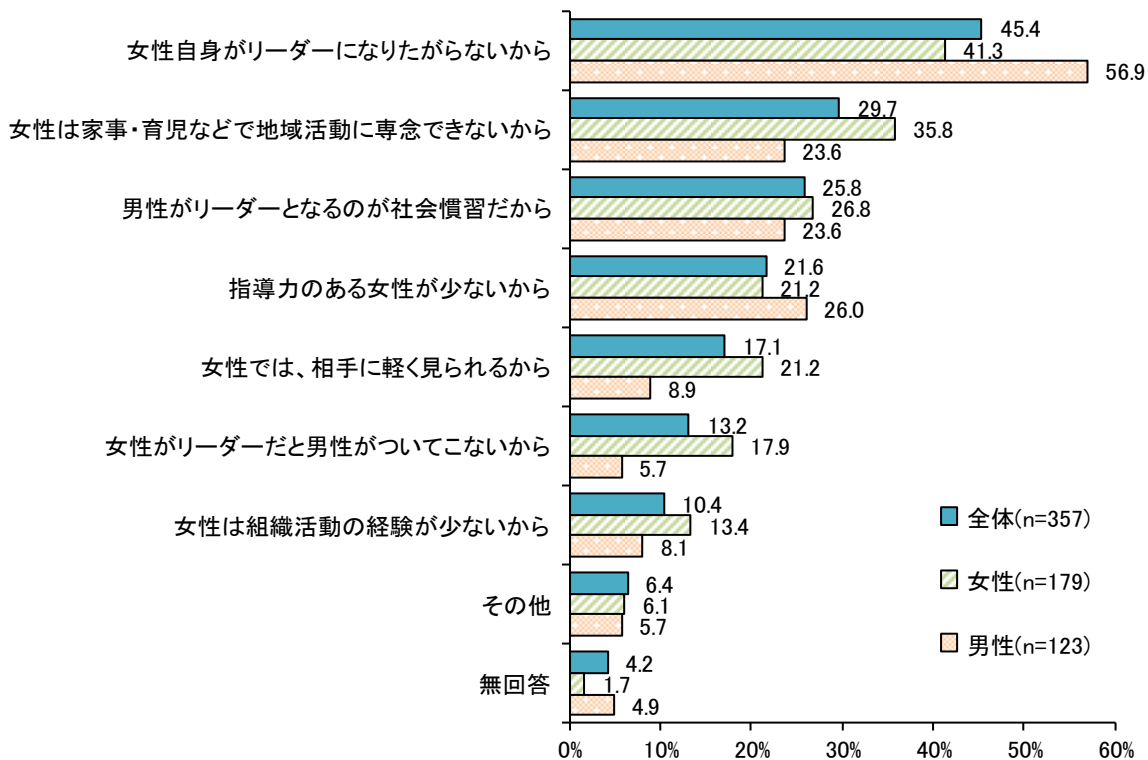
【問17】

地域活動の担い手は、女性が多い傾向にありますが、会長やリーダーに女性が少ない原因は何だと思いますか。(〇は2つまで)

全体では「女性自身がリーダーになりたがらないから」が45.4%で最も高く、次いで「女性は家事・育児などで地域活動に専念できないから」が29.7%、「男性がリーダーとなるのが社会慣習だから」が25.8%、「指導力のある女性が少ないから」が21.6%と続いています。

女性では「女性は家事・育児などで地域活動に専念できないから」、「女性では、相手に軽く見られるから」、「女性がリーダーだと男性がついてこないから」が男性と比較すると10ポイント以上高くなっています。

男性では「女性自身がリーダーになりたがらないから」が56.9%で最も高く、女性と比較すると15.6ポイント高くなっています。



## 【年代】

いずれの年代においても「女性自身がリーダーになりたがらないから」が最も高く、特に70歳以上では54.9%を占めています。

20歳代と30歳代では「男性がリーダーとなるのが社会慣習だから」、「女性では、相手に軽く見られるから」、「女性がリーダーだと男性がついてこないから」の割合が比較的高くなっています。

《年代》

単位：%

	女性自身がリーダーになりたがらないから	女性は家事・育児などで地域活動に専念できないから	男性がリーダーとなるのが社会慣習だから	指導力のある女性が少ないから	女性では、相手に軽く見られるから	女性がリーダーだと男性がついてこないから	女性は組織活動の経験が少ないから	その他	無回答
全体(n=357)	45.4	29.7	25.8	21.6	17.1	13.2	10.4	6.4	4.2
20歳代(n=43)	37.2	30.2	32.6	20.9	30.2	18.6	11.6	4.7	-
30歳代(n=63)	44.4	25.4	27.0	19.0	23.8	25.4	9.5	3.2	-
40歳代(n=64)	42.2	29.7	26.6	23.4	18.8	12.5	3.1	10.9	3.1
50歳代(n=82)	47.6	32.9	26.8	19.5	9.8	12.2	13.4	8.5	2.4
60歳代(n=52)	46.2	34.6	19.2	21.2	15.4	7.7	11.5	3.8	9.6
70歳以上(n=51)	54.9	23.5	23.5	27.5	9.8	2.0	13.7	5.9	9.8

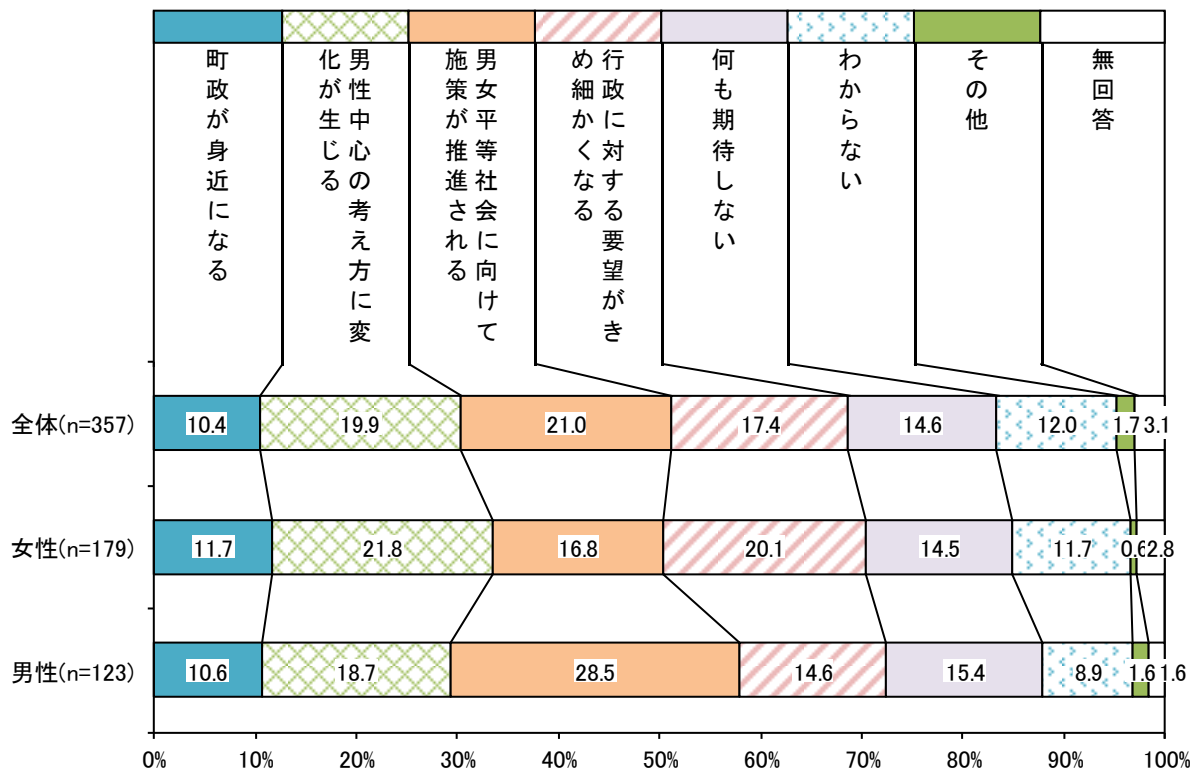
【問18】

国の目標では指導的立場に女性が占める割合を2020年までに30%となっています。三芳町の政策・方針を決定する審議会等の女性委員の割合は、24.1%（平成26年4月1日現在）です。これらの分野に女性の参画が進むことによって、社会がどうなることを期待しますか。（○は1つだけ）

全体では「男女平等社会に向けて施策が推進される」が21.0%で最も高く、次いで「男性中心の考え方に变化が生じる」が19.9%、「行政に対する要望がきめ細かくなる」が17.4%、「何も期待しない」が14.6%と続いています。

女性では「男性中心の考え方に变化が生じる」が21.8%で最も高く、次いで「行政に対する要望がきめ細かくなる」が20.1%となっており、いずれも男性と比較すると高くなっています。

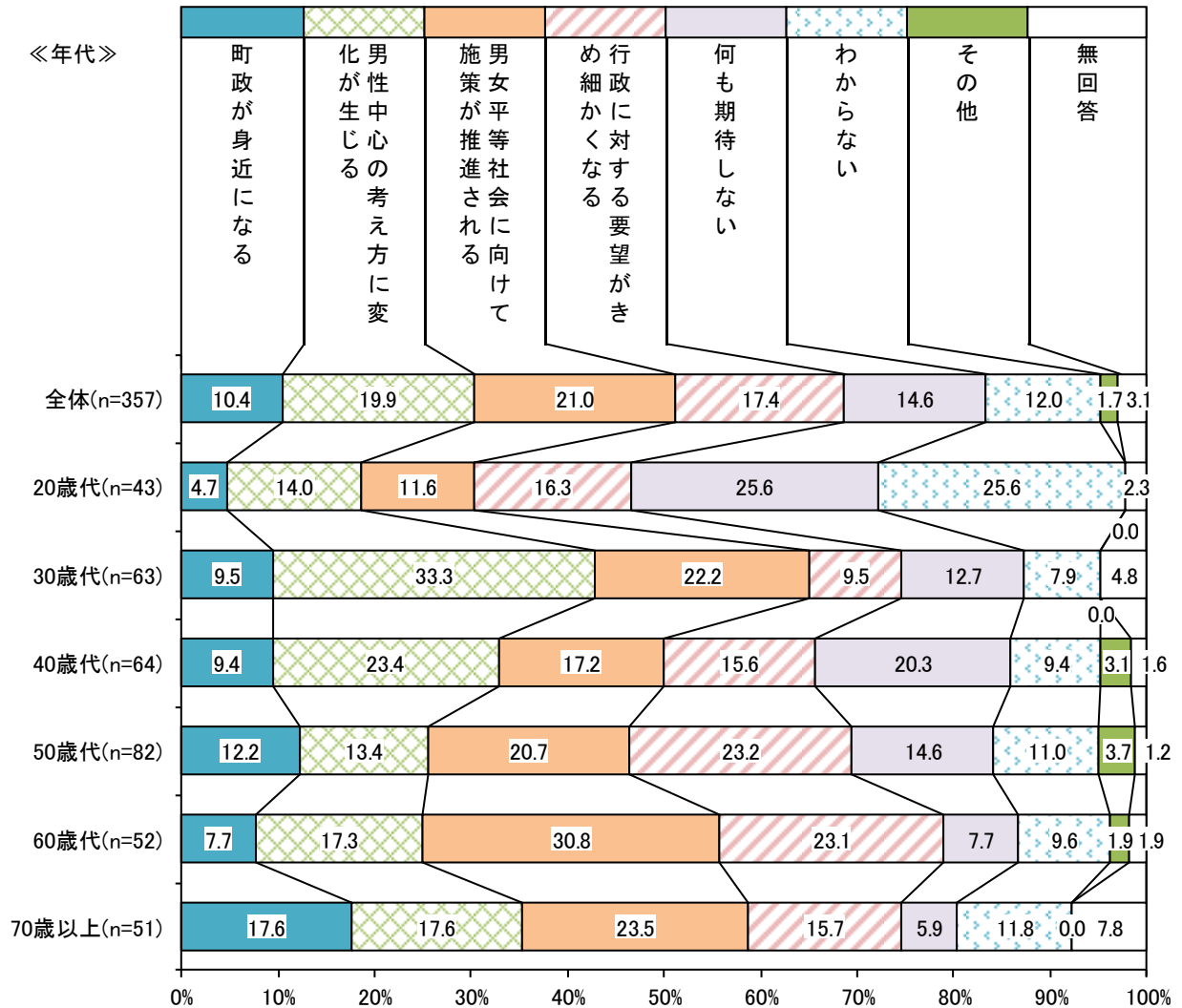
一方、男性では「男女平等社会に向けて施策が推進される」が28.5%で最も高くなっており、女性より11.7ポイント高くなっています。





### 【年代】

20歳代では「何も期待しない」と「わからない」がともに25.6%で最も高くなっており、他の年代と傾向が異なります。



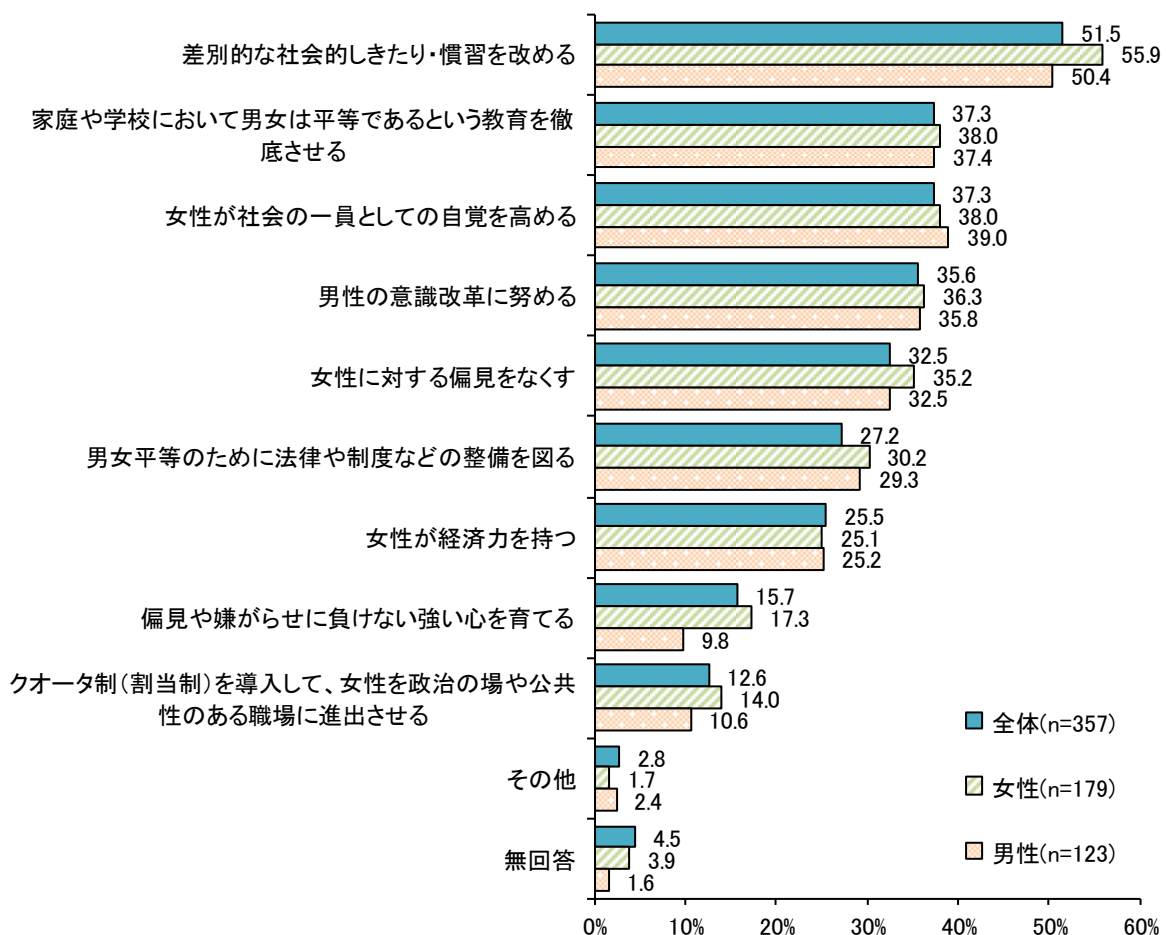
## 6 男女共同参画社会に向けた取り組みについて

### 【問19】

あなたは、男女共同参画社会（男女が対等な立場で、社会のあらゆる活動に共に参画し、責任を分かち合う社会）の実現に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

全体では「差別的な社会的しきたり・慣習を改める」が51.5%で最も高く、次いで「家庭や学校において男女は平等であるという教育を徹底させる」が37.3%、「女性が社会の一員としての自覚を高める」が37.3%、「男性の意識改革に努める」が35.6%と続いています。

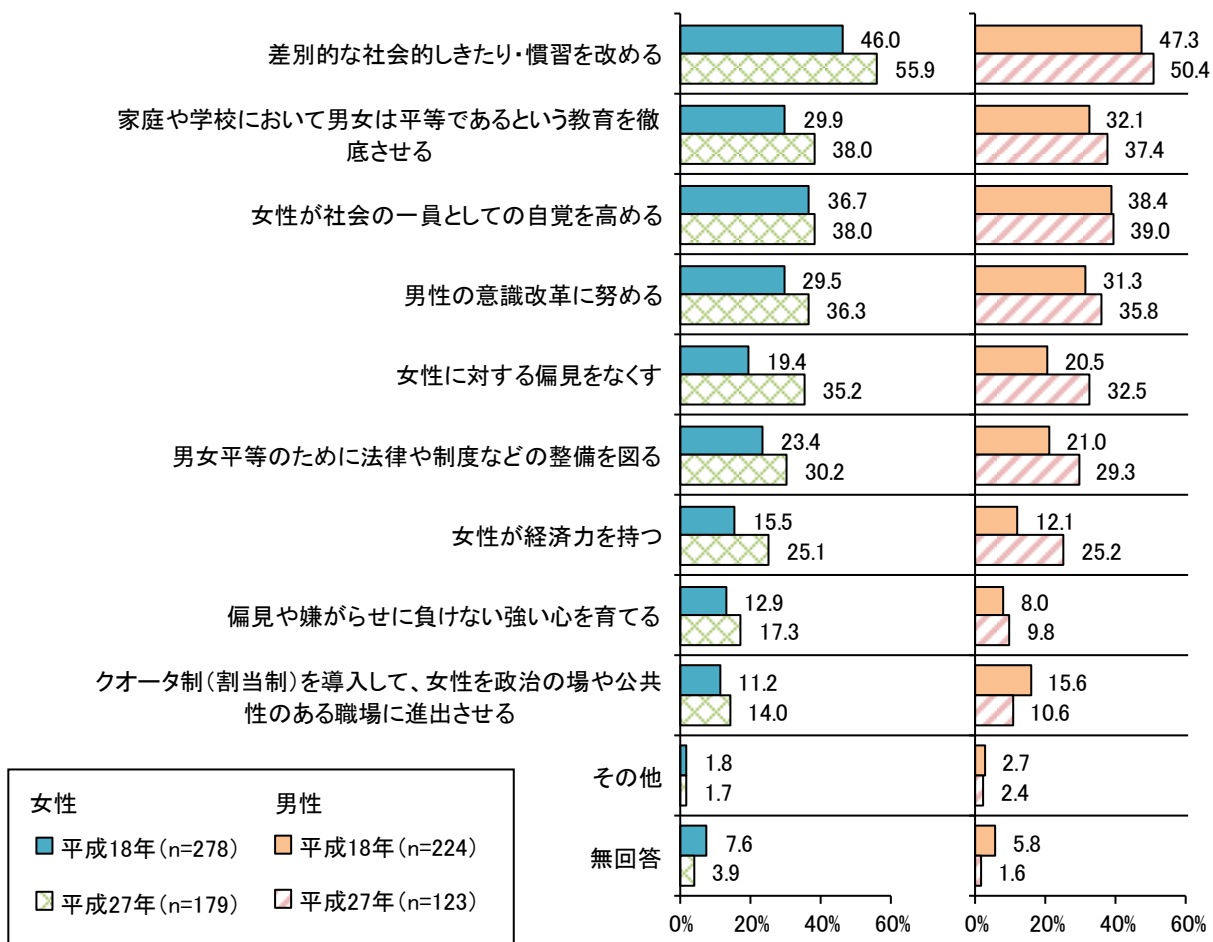
男女ともに「差別的な社会的しきたり・慣習を改める」が過半数を占めており、性別による傾向の大きな差は見られません。



## 【経年比較】

男女ともに全体的に前回調査時より割合が高くなっており、女性では「女性に対する偏見をなくす」が前回調査時より 15.8 ポイント高くなっています。また、「差別的な社会的しきたり・慣習を改める」が 9.9 ポイント、「女性が経済力を持つ」が 9.6 ポイント高くなっています。

男性の経年比較では「女性が経済力を持つ」が前回調査時より 13.1 ポイント高くなっています。また、「女性に対する偏見をなくす」が 12.0 ポイント、「男女平等のために法律や制度などの整備を図る」が 8.3 ポイント高くなっています。



【年代】

20 歳代から 60 歳代では「差別的な社会的しきたり・慣習を改める」が最も高くなっており、50 歳代以外は過半数を占めています。

一方、70 歳以上では「女性が社会の一員としての自覚を高める」が最も高く、過半数を占めています。

《年代》

単位：%

	差別的な社会的しきたり・慣習を改める	家庭や学校において男女は平等であるという教育を徹底させる	女性が社会の一員としての自覚を高める	男性の意識改革に努める	女性に対する偏見をなくす	男女平等のために法律や制度などの整備を図る	女性が経済力を持つ	偏見や嫌がらせに負けない強い心を育てる	クオータ制(割当制)を導入して、女性を政治の場や公共性のある職場に進出させる	その他	無回答
全体(n=357)	51.5	37.3	37.3	35.6	32.5	27.2	25.5	15.7	12.6	2.8	4.5
20歳代(n=43)	53.5	37.2	25.6	27.9	27.9	27.9	20.9	27.9	9.3	2.3	2.3
30歳代(n=63)	52.4	36.5	39.7	41.3	36.5	27.0	27.0	12.7	14.3	1.6	1.6
40歳代(n=64)	56.3	37.5	35.9	35.9	28.1	31.3	26.6	7.8	12.5	6.3	3.1
50歳代(n=82)	47.6	36.6	37.8	40.2	29.3	28.0	23.2	8.5	9.8	2.4	2.4
60歳代(n=52)	51.9	44.2	30.8	28.8	32.7	30.8	32.7	23.1	21.2	3.8	7.7
70歳以上(n=51)	49.0	33.3	52.9	33.3	41.2	17.6	23.5	19.6	9.8	-	11.8

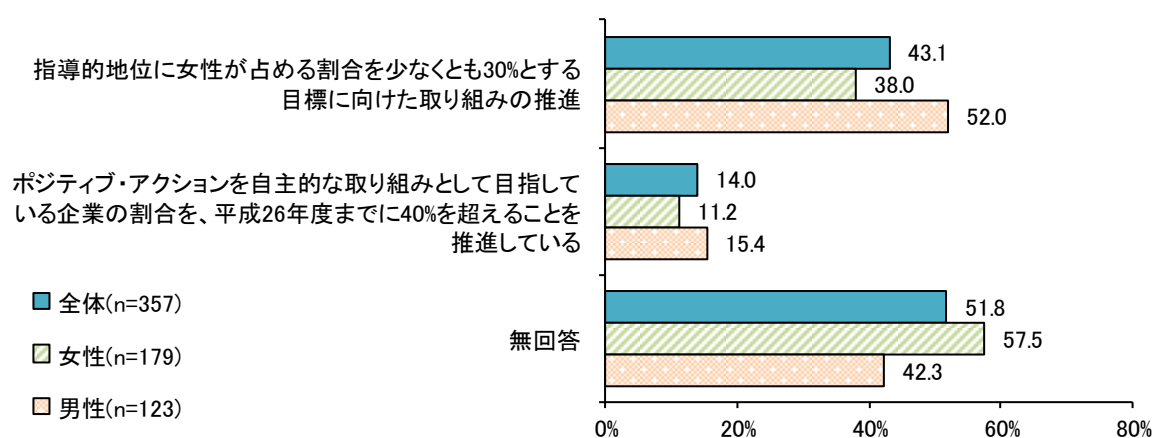
【問20】

政府は次のような男女共同参画についての方針を出していますが、聞いたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では「指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%とする目標に向けた取り組みの推進」が43.1%、「ポジティブ・アクションを自主的な取り組みとして目指している企業の割合を、平成26年度までに40%を超えることを推進している」が14.0%となっています。

いずれも男性の方が女性よりも認知度が高くなっています。

年代では、20歳代で認知度が低くなっています。



《年代》

単位: %

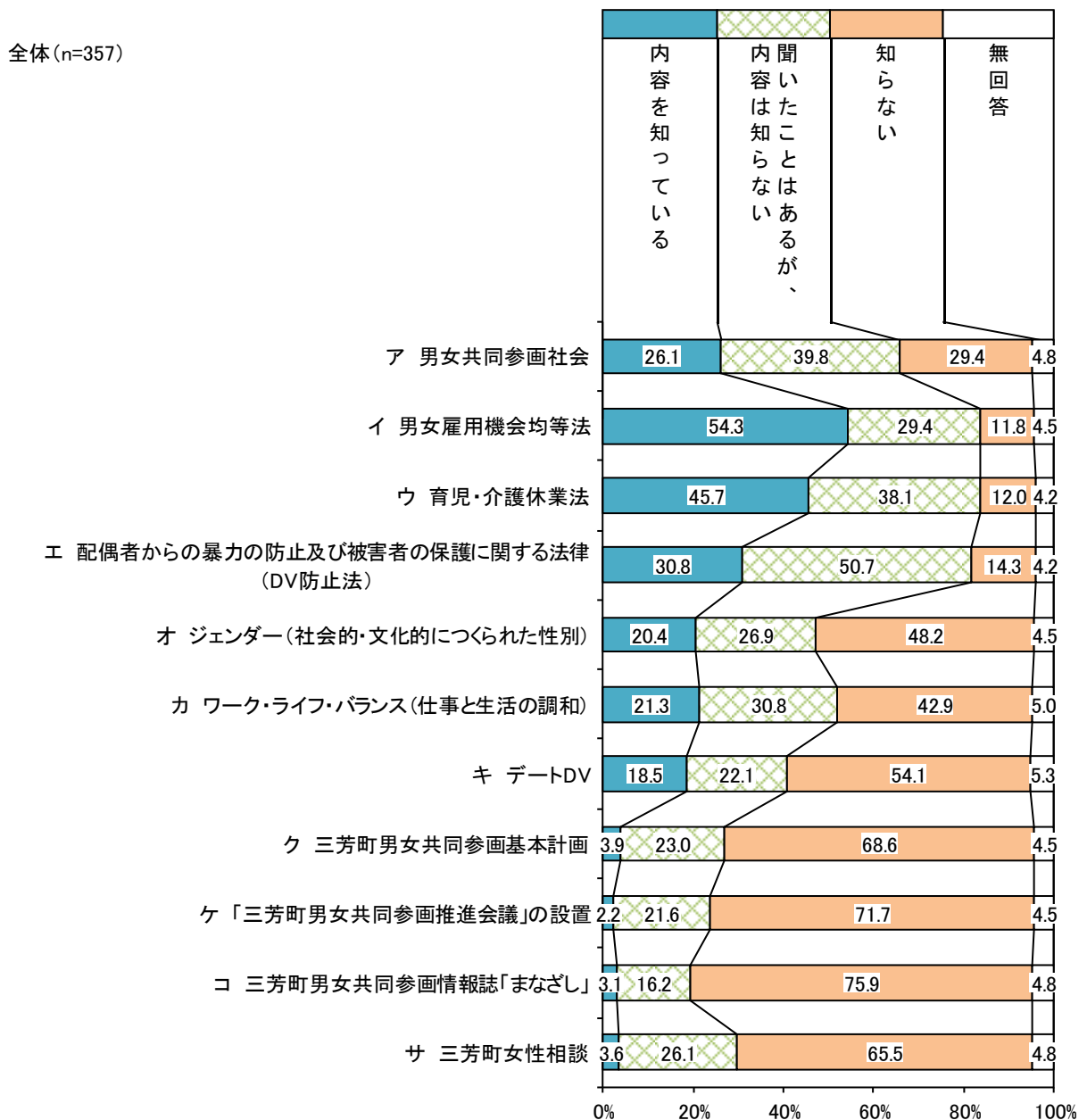
年代	指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%とする目標に向けた取り組みの推進	ポジティブ・アクションを自主的な取り組みとして目指している企業の割合を、平成26年度までに40%を超えることを推進している	無回答
全体(n=357)	43.1	14.0	51.8
20歳代(n=43)	25.6	11.6	69.8
30歳代(n=63)	49.2	6.3	49.2
40歳代(n=64)	46.9	15.6	46.9
50歳代(n=82)	40.2	13.4	54.9
60歳代(n=52)	46.2	13.5	50.0
70歳以上(n=51)	49.0	25.5	41.2

【問21】

次にあげる（ア）～（サ）の言葉について、あなたの知っているものはどれですか。（〇はそれぞれ1つ）

全体について、「内容を知っている」では「イ 男女雇用機会均等法」が54.3%で最も高く、次いで「ウ 育児・介護休業法」が45.7%、「エ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」が30.8%、「ア 男女共同参画社会」が26.1%と続いています。

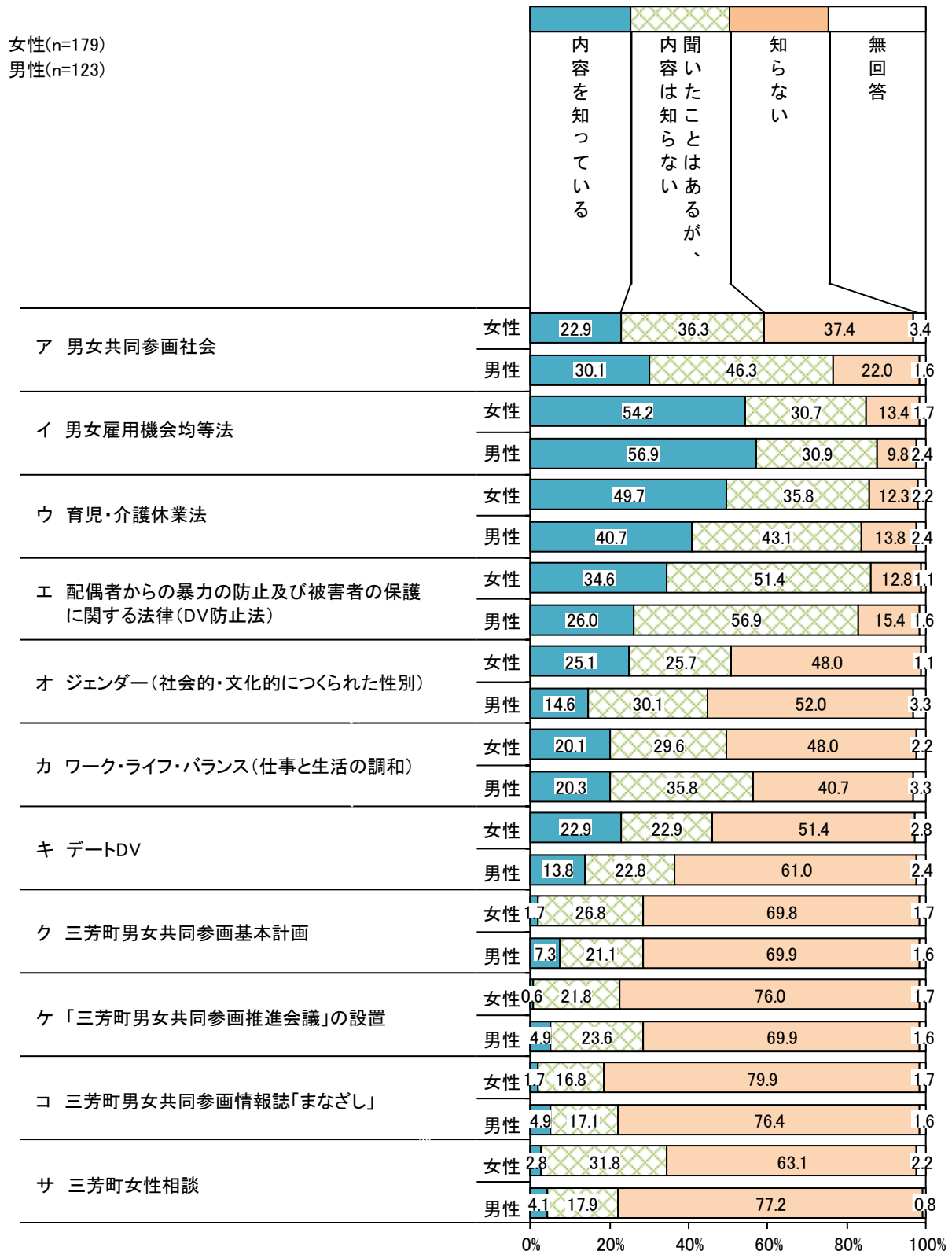
逆に、「ク」～「サ」の町の計画等については、「知らない」がいずれも6割を超え、認知度が低くなっています。



【性別】

「オ ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）」、「キ デートDV」、「ウ 育児・介護休業法」などは女性の認知度が高くなっています。

一方、「ア 男女共同参画社会」、「ク 三芳町男女共同参画基本計画」などは男性の認知度が高くなっています。



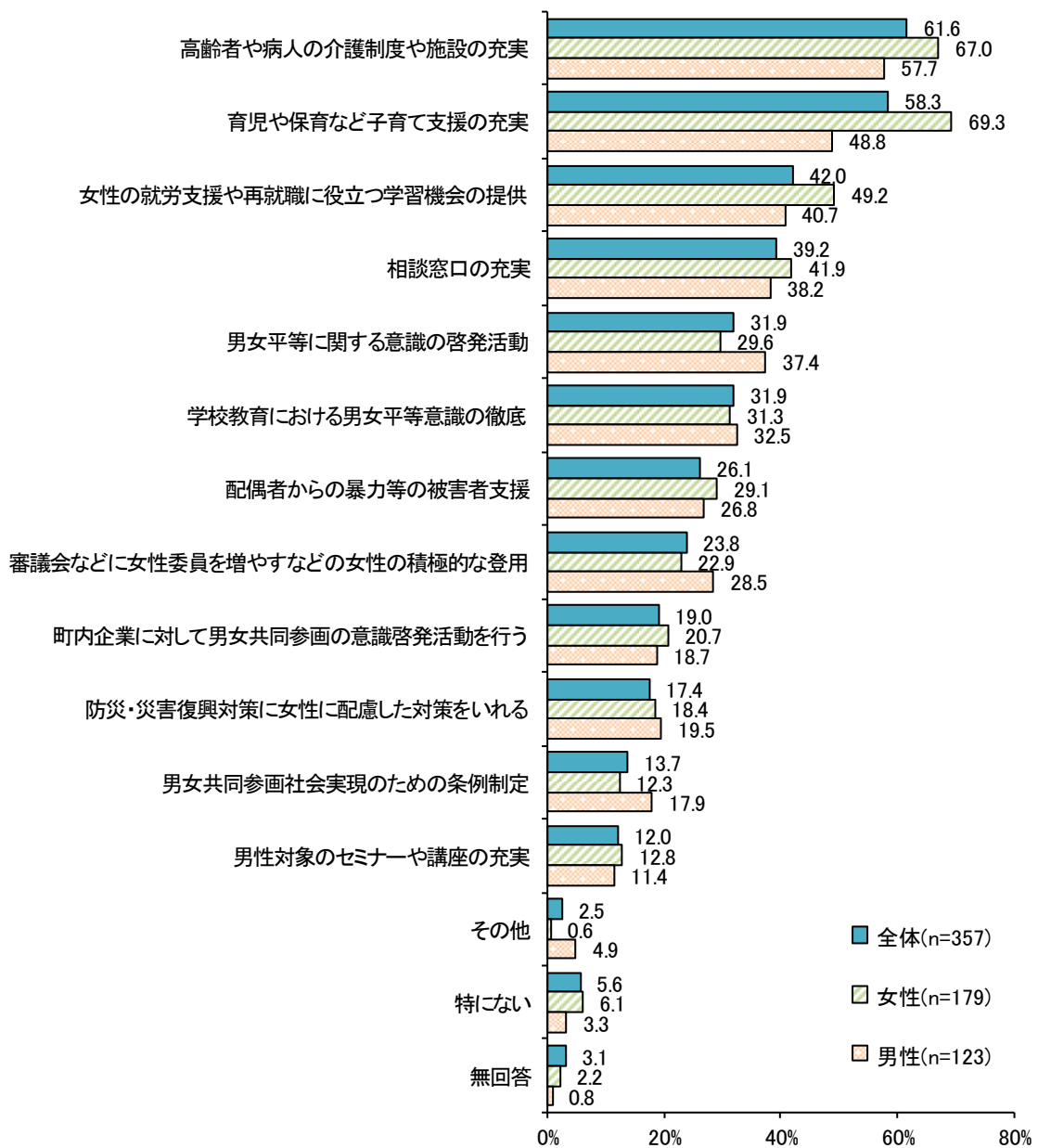
【問22】

今後、三芳町が男女共同参画推進施策としてどのようなことに力をいれていったらよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では「高齢者や病人の介護制度や施設の充実」が61.6%で最も高く、次いで「育児や保育など子育て支援の充実」が58.3%、「女性の就労支援や再就職に役立つ学習機会の提供」が42.0%、「相談窓口の充実」が39.2%と続いています。

女性では「育児や保育など子育て支援の充実」が69.3%で最も高く、男性より20.5ポイント高くなっています。上位4項目ではいずれも男性より高い割合を占めています。

男性では「高齢者や病人の介護制度や施設の充実」が57.7%で最も高くなっています。



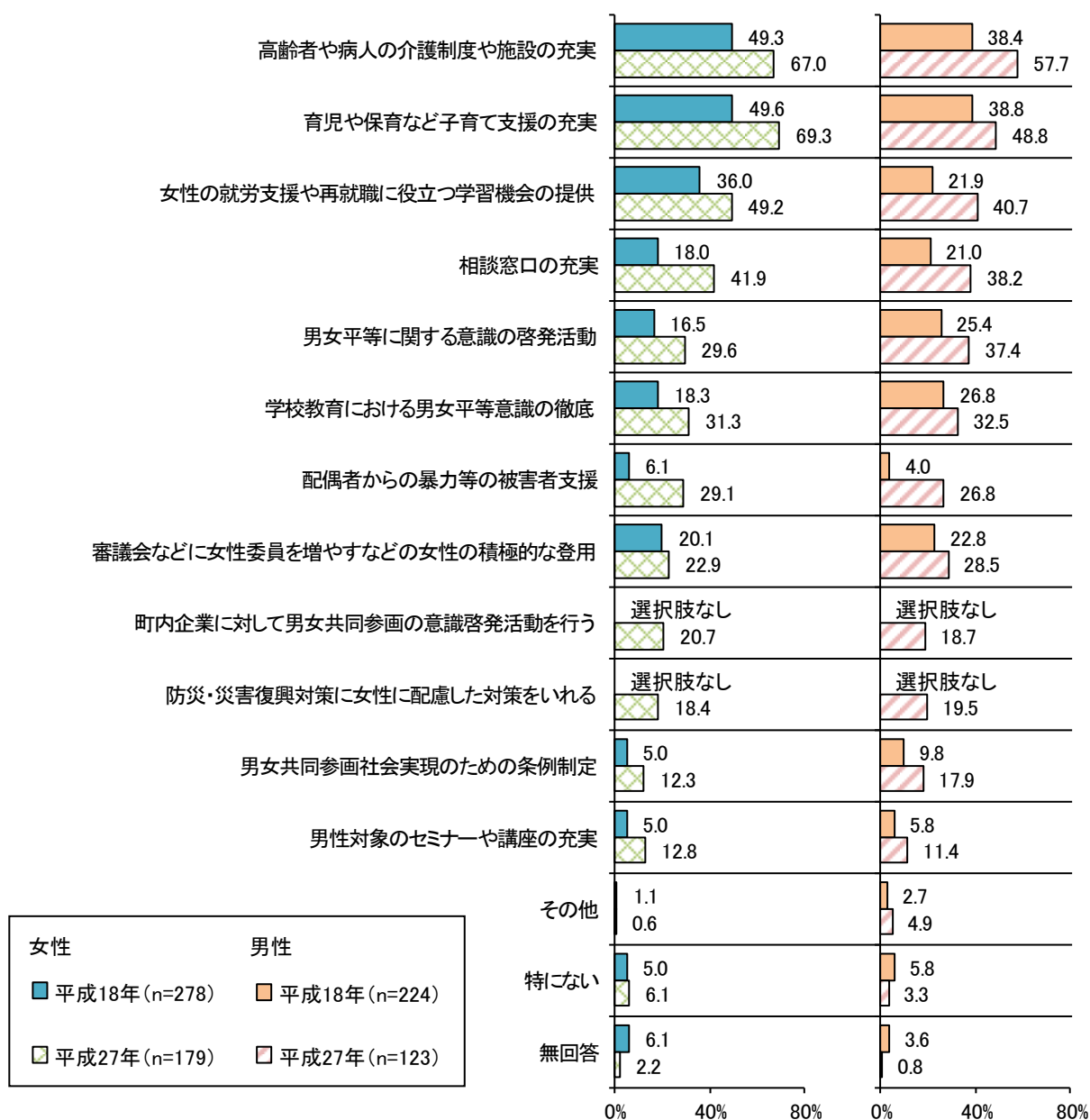


## 【経年比較】

女性では「その他」以外すべての項目、男性ではすべての項目において、前回調査時より割合が高くなっています。

女性では、前回調査時から高くなった順に、「相談窓口の充実」が23.9ポイント増、「配偶者からの暴力等の被害者支援」が23.0ポイント増、「育児や保育など子育て支援の充実」が19.7ポイント増となっています。

男性では、前回調査時から高くなった順に、「配偶者からの暴力等の被害者支援」が22.8ポイント増、「高齢者や病人の介護制度や施設の充実」が19.3ポイント増、「女性の就労支援や再就職に役立つ学習機会の提供」が18.8ポイント増となっています。（「町内企業に対して男女共同参画の意識啓発活動を行う」と「防災・災害復興対策に女性に配慮した対策をいれる」は前回選択肢がなかったため比較対象外としています）



## 【年代】

20歳代から40歳代では「育児や保育など子育て支援の充実」が最も高く、年代が低いほど割合が高くなっており、20歳代では74.4%を占めています。

一方、50歳代以上では「高齢者や病人の介護制度や施設の充実」が最も高く、いずれの年代も6割を超えています。

《年代》

単位：%

	高齢者や病人の介護制度や施設の充実	育児や保育など子育て支援の充実	女性の就労支援や再就職に役立つ学習機会の提供	相談窓口の充実	男女平等に関する意識の啓発活動	学校教育における男女平等意識の徹底	配偶者からの暴力等の被害者支援	審議会などに女性委員を増やすなどの女性の積極的な登用	町内企業に対して男女共同参画の意識啓発活動を行う	防災・災害復興対策に女性に配慮した対策をいれる	男女共同参画社会実現のための条例制定	男性対象のセミナーや講座の充実	その他	特にない	無回答
全体(n=357)	61.6	58.3	42.0	39.2	31.9	31.9	26.1	23.8	19.0	17.4	13.7	12.0	2.5	5.6	3.1
20歳代(n=43)	53.5	74.4	46.5	27.9	25.6	34.9	30.2	25.6	11.6	14.0	9.3	14.0	0.0	0.0	0.0
30歳代(n=63)	58.7	68.3	39.7	38.1	25.4	30.2	25.4	23.8	19.0	11.1	9.5	12.7	1.6	4.8	0.0
40歳代(n=64)	59.4	65.6	48.4	39.1	28.1	35.9	31.3	20.3	15.6	25.0	17.2	14.1	4.7	9.4	1.6
50歳代(n=82)	67.1	52.4	40.2	31.7	29.3	32.9	26.8	24.4	24.4	12.2	11.0	11.0	3.7	7.3	1.2
60歳代(n=52)	63.5	51.9	46.2	53.8	34.6	26.9	25.0	28.8	23.1	21.2	21.2	13.5	1.9	5.8	7.7
70歳以上(n=51)	62.7	39.2	31.4	47.1	51.0	29.4	17.6	21.6	17.6	23.5	15.7	7.8	2.0	3.9	9.8

## **V 自由記述意見**



## 【20歳代】

男女平等は、男と女が同じように仕事をする（社会的・家事・育児）ということだけでなく、男にしかできない事、女にしかできない事があるということを考慮したうえでの主張でなければならぬという事を啓発するべきだと思う。（女性・上富地区）

三芳町上富出身の私ですが、地域柄男女平等というのが意識としては低いのかなと思うことがあります。しかし一方で、そのような意識が低い方は年配の方に多いと感じます。私の同年代には少ないのではないのでしょうか。とても難しい問題で、アンケートに回答するにあたり様々なことを考えましたが、若い方はあまり男女不平等に考えていないと思います。（女性・上富地区）

妊娠して仕事を辞めた。空気に気まづくなった。7年働いていたので続けたかった。どの会社ももっと育休・産休を取りやすい環境にしてほしい。あと、1年の産休期間は短い。3才までほしい。4才から条件つきで働きたい。例えば定時で帰れるとか。（女性・北永井地区）

女性は子どもを産む性なので、子育てをする負担がかかりがち。保育所の増設、整備が必要。（女性・藤久保地区）

男女平等。とても良いと思いますが、今の人達は「平等」と「区別」、区別＝差別だと思っている人がたくさんいます。例えば子どもの男女混合名簿。身体測定で男女に分かれます。結局、男女別々の名簿が必要になりますよね？そこはじっくり考えて欲しいです。（女性・藤久保地区）

家事について、私の夫は仕事から帰るとゲームばかりして話も家事もまったくしてくれません。今は妊娠中なのでアルバイト・パートの仕事をしていますが、子育てが落ち着いたら正社員として働きたいと思っていますが、その場合、家のことを夫が手伝ってくれるのか分からず迷っています。私以外にも夫が家事をしてくれなくて困っている方はいっぱいいると思います。なので、私は家庭も会社も男女平等になることを望んでいます。（女性・藤久保地区）

どういった意味での「男女平等」か分かりませんが、体の作りなどからして「平等」は不可能と考えます。何故性別があるか、男には男の役割、女には女の役割が「体のしくみ」上あると思います。それでもその弊害を乗り越え、理解し、歩み寄る踏み入ることは明るい未来に繋がるかもしれない。 「男女平等」云々の前に、「人間」が生きやすく、生きやすい環境作りが重要なのではないのでしょうか。そうすると自ずと「男女平等」にも繋がるかと思えます。（女性・藤久保地区）

私は女性ですが、そもそも最近の男女平等って平等でもなんでもなく、女性の為に〇〇しようが多くて平等とは何だと考えさせられます。今回の質問も女性メイン。男性はこうあるべきという考えがあるから、女性は逆にこうというのが多くて、なんだか矛盾のようなものを感じてしまう。まず個人的には男女平等どうこうより、マナーの悪い人が多過ぎる（三芳町は特にヒドイ）ことの方が気になる。マナーやエチケットも男女平等問題には深く関わってくることだと思うから、まずは三芳町住民にマナー・エチケットとは何かを学んでほしい。（女性・藤久保地区）

男女共同参画は社会的に「女性が子どもを産んでからもずっと仕事を続けられるように」という考えを普及させようと取り組んでいます。子どもにとっては「家に母親が遅くまで帰って来ない」という状況は、精神的に不安定になりやすいのではという懸念があります。母性愛を必要とする子がいるように感じます。また、ジェンダーに関する平等の考え方は大切だと思います。しかし女性雇用を企業が進めるにつれ、女性の雇用のぶん男性職員の雇用が減り、その結果経済的に苦しい家庭が増加してしまわないかが心配です。（特に男性のみの経済力で成り立っている家庭）様々対策を行っていただき有難うございます。更に女性が社会進出した後の今後の三芳町のあり方を思って進めていただければと思います。よろしくお願ひします。（女性・藤久保地区）

男女平等も大事だと思いますが、男女の区別等は必要だと思うので教育に取り入れる際に平等と区別の差などもしっかり教える必要があると思う。（男性・藤久保地区）

### 【30歳代】

「男女平等」と言われてからも何十年も経つのに、あまり変わらないと思う。特に団塊世代の意識は何も変わらない。結婚・出産時には仕事を辞めたり、パートになったりする人が多いのは、職場でそうならざるを得ない雰囲気があるからだと思う。自治体が努力している事は分かるが、町民一人一人の意識問題もあるので、自治体・企業・各施設が協力し受け入れて行くことが必要だと思う。（女性・藤久保地区）

勤務先では男女平等や雇用機会均等法などよく耳にし研修などもありますが、三芳町でもこういった取り組みをしていることを知りませんでした。今回、アンケートに参加する事でそういった活動があることを知ることができ、良い機会をいただきました。日々、仕事で精一杯でなかなか地域活動に参加することができていませんが、今後、三芳町の広報等にももう少し興味を持って注目していきたいと思います。（女性・藤久保地区）

男女平等というのはもちろん進めなければならない事だと思います。しかし、力の差や物事の考え方、行動などはやはり男女の違いがあると思います。教育現場で何事も平等であると教えるのは当たり前であるが、やはり女にしか出来ない事、男にしか出来ない事というのをのばしてあげる事も必要であると思います。平等とは何か、男と女とは何かという事を自身で考える力を育ててあげられたら良いかと思います。（女性・藤久保地区）

子育てをしている母親からすると小さな子どもを預けられる施設はもちろんですが、急な子どもの体調不良の時に仕事を休みにくい、又は、工作中に預け先から連絡が来ても自分以外に面倒を代わってみってくれる人（親戚など）が身近に住んでいないというのがネックです。ファミリーサポートセンターの制度はいいのですが、利用料も度重なると高いと感じます。利用料の上限以降は町で負担してもらえたり、理由によっては無料になる等、あると嬉しいです。（女性・藤久保地区）

男女平等や働く母親を支援する取り組みがメディアで大きく取り上げられ、理解のある企業が増えてきているのは良いことだと思います。しかしながら、「マタハラ」という言葉が氾濫し、何かあるとすぐに「マタハラ」と訴える社会になってきているとも思います。家計のために一生懸命働きたい母親達がいるのも分かりますが、逆に「出世はいらない、時短で楽してお金がもらえてラッキー」という姿勢で仕事をしている人達もいます。注意すれば「マタハラ」や「子どもの

<p>いない人は…」 「結婚していない人は気楽」 などと言われ、これって逆マタハラなのでは？ と思うこともあります。権利だけ主張するのもいかがなものでしょうか？ 本当の意味での「平等」はとても難しいものだと思います。（女性・藤久保地区）</p>
<p>男女平等とよく聞きますが、体のつくり、脳のつくりも男と女では違うので、全てを平等というのは無理だと思います。結局男は子どもを産めないのだし、仕事を休んだりするのは絶対に女性です。男と女、平等にしますとかいうのは、聞こえを良くしているだけだと思います。無理な事もあると思います。それぞれの良さを生かして活動してください。（女性・竹間沢地区）</p>
<p>男女で分けて考える意味がわからない。「その人らしい」 個人で捉えれば良いと思う。そもそも平等な社会はあり得ない。競争意識があるから経済は発展する。何事もバランス感覚と想像力。（女性・みよし台地区）</p>
<p>昔よりは男女平等に近付いていると思うが、男性が生計の大半を担っているため、育児は女性に任せているのが現状です。家事も男性が協力するようになったが、男女を完全に平等にするのは難しいと思うし、完全平等にする必要もないと思う。少子化は日本経済にも影響が出ると思うので、何か対策をするべきだと思います。（男性・北永井地区）</p>
<p>各性別ごとに意識を高め、何事にも過剰にならずに互いに共栄して行くことを最善とし、正しい知識と倫理観を身に付けることが大切だと思います。（男性・藤久保地区）</p>
<p>「男女平等」や「男女共同参画」という言葉はよく聞くが、抽象的すぎていまいち真剣に考える気になれないので、具体的にどういった事が現在問題なのかもっと伝えて欲しい。（男性・藤久保地区）</p>
<p>一般的に「その考えは正しい」と思えるもの（例えば「男女は平等に扱われるべきだ」という考え）でも、理想論に傾き過ぎると現実では機能しないばかりか、返って今まで機能していたものまで壊すことがあるので、「理想とする考え」と、その結果生じる「最悪なケース」を想定しながらより暮らしやすい社会にしてください。（男性・藤久保地区）</p>
<p>人間の長い歴史の中では男性が働き（狩り）女性が家庭（育児・料理）を担い、本能的に定着している。それを変えるには相当な意識改革や仕組み作りが必要。女性が望むなら仕組みを整理する必要があるが、本来男女は役割や性格や本能が違うため、無理に男女平等を当てはめることはしなくていいと感じる。（男性・竹間沢地区）</p>
<p>男女に関係なく、人は生まれた時から平等ではありません。何をもって「平等」なのか、まずはそこを議論していただきたい。（性別不明・北永井地区）</p>
<p>男女平等よりも男女共に安心できる防犯に力を入れてほしい。（性別不明・藤久保地区）</p>
<p>男女は平等にはならないと思う。差別がなくならないのと一緒だからです。男女にかかわらず個々の特性を生かした教育を子どもの頃から行うことで、男女という枠は薄れるのではないのでしょうか。（性別不明・藤久保地区）</p>

#### 【40歳代】

<p>女の人が社会に出て働くには配偶者の理解が必要で、理解してくれる人が少なく思える。女性が働くのが当たり前になればいいのに…と思う。（女性・北永井地区）</p>
<p>そもそも男性と女性では身体をつくりも脳をつくりも違うのだから、男女平等にする事自体不可</p>

<p>能だと思う。だからと言って男性の方が偉いとか思わないし、無理して女性を上立場にする必要もないと思う。その人に合った適材適所が良い。（女性・藤久保地区）</p>
<p>アンケートに参加して、より一層「男女平等」「男女共同参画」の必要があると考じた。女性が働くことにより、高齢化社会を変えていける気がするが一人で思っていたが、同じ思いの人々がいると思えば心配が減り、今より生き生きと毎日を送れそうです。1人のお年寄りを若者が2人以上で支える未来の日本の不安な財政に女性が少しでも社会復帰で加われば、子どもや弱者に大きな安心を与えられると思います（女性・藤久保地区）</p>
<p>男性が仕事にばかり時間を取られる（または親に送金など）→いつの間にか高齢化・ストレス→問6の様な内容になっていることをしっかり熟知して、あらゆる世代に広めていって欲しいです。若～中年世代だけでなく、高齢者が集まる場でも告知していかないと、「男は大丈夫、女がダメ」（うちの息子ちゃんは大丈夫）という考えがそのまま継承されていく。妊娠に関しては男女双方の力が必要。50：50です。まず子育ての前に、そこから認識が不平等。最近タレントさんでも男性不妊などについて語る方達も出てきたので、そういった方達や本・ブログの紹介もして下さい。（女性・藤久保地区）</p>
<p>男女と分けることが小さい頃に起きてしまうことが不自然なのではないでしょうか。皆、変だと思えます。（女性・竹間沢地区）</p>
<p>今までの風習や慣習で植え付けられている男女の立場を変化させてゆくには、企業や行政レベルで環境や制度を整えてからでないと、個人レベルで各々が自発的に考えたり行動するのは少数に留まってしまうと思います。個人が重い腰を上げやすい環境が欲しいです。（女性・みよし台地区）</p>
<p>時代が確実に変化していくのと一緒に、今までの考えを見直し、この先の未来に向けて男女共に暮らしやすい社会を作ってゆくべきだと思います。（男性・北永井地区）</p>
<p>出産や育児休暇というものは、私の親のように共働きだった人達の夢みたいなもの。たくさんの人の努力と理解によって出来たが、現在の女性がただの権利として雑に使えば、いずれ無くなってしまふのではと思う。1年育児休暇を取り、その間にまた1人子どもが出来たので2年目の休暇。そして3年目に退職。このような事が多くなれば、せつかく先人が残したものもすべて消えてしまう。あと、このような制度は大人の為のもので、女性が外に出やすくなった分、子どもは置き去りになってしまう。私は子どもの頃保育所でいつも最後の1人だったが、今もそういう子がいるのは複雑な気持ちだ。大人の権利や平等も大切だが、子どもの言い分も含めるべきだろう。（男性・北永井地区）</p>
<p>男女平等や男女共同参画を進めることで、逆に少子化にも繋がって来る（女性が自立する為）。バランスが難しいのです。（男性・藤久保地区）</p>
<p>ウェブの入力フォームがあれば、もっと細かく書きたいことがあった。（性別不明・藤久保地区）</p>
<p>男性と女性を比較すると、体力面も含め、全く平等に扱おうと無理が生じてくると考えます。適材適所という考えのもと、本件について進めていくことが望ましいと考えます。（性別不明・藤久保地区）</p>
<p>男女平等という言葉に囚われすぎている。男女以前に仕事などに対する意識が低い人には、平等と謳っても何の効果もないと思う。女性に対しての啓発活動の方が必要では。働いた人が損しな</p>



<p>いような取組みに力を入れてもらいたい。（性別不明・藤久保地区）</p>
<p>40 才以上の世代においては男性の意識改革は難しいと経験上考えます。理性で理解する事はできても、感情が納得しない。20 代より若い世代であれば、柔軟な思考を持ち合わせていることで、変化を恐れずに考え方を変えていけると思います。子どもから若い世代に、世界的に男女平等であることがスタンダードであり、日本は遅れているという事実を示していくことが重要と考えます。（性別不明・藤久保地区）</p>

## 【50歳代】

<p>町の上の人がもっとしっかりするべき。（女性・上富地区）</p>
<p>男性と女性では体力・体形からして違います。全てが平等という訳にはいきません。平等に扱うのはどうかと思います。各家庭、仕事場で話し合いをし、自分達が出来た事をやっていく事が大切なように思います。平等という言葉には、少し語弊があるように思います。（女性・上富地区）</p>
<p>今まで気にしたことがなかったので、これを機会に情報等を積極的に勉強しようと思いました。町からも発信をお願いします。（女性・北永井地区）</p>
<p>出産するのは女性にしかできませんが、育児に関しては男性にも可能です。出産後も女性が社会でしっかり働き、育児に不安を感じることなく安心して生活できる社会になるよう希望します。（女性・北永井地区）</p>
<p>日本では、男は仕事・女は家庭にという考えが根強いのだと思います。企業の上層部の方々や女性の年配の方にこの意識があると、なかなか若い世代も男女共同参画実現は遠いと思います。継続的にあらゆる世代への働きかけと学校教育が重要だと思います。（女性・北永井地区）</p>
<p>男性の意識が変わらない限り、いくら女性が進出しても難しいと思う。国会議員を見ていると本当に悲しくなります。昔と何も変わってなくて…。（女性・藤久保地区）</p>
<p>男女平等という言葉に違和感があります。男も女もそうでない人達も、人間として平等であることがとても大事だと思います。普段の生活で思うことですが、大人が子どもの手本になっていないということ（交通ルールが酷い）。四角いスマホ画面の中だけでなく、周りのものに目を向けられる人とかかわりを大切に子ども（大人も）を育てていけば、男女共同参画にも繋がっていくのでは。（女性・藤久保地区）</p>
<p>社会的に男女平等は必要だと思いますが生理的に役割が違い、例えば子育て中など、子どもが体調がすぐれない時にどちらが休むかなど、ということが発生した時に、平等に休めるのかなど難しいことが沢山ありました。私たちの年齢だと、子どもも母親といることを望むような育て方をしていたし、当然母親が休みました。自分自身はそれで勤務先から嫌味など言われずにすごしたので良かったと思っています。（女性・藤久保地区）</p>
<p>男女平等と言っても男女間では感じ方や考え方が違う為、非常に難しいと思います。時間をかけて取り組むべきだと思います。長い歴史的背景を短期間で変えるのは無理。（男性・上富地区）</p>
<p>三芳町が行っている活動について、もっと情報発信すべきだと思います。（男性・藤久保地区）</p>
<p>三芳町内で一人一万円位のお買物券を配布し、地域商店が活性するように具体的に考えると良いと思います。（男性・藤久保地区）</p>
<p>人口減少が加速する中で、女性の活用は重要です。三芳町に住みたいと思われる町になって欲しい</p>

<p>いと思います。（男性・藤久保地区）</p>
<p>男女平等ということは、女性に対する差別だけでなく男性に対する差別も考えなければならず、大変なことだと思う。まずは相手を思いやり、相互に協力し合える社会が大事と思う。（男性・藤久保地区）</p>
<p>この様なアンケート調査から住民の意識を知ろうとされている事に意義を感じます。三芳町の取り組みについて興味を持ちました（今更ながらで申し訳ありませんが）。是非、改善に役立ててください。最後に提出が遅れて申し訳ありませんでした。（男性・藤久保地区）</p>
<p>そもそも人間はみな平等です。「女とは子孫を残せる者」「男とは女でない者」これが定義です。ですので本項、「最後に」は私の書きました女・男に当てはまりません。ただ行政でこれだけの調査書を作成させたことは、それなりの意義は有ろうかと考えております。そこで提案です。今後もこの様なアンケート（設問の意義は違えども）調査を行う場合には、目的と設問を充分にお考え下さいます様、お願い申し上げます。（男性・藤久保地区）</p>
<p>個人の能力を正しく評価するシステムを作ることです。（性別不明・藤久保地区）</p>

## 【60歳代】

<p>男女平等。女性に優しい町になってくれたらと思います。（女性・藤久保地区）</p>
<p>年代的に問題の解決法も様々だと思います。広報として自治体からの多くの発信が必要だと思います。（女性・藤久保地区）</p>
<p>男女共同参画は良い事と思いますが指導的地位に登用する際に、男女同レベルの場合女性に登用しても良いと思うが、%の為に低レベルの女性を使うのは間違いだと思う。（男性・上富地区）</p>
<p>「男女共同参画」に対して、組織に関しては何事も人そのものが基本。組織のトップに立つ人が①見識に優れている。②コミュニケーション能力が高い。③実践力がある（自らの行動で範を示す）。特に②と③が優れている人がトップに立ち、自らの行動力で企画・発案し、実践することが大事。その行動により他の人もついていくと考える。そういった人の発掘で、これからの事業は成否が別れてくると考える。（男性・北永井地区）</p>
<p>性別による仕事の差別、賃金の差別等を無くすようにしたい。（男性・竹間沢地区）</p>
<p>男女平等という言葉は浸透してきましたが、なかなか平等とまでは行きません。男女共同参画に期待します。（性別不明・藤久保地区）</p>
<p>三芳町に住んで40年以上になります。町議会議員の方々の女性に対する意識の低さに、40年前びっくりしました。現在もあまり大きな変化はない様に思います。町長・議員の皆様の女性に対する目線が、民主的に向上するようお願いしたいと思います。とりあえず、その辺から意識改革しなければ条文作りをしてもダメだと思います。（性別不明・藤久保地区）</p>
<p>子ども達を見ていると大変だなと思います。娘は保育者の資格がありますが、子育て中で働きたくても子どもが保育園に入れずに働けない。彼も仕事が忙しくどうしても娘のみの子育て。保育者が足りないと言っているのに、この矛盾。男女を問わず、出来る人が出来る事を。もっと子育てしやすい世の中になれば、子どもが増えるのではと思います。（性別不明・藤久保地区）</p>
<p>一律な平等ではなく体力や性差を考えてみんなが幸せになれるように。弱い立場の人にしわ寄せが全部来ないように、細やかな対応が必要ですね。人生経験豊富な人だけでなく、若い人やいろ</p>

んなメンバーで考えていく場が欲しいです。（性別不明・みよし台地区）
男女平等・共同参画と言われても、現実には男性は会社で仕事、女性は自宅で家事・育児で、平等は語れない。もし推進するのであれば、まず育児や保育等の子育て支援を町としてしっかり行い、優秀な女性が外に出ていける社会を作らねば始まらないと思う。又、男性の休暇をもっと容易に取れるような体制を、会社・国で作らねばならない。（性別不明・みよし台地区）

**【70歳以上】**

男でなければ、女でなければ出来ないことがあるのでは。家庭内においても男（父）女（母）の役割を分担しつつ、男女で協力して営むべきではないかと思っています。（女性・上富地区）
町行政で積極的な取組みを求む。（女性・藤久保地区）
今迄、近隣者ともトラブル等もなく生きて参りましたが、気が付いたら高齢者が多くなり先々が思いやられています。が、近隣者のやさしさに支えられて生きて行くつもりでいます。三芳町に住んでいて良かったと思っています。（回答の）ピントがずれていますが御容赦ください。（女性・藤久保地区）
男女平等とは女性の社会参加の出来る仕組みを作ること。育児の支援、保育園の充実、男性の理解。（男性・上富地区）
この課題のネックは女性自身にある。男性が悪い、社会が悪い、企業が悪い……では一步も前に進まないと思う。（男性・藤久保地区）
本人の自覚。（男性・竹間沢地区）
平成8年頃、男女共同参画プランが作成されたと思うが、まだ日が浅く、高齢者（戦争体験者）の意識改革は理解していても難しい。（男性・竹間沢地区）
日本はヨーロッパや諸外国と比較して女性に対して偏見をもつ男性が多くいます。私は子どもを育てて来ましたが幼児教育の段階から、日本では親の教育的観点からして不足していると思っています。家庭内の教育と学校での教育は基本違いますが、日本の若い家庭の教育を家々の問題として捉えています。日本の戦後教育は民主主義が大変遅れています。それは学校の先生方にも問題があると思っています。もっと学校では民主主義や自由について教育してほしい。（性別不明・竹間沢地区）



## VI アンケート調査票



# 三芳町男女共同参画に関する住民意識調査

## ご協力をお願い

日頃より町政にご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

三芳町では男女が、対等な立場で責任を担いながら、あらゆる分野でそれぞれの個性や能力をのびのびと発揮できる、男女共同参画社会の実現をめざして、平成 18 年度より 10 年間で計画期間とする「第 2 次三芳町男女共同参画基本計画」を策定し、さまざまな施策に取り組んでまいりました。この第 2 次三芳町男女共同参画基本計画は平成 27 年度をもって計画期間が終了するため、平成 28 年度以降の三芳町における男女共同参画社会の形成を促進するための指針となる「第 3 次三芳町男女共同参画基本計画」を策定いたします。つきましては、住民の皆様の男女平等意識や男女共同参画の実態を把握し、計画策定に反映させるための基礎資料とするため、「三芳町男女共同参画に関する住民意識調査」を実施させていただきます。

この調査は、町内にお住まいの 20 歳以上の方 1,000 人を住民基本台帳から無作為に抽出した結果、あなた様にご回答をお願いすることになりました。ご回答はすべて無記名で行い、すべて統計的に処理し、他の目的には一切使用いたしませんので、率直にご回答ください。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、より多くの皆さまのご意見を反映いたしたく、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成 27 年 4 月

三芳町長 林 伊佐雄

### 《ご記入にあたってのお願い》

- 調査の対象者
  - ◇ 三芳町に居住する 20 歳以上の住民 1,000 人を無作為に抽出し、実施するものです。
  - ◇ 封筒の宛名の方が対象者ですので、ご本人が回答してください。（ご本人の記入が困難な場合は、身の回りの世話をしている方が聞き取りするなどして、できるだけ回答にご協力ください。）
- 記入方法
  - ◇ 選択肢の設問については、該当する番号に○をつけてください。
  - ◇ 自由回答（記入式）の設問については、あなたのお考えを簡単にまとめて回答欄に記入してください。
- 返送方法と締め切り
  - ◇ 回答をご記入後、同封の返信用封筒にアンケート用紙を入れ、お近くの郵便ポストに投函してください。 **5月11日（月）までにご返送をお願いします。**
- お問い合わせ先
  - ◇ このアンケートについてのお問い合わせは、下記へお願いします。  
三芳町役場 総務課 人権・庶務担当  
電話 258-0019（内線404・405）

## I あなた自身について

【問1】 まず回答者ご自身のことについてお聞きします。次の(ア)～(キ)の各項目について、該当する番号に○をつけてください。

(ア) 居住地区	1 上富地区 2 北永井地区	3 藤久保地区 4 竹間沢地区	5 みよし台地区
(イ) 性別	1 女性	2 男性	
(ウ) 年齢	1 20～29歳 2 30～39歳 3 40～49歳	4 50～59歳 5 60～69歳 6 70歳以上	
(エ) 就労形態	1 農業(家族従事者を含む) 2 自営業(商・工・サービス業) 3 常勤の勤め (会社員・公務員・教員など) 4 派遣・契約社員 5 パート・アルバイト	6 在宅の仕事(内職) 7 自由業 8 家事専業 9 無職(定年退職を含む) 10 学生 11 その他( )	
(オ) 三芳町での 居住年数	1 2年未満 2 2～4年 3 5～9年	4 10～19年 5 20～29年 6 30年以上	
(カ) 未婚・既婚 (未届を含む)	1 結婚している 2 結婚の経験はない	3 結婚したが離別・死別した	
(キ) 同居の 家族構成	1 ひとり暮らし 2 夫婦のみ(一世代家族) 3 親と未婚の子ども(核家族)	4 親と子ども夫婦(二世代家族) 5 親と子どもと孫(三世代家族) 6 その他( )	

## II 男女平等意識について

【問2】 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。

**1つだけ**選んで、番号に○をつけてください。

- |                  |   |         |
|------------------|---|---------|
| 1 そう思う           | } | 【問2-①】△ |
| 2 どちらかといえばそう思う   |   |         |
| 3 そう思わない         | } | 【問2-②】△ |
| 4 どちらかといえばそう思わない |   |         |
| 5 どちらともいえない      |   |         |

【問2-①】 前問(問2)で「1 そう思う」「2 どちらかといえばそう思う」とお答えの方にお聞きします。あなたが、そう思う主な理由は何ですか。

**(○は2つまで)**

- 1 男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから
- 2 自分の両親などがそのようにしてきたから
- 3 夫婦の役割をはっきりさせるほうが仕事も家庭もうまくいくから
- 4 女性は仕事を持って不利益な条件におかれているから
- 5 社会全体にそうした風潮があるから
- 6 その他( )



【問2-②】 前問(問2)で「3 そう思わない」「4 どちらかといえばそう思わない」とお答えの方にお聞きします。あなたが、そう思う主な理由は何ですか。

(○は2つまで)

- 1 男女ともに仕事を持つのは当然だから
- 2 家事・育児は男女で協力してやるべきだから
- 3 仕事と家庭は男女のどちらが分担してもよいから
- 4 性別で役割を固定化することは個人の可能性を狭めるから
- 5 その他 ( )

### Ⅲ 家庭生活(家事・子育て・介護)について

【問3】 あなたは、(ア)～(ケ)にあげることを日常どの程度おこなっていますか。(○はそれぞれ1つ)

	いつも おこな う	とき とき する	ほと んど し ない	ま った く し ない	す る 必 要 が な い
(ア) 食事のしたく	1	2	3	4	5
(イ) 食料品・日用品の買い物	1	2	3	4	5
(ウ) 洗濯	1	2	3	4	5
(エ) 掃除	1	2	3	4	5
(オ) ごみ出し	1	2	3	4	5
(カ) 要介護者の介護	1	2	3	4	5
(キ) 育児・子育て	1	2	3	4	5
(ク) 学校行事等の参加(保育所・幼稚園含む)	1	2	3	4	5
(ケ) 子どもの送迎	1	2	3	4	5

【問4】 平日にあなたが家事・子育て・介護にかかわる時間は、平均すると1日何時間くらいになりますか。(○は1つだけ)

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1 30分未満     | 7 5～6時間未満  |
| 2 30分～1時間未満 | 8 6～7時間未満  |
| 3 1～2時間未満   | 9 7～8時間未満  |
| 4 2～3時間未満   | 10 8時間以上   |
| 5 3～4時間未満   | 11 特にしていない |
| 6 4～5時間未満   |            |

【問5】 家庭での子育てや、学校での教育に関する（ア）～（オ）の考え方について、あなたは  
 どう思いますか。 **（○はそれぞれ1つ）**

	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い
（ア） 男の子は男らしく、女の子は女らしく、育てるべきである	1	2	3	4
（イ） 家事は男の子・女の子にかかわらず、平等に手伝わせるべきである	1	2	3	4
（ウ） 男女の身体の違いや、それに伴う性教育は、子どものときから教えたほうがよい	1	2	3	4
（エ） 生徒の名簿は、五十音順にするなど混合名簿にし、男女で分けないほうがよい	1	2	3	4
（オ） 技術・家庭科などを通じて、男女共に、実際の、実技的な教育を行うことが必要である	1	2	3	4

【問6】 一人の女性が生涯に産む子どもの数の平均は、1.43人（2013年）となっています。  
 少子化の要因は何だと思えますか。 **（○は3つまで）**

- 1 社会の将来を考えると、子どもにとって明るい未来とはいえないから
- 2 出産・子育てが女性の自立の妨げになっているから
- 3 子育てよりも自分たちの生活を楽しまたいと考えているから
- 4 女性の結婚年齢があがったから
- 5 子育ては経済的負担が大きいから
- 6 子育ては精神的・肉体的負担が大きいから
- 7 子どもは少なく産んで十分に手をかけて育てたいという人が増えたから
- 8 子どもを育てるということに魅力を感じない人が増えたから
- 9 住宅事情がよくないから
- 10 保育施設、育児休暇などが十分整っていないから
- 11 育児に対する男性(夫)の理解や協力が足りないから
- 12 その他 ( )

【問7】 あなたの家族の中で介護の必要な方が出た場合に、どのように対応しますか。現在介護をしている方は、今後の希望としてお答えください。 **(○は1つだけ)**

- 1 自分で介護する
- 2 同居の家族で介護する
- 3 同居していない親族に頼む
- 4 介護サービスを利用しながら自宅で介護する
- 5 介護施設を利用する
- 6 まだわからない
- 7 その他 ( )

【問8】 あなたご自身が、介護が必要になった場合、誰に介護を頼みたいと思いますか。 **(○は1つだけ)**

- 1 配偶者（パートナー）
- 2 娘
- 3 娘の配偶者
- 4 息子
- 5 息子の配偶者
- 6 その他の親族（兄弟姉妹等）
- 7 介護保険サービスの利用（デイサービスや施設入所等）
- 8 その他 ( )

【問9】 今後、性別にかかわらず家事・子育て・介護を積極的に行っていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。 **(○は3つまで)**

- 1 学校で男女平等意識を育てる教育をする
- 2 男女の役割分担をなくすための啓発活動をさらに進める
- 3 育児・介護休業制度の一層の普及を図る
- 4 男性が仕事中心の生き方・考え方を改め、家事などに参加することの抵抗感をなくす
- 5 女性が男性の家事参加への抵抗感をなくす
- 6 企業等が男女ともに仕事と家庭生活を両立できる職場環境を整える
- 7 労働時間を短縮する
- 8 フレックスタイム制（※注）や在宅勤務などを普及させる
- 9 その他（具体的に )

（※注）フレックスタイム制・・・労働者が一定の定められた時間帯の中で労働の始期と終期を自由に決定できる労働時間制

#### IV 就業について

【問10】 あなたは、働いたことがありますか。(パート、自営業、臨時、内職等も含みます)

**(○は1つだけ)**

- 1 現在働いている
- 2 以前は働いていたが、今は働いていない
- 3 今まで働いたことがない

**【問10-③】へ(次ページ)**

--▶ **【10-①】** 前問(問10)で、「1 現在働いている」と答えた方にお聞きします。  
あなたが働いて収入を得ている理由はどのようなことですか。 **(○は3つまで)**

- 1 生計を維持するため
- 2 生活費補助のため
- 3 将来に備えて貯蓄するため
- 4 自分で自由になる収入がほしいため
- 5 自分の能力、技能、資格を生かすため
- 6 働くことが好きだから
- 7 社会や人とのつながりをもつため
- 8 社会的な信用を得るため
- 9 経済的に自立をするのはあたりまえだと思うから
- 10 家業だから
- 11 その他( )

--▶ **【問10-②】** 前問(問10)で、「1 現在働いている」と答えた方にお聞きします。  
あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して次のようなことがありますか。 **(あてはまるものすべてに○)**

- 1 賃金に男女差がある
- 2 昇進、昇格に男女差がある
- 3 能力を正當に評価しない
- 4 配置部署が限られている
- 5 女性を管理職に登用しない
- 6 補助的な仕事しか担当させない
- 7 結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある
- 8 中高年以上の女性に退職を勧奨するような雰囲気がある
- 9 教育や研修を受ける機会が少ない
- 10 特に男女差はない
- 11 その他( )

【問 10-③】 前問（問 10）で、「2 以前は働いていたが、今は働いていない」「3 今まで働いたことがない」と答えた方にお聞きします。あなたが、現在働いていない理由は次のどれにあたりますか。（○は3つまで）

- 1 経済的に困らないから
- 2 家事・育児に専念したいから
- 3 家事・育児と両立できないから
- 4 子どもの預け先が見つからないから
- 5 とりたてて働きたいと思わないから
- 6 介護をしているから
- 7 病気療養しているから
- 8 職業能力に自信がもてないから
- 9 希望や条件にあう仕事が見つからないから
- 10 趣味や社会活動など他にやりたいことがあるから
- 11 家族の反対があるから
- 12 高齢だから
- 13 その他（ ）

【問 1 1】 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。（○は1つだけ）

- 1 結婚や出産にかかわらず、ずっと職業をもち続ける
- 2 子育ての時期だけ一時やめて、その後もフルタイムで働く
- 3 子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで働く
- 4 子どもができるまでは仕事をもち、その後はもたない
- 5 結婚するまでは仕事をもつが、結婚後はもたない
- 6 その他（ ）

【問 1 2】 女性が長く働き続けるのを困難にしたり、障害になっているのはどんなことだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 家事・育児との両立
- 2 家族の介護
- 3 長時間労働等による男性の家事・育児への参加が困難な社会システム
- 4 子どもが3歳になるまでは、母親は育児に専念するべきだとの意識
- 5 家族の無理解
- 6 職場の結婚・出産退職の慣行
- 7 長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分なこと
- 8 昇進・教育訓練などでの男女の不公平な取扱い
- 9 女性自身の職業に対する自覚の不足
- 10 わからない
- 11 その他（ ）

## V 人権の尊重について

【問13】 あなたは今までに、職場や学校などで、セクシャル・ハラスメント（性的いやがらせ）を受けた経験、または見たり聞いたりしたことがありますか。該当する番号に○をつけてください。 **（○は1つだけ）**

- 1 ある } **【問14】へ**  
 2 ない }

→ 【問13-①】 前問（問13）で、「1 ある」と答えた方にお聞きします。それは、どのような行為でしょうか。 **（あてはまるものすべてに○）**

- 1 嫌がっているのに、性的な話を聞かされた
- 2 「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた
- 3 異性に不必要に触られた
- 4 宴会などでお酌やデュエットを強要された
- 5 交際を強要された
- 6 性的な行為を強要された
- 7 性的な噂をたてられた
- 8 結婚すること、しないことを話題にされた
- 9 容姿や年齢で不愉快なことを話題にされた
- 10 わいせつな画像などを見せられた
- 11 その他（ ）

【問14】 配偶者や親密な関係にある人からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）が問題になっていますが、あなたは今までに、（ア）～（ス）のような行為を受けたことがありますか。 **（○はそれぞれ1つ）**

	何度もあった	1・2度あった	まったくない
（ア） 命の危険を感じるくらいの暴力	1	2	3
（イ） 医師の治療が必要な程度の暴力	1	2	3
（ウ） 医師の治療が必要とまらない程度の暴力	1	2	3
（エ） 何を言っても、長時間の無視	1	2	3
（オ） 暴言・大声でどなる	1	2	3
（カ） 危害の不安・恐怖を感じるようなおどし	1	2	3
（キ） 大切にしているものを故意にこわす	1	2	3
（ク） 嫌がるのに、性的な行為を強要	1	2	3
（ケ） 避妊に協力しない	1	2	3
（コ） 見たくないのに、ポルノビデオ・雑誌を見せる	1	2	3
（サ） 交友関係や電話、メール、郵便物を細かく監視	1	2	3

※（次のページに続きます）

(シ) 仕事を無理やりやめさせられる	1	2	3
(ス) 生活費を渡さないなど経済的な制裁	1	2	3

※問 14 の (ア) ~ (ス) までの設問で「何度もあった、1・2 度あった」に 1 つでも ○ があれば【問 14-①、②】へ  
○ がなければ【問 15】へ

→ 【問 14-①】 前問 (問 14) で 1 つでも「何どもあった」「1・2 度あった」と答えた方にお聞きします。あなたは、その受けた行為に対して、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。 (○は1つだけ)

- 1 相談した } 【問 15】へ  
2 相談できなかった }  
3 相談しようとは思わなかった } 【問 14-②】へ

【問 14-②】 前問 (問 14-①) で「2 相談できなかった」「3 相談しようとは思わなかった」と答えた方にお聞きします。相談しなかった理由は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

- 1 どこに相談してよいのかわからなかったから
- 2 相談しても無駄だと思ったから
- 3 世間体が悪いから
- 4 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
- 5 相談したことがわかると、仕返しを受けると思ったから
- 6 自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていけると思ったから
- 7 自分にも落度があると思ったから
- 8 他人を巻き込みたくなかったから
- 9 相談するほどのことではないと思ったから
- 10 思い出したくないから
- 11 その他 ( )

【問 15】 あなたは、配偶者等から暴力を受けた人への取り組みとして、どのようなことが必要だと思いますか。 (あてはまるものすべてに○)

- 1 暴力防止のための啓発を進める
- 2 被害を受けて悩んでいる人たちへ支援等の情報を提供する
- 3 被害を受けた人たちのための相談体制・窓口を充実する
- 4 シェルターなど被害者を保護する体制を充実する
- 5 被害者が自立して生活できるように支援する
- 6 暴力をふるう加害者への対策を進める
- 7 その他 ( )

## VI 地域での社会参画について

【問16】 あなたは現在、次のような地域の活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 町会や自治会などの活動
- 2 PTA、子ども会や青少年に関する団体の活動
- 3 趣味、教養、スポーツ等の活動
- 4 公園や集会所などの地域の施設整備活動
- 5 高齢者、障がい者、児童等の福祉活動
- 6 自然保護やごみ問題など環境保全に関する活動
- 7 政治や行政に関する活動
- 8 女性団体・グループなどの活動
- 9 国際交流・協力に関する活動
- 10 その他 ( )
- 11 特に何もしていない

↓  
【問16-①】 前問(問16)で「11 特に何もしていない」と答えた方にお聞きします。それはどのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 仕事が忙しい
- 2 家事・育児が忙しい
- 3 病人や要介護者がいる
- 4 家族の協力が得られない
- 5 健康に自信がない
- 6 情報がない
- 7 一緒に活動する仲間がいない
- 8 興味がない
- 9 その他 ( )

【問17】 地域活動の担い手は、女性が多い傾向にありますが、会長やリーダーに女性が少ない原因は何だと思えますか。(○は2つまで)

- 1 女性自身がリーダーになりたがらないから
- 2 女性は組織活動の経験が少ないから
- 3 女性では、相手に軽く見られるから
- 4 指導力のある女性が少ないから
- 5 男性がリーダーとなるのが社会慣習だから
- 6 女性がリーダーだと男性がついてこないから
- 7 女性は家事・育児などで地域活動に専念できないから
- 8 その他 ( )



【問18】 国の目標では指導的地位に女性が占める割合を2020年までに30%となっており、三芳町の政策・方針を決定する審議会等の女性委員の割合は、24.1%（平成26年4月1日現在）です。これらの分野に女性の参画が進むことによって、社会がどうなることを期待しますか。**（○は1つだけ）**

- 1 町政が身近になる
- 2 男性中心の考え方に変化が生じる
- 3 男女平等社会に向けて施策が推進される
- 4 行政に対する要望がきめ細くなる
- 5 何も期待しない
- 6 わからない
- 7 その他（ ）

## Ⅶ 男女共同参画社会に向けた取り組みについて

【問19】 あなたは、男女共同参画社会（男女が対等な立場で、社会のあらゆる活動に共に参画し、責任を分かち合う社会）の実現に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。**（あてはまるものすべてに○）**

- 1 女性に対する偏見をなくす
- 2 差別的な社会的しきたり・慣習を改める
- 3 女性が経済力を持つ
- 4 男性の意識改革に努める
- 5 家庭や学校において男女は平等であるという教育を徹底させる
- 6 偏見や嫌がらせに負けない強い心を育てる
- 7 クォータ制（割当制）を導入して、女性を政治の場や公共性のある職場に進出させる
- 8 男女平等のために法律や制度などの整備を図る
- 9 女性が社会の一員としての自覚を高める
- 10 その他（ ）

【問20】 政府は次のような男女共同参画についての方針を出していますが、聞いたことがありますか。**（あてはまるものすべてに○）**

- 1 指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%とする目標に向けた取り組みの推進
- 2 ポジティブ・アクション（※注）を自主的な取り組みとして目指している企業の割合を、平成26年度までに40%を超えることを推進している

（※注）ポジティブ・アクション・・・固定的な男女の役割分担意識や過去の経緯から、男女労働者の間に差が生じている場合、このような差を解消しようと、個々の企業等が行う自主的かつ積極的な取り組み

【問21】 次あげる(ア)～(サ)の言葉について、あなたの知っているものはどれですか。

(○はそれぞれ1つ)

	内容を知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない
(ア) 男女共同参画社会	1	2	3
(イ) 男女雇用機会均等法	1	2	3
(ウ) 育児・介護休業法	1	2	3
(エ) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)	1	2	3
(オ) ジェンダー(社会的・文化的につくられた性別)	1	2	3
(カ) ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3
(キ) デートDV	1	2	3
(ク) 三芳町男女共同参画基本計画	1	2	3
(ケ) 「三芳町男女共同参画推進会議」の設置	1	2	3
(コ) 三芳町男女共同参画情報誌「まなざし」	1	2	3
(サ) 三芳町女性相談	1	2	3

【問22】 今後、三芳町が男女共同参画推進施策としてどのようなことに力をいれていったらよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 男女平等に関する意識の啓発活動
- 2 学校教育における男女平等意識の徹底
- 3 女性の就労支援や再就職に役立つ学習機会の提供
- 4 相談窓口の充実
- 5 男性対象のセミナーや講座の充実
- 6 育児や保育など子育て支援の充実
- 7 高齢者や病人の介護制度や施設の充実
- 8 配偶者からの暴力等の被害者支援
- 9 男女共同参画社会実現のための条例制定
- 10 審議会などに女性委員を増やすなどの女性の積極的な登用
- 11 町内企業に対して男女共同参画の意識啓発活動を行う
- 12 防災・災害復興対策に女性に配慮した対策をいれる
- 13 その他 ( )
- 14 特になし

最後に、「男女平等」や「男女共同参画」に関するご意見・ご要望がありましたら自由にお書きください。

-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----

これで調査は終了です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。  
5月11日（月）までに同封の返信用封筒に入れ、ご返送ください（切手不要）。

三芳町男女共同参画に関する住民意識調査  
調査結果報告書

発行 平成27年6月

編集 三芳町役場 総務課

〒354-8555 埼玉県入間郡三芳町大字藤久保 1100 番地 1

Tel 049-258-0019 Fax 049-274-1055

ホームページ <http://www.town.saitama-miyoshi.lg.jp/>

